

## 調査の概要

### 1. 調査概要

#### (1) 調査目的

小・中学校に通う児童生徒の授業や学習に対する意識、生活実態、自分の通う学校に対する評価などを明らかにする。

#### (2) 調査方法

##### ア. 調査対象および対象校数

###### 調査対象

全国の公立小学校に通う児童(小学校4年生～6年生)および、公立中学校に通う生徒(中学校1年生～3年生)。

###### 対象校数

小学校 15 校、中学校 10 校。

##### イ. 調査対象校の抽出方法

全国の公立小・中学校の学校リストより無作為抽出を行った。

###### 【地域ブロックごとの内訳】

	小学校	中学校	地域区分：
北海道	0	1	北海道
東北	1	2	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	7	4	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県
中部	5	0	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	0	1	滋賀県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県
中国	1	1	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	0	0	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	1	1	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計	15	10	

##### ウ. 調査対象

調査対象校の対象学年のすべての児童生徒を対象とした(学校の都合により、一部の学年・クラスのみで実施したケースを含む)。

## エ．調査の実施方法

学校通しの質問紙による自記式調査。

## オ．調査時期

2005年3月。

### (3)調査項目

調査項目の構成は以下の通りである。

#### **学校での勉強の様子について**

- ・教科や活動の好き嫌い
- ・授業や学習活動の好き嫌い
- ・授業中の様子、授業に対する意識
- ・「総合的な学習の時間」に対する意識
- ・習熟度別授業に対する意識

#### **学校や勉強に対する意見について**

- ・学校生活の満足度
- ・学校の楽しさ
- ・学校生活で身につける必要がある力
- ・勉強する理由
- ・学校や先生に望むこと

#### **家庭での生活の様子と将来の仕事について**

- ・平日の起床・就寝時間
- ・朝食の様子
- ・平日・休日の家庭学習時間
- ・平日・休日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームの時間
- ・通塾の状況
- ・休日の過ごし方
- ・将来の仕事

## 2．回収結果

調査票の有効回答数は、次の通りである。

- ・小学生調査・・・3,350通
- ・中学生調査・・・2,924通

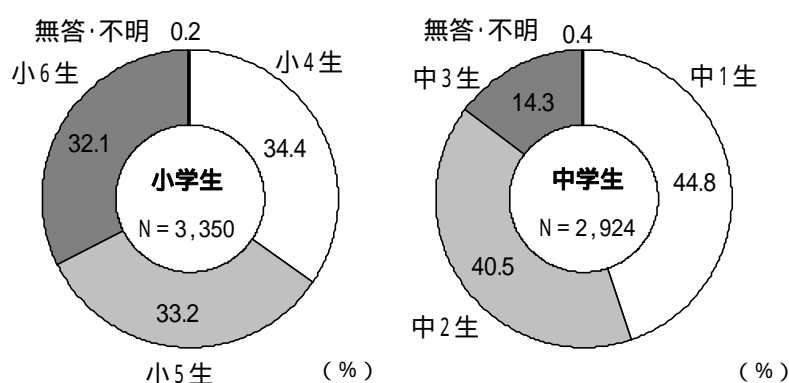
### 3. 回答者の特性

#### (1) 学年

小学生回答者の学年は、「4年生」が34.4%、「5年生」が33.2%、「6年生」が32.1%、「無答・不明」が0.2%であった。

中学生回答者の学年は、「1年生」が44.8%、「2年生」が40.5%、「3年生」が14.3%、「無答・不明」が0.4%であった。これは、調査実施時期が卒業式の時期と重なったことにより、「3年生」の配布数が少なくなったためである。

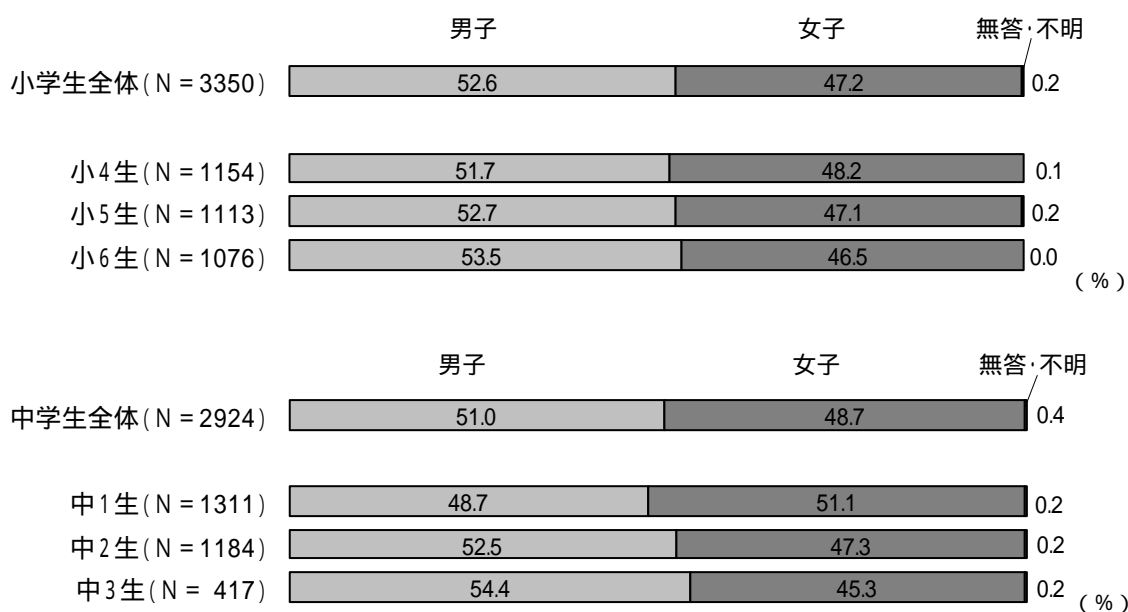
以下では、小学4年生を「小4生」、中学1年生を「中1生」のように表記する。



#### (2) 性別

小学生回答者の性別は、「男子」が52.6%、「女子」が47.2%、「無答・不明」が0.2%と、男子がわずかに多い。

中学生回答者の性別は、「男子」が51.0%、「女子」が48.7%、「無答・不明」が0.4%と、男子がわずかに多い。



# 1章 学校での勉強の様子

## 1. 教科や活動の好き嫌い

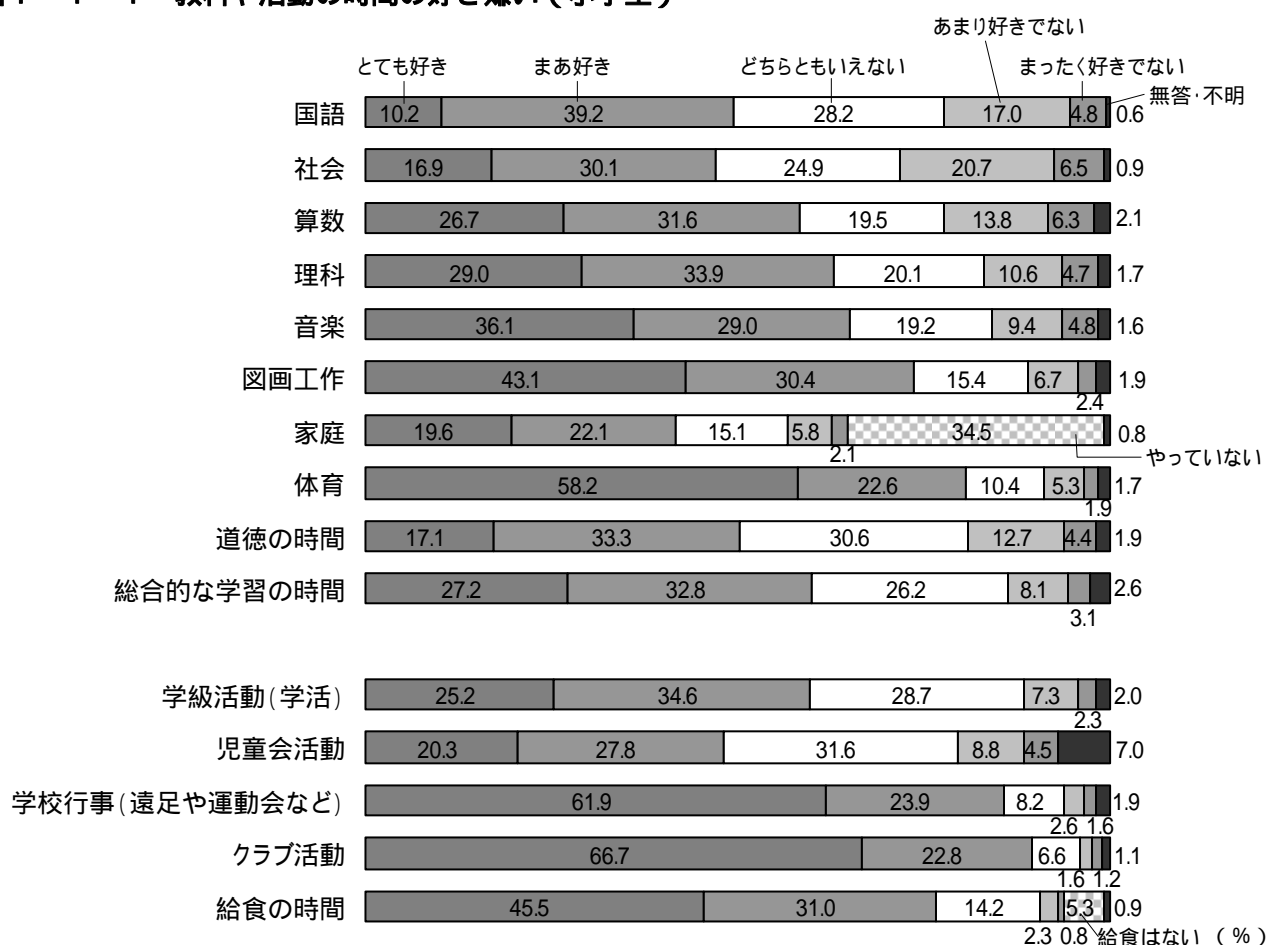
小学生に、図1-1-1に示した教科や活動の時間がどれくらい好きかを聞いた。

まず、教科について、34.5%が「やっていない」と答えている「家庭」を除いて見てみると、「好き」（「とても好き」と「まあ好き」の合計、以下同様）と答えた比率が高いのは、「体育」（80.8%）、「図画工作」（73.5%）、「音楽」（65.1%）であった。

一方、「好き」と答えた比率が低かったのは、「国語」（49.4%）、「社会」（47.0%）であり、半数を切っている。また、「総合的な学習の時間」については、60.0%となっており、概ね受け入れられているといえる。

次に、特別活動について見てみると、「好き」と答えた比率は、「学校行事（遠足や運動会など）」（85.8%）、「クラブ活動」（89.5%）でとくに多くなっている一方で、「児童会活動」（48.1%）は、教科の「国語」や「社会」と同じ程度である。

図1-1-1 教科や活動の時間の好き嫌い（小学生）

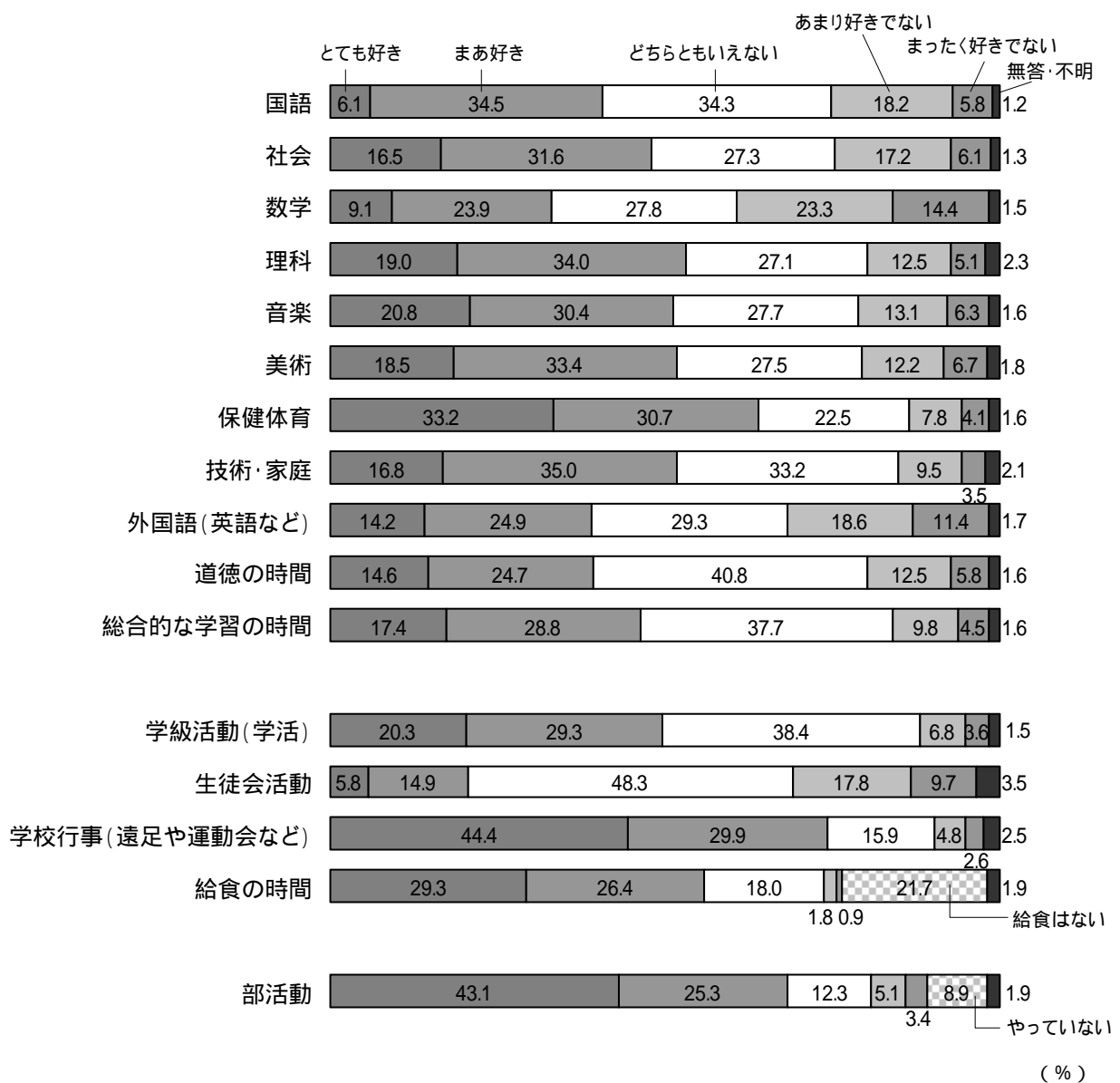


次に、中学生に対して教科や活動の時間がどれくらい好きかを聞いた結果である（図1-1-2）。

まず、教科について見てみると、「好き」と答えた比率がもっとも高かったのは、「保健体育」（63.9％）であった。一方、「好き」と答えた比率がもっとも低かったのは、「数学」（33.0％）であり、数学が好きなのは3人に1人程度だということがわかる。また、「総合的な学習の時間」については、「好き」が46.2％となっており、好きだという認識をもっている中学生は半数程度である。

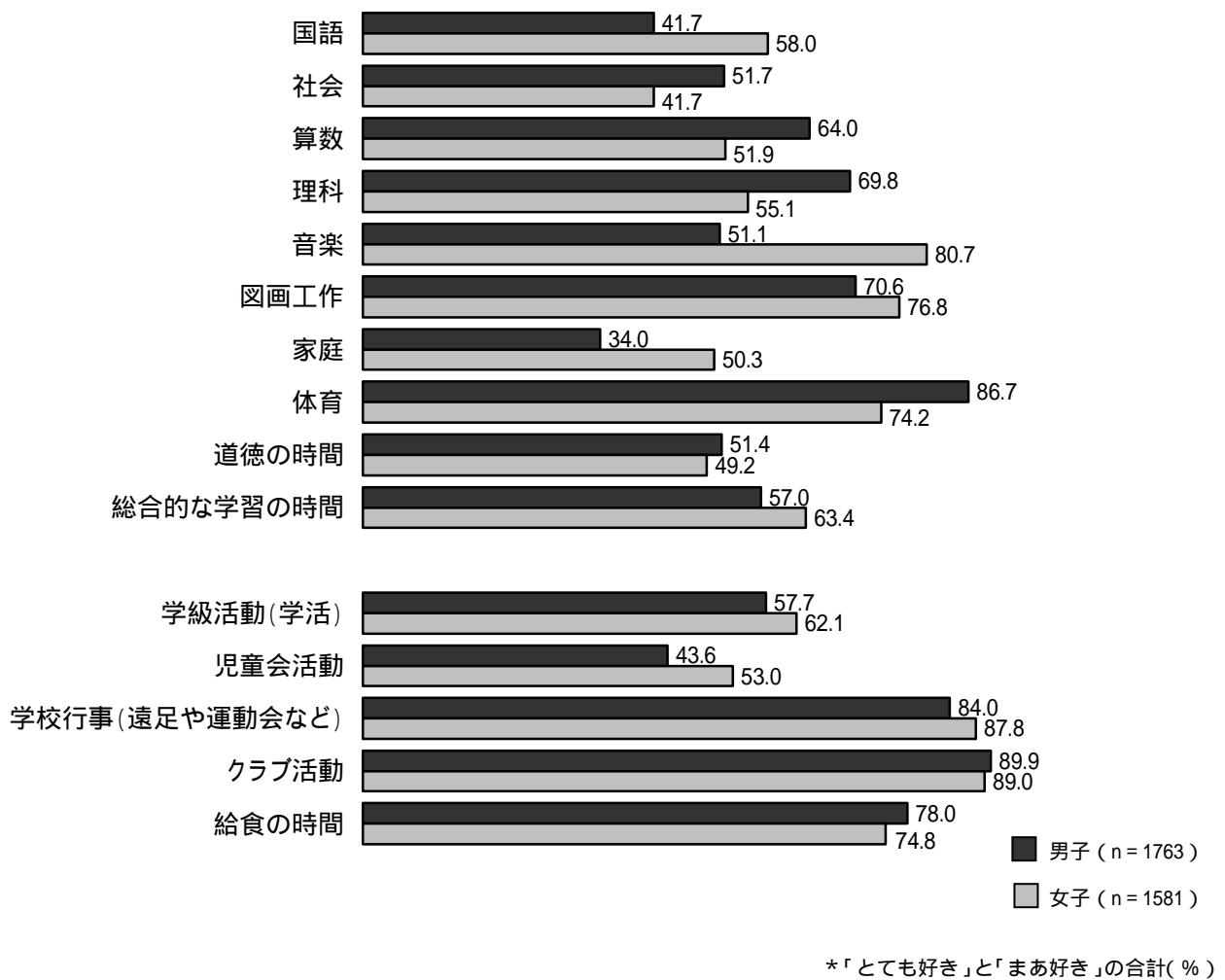
つづいて、活動について見てみると、「好き」と答えた比率は、「学校行事(遠足や運動会など)」（74.3％）、「部活動」（68.4％）でとくに高くなっており、中学生に受け入れられている一方で、「生徒会活動」（20.7％）はもっとも数値が低く、教科と比較しても「好き」という回答は少ない。

図1-1-2 教科や活動の時間の好き嫌い（中学生）



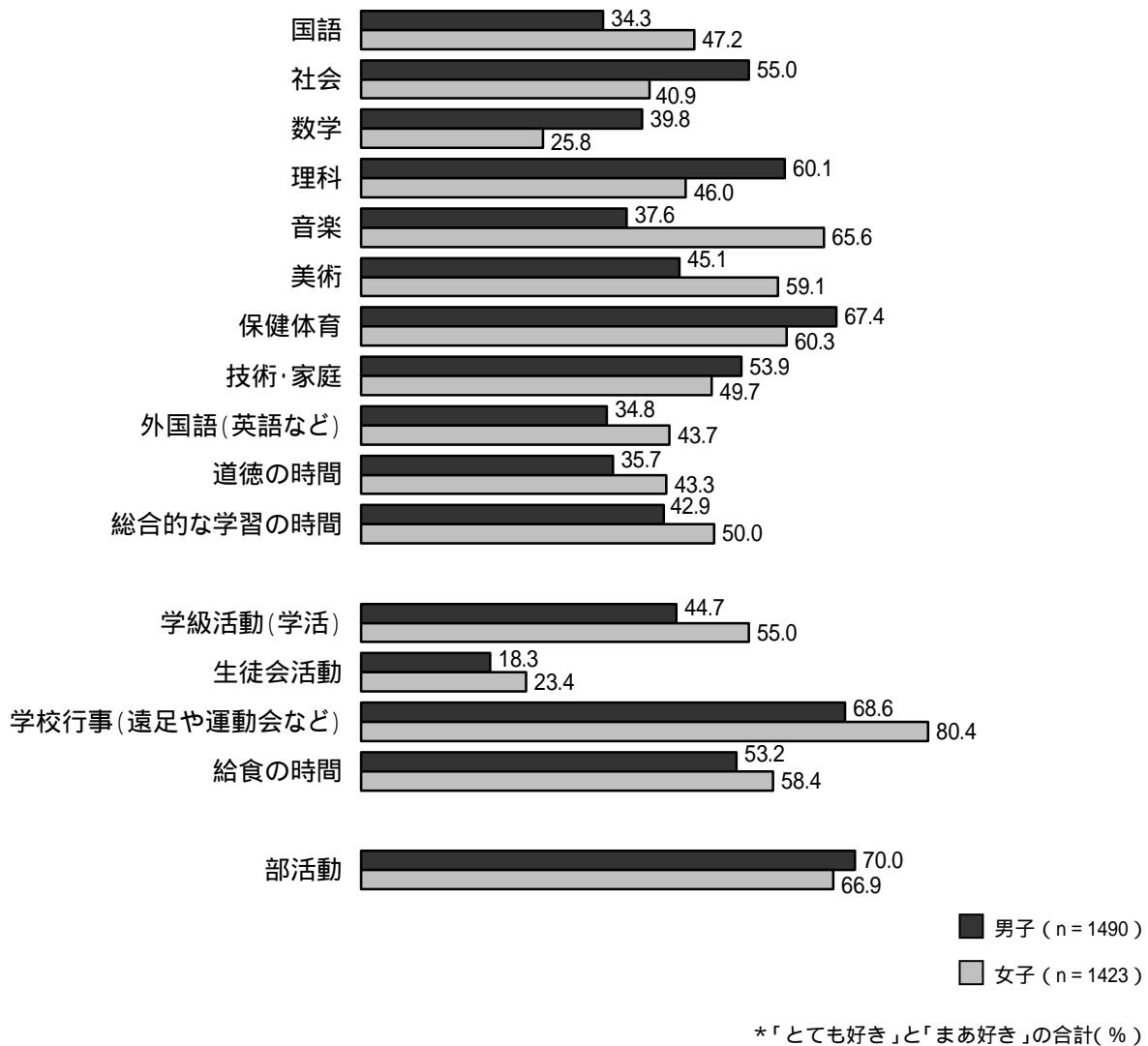
次に、教科や活動の好き嫌いについて性別で見てみよう。まず、小学生（図1-1-3）の結果であるが、「国語」（「とても好き」と「まあ好き」の合計：男子41.7%＜女子58.0%、以下同様）、「音楽」（51.1%＜80.7%）、「家庭」（34.0%＜50.3%）で、男子よりも女子が「好き」と回答する割合が高かった。一方、とくに女子よりも男子の方が「好き」の回答が多かった教科は、「算数」（64.0%＞51.9%）、「理科」（69.8%＞55.1%）、「体育」（86.7%＞74.2%）などであった。なお、活動については、男女差が10ポイントを超える大きな差は、見受けられなかった。

図1-1-3 教科や活動の時間の好き嫌い（小学生・性別）



さらに、中学生（図1-1-4）について、教科や特別活動の好き嫌いを性別で見たところ、とくに「音楽」で、男子よりも女子に「好き」「とても好き」と「まあ好き」の合計：男子37.6%＜女子65.6%、以下同様）と回答する割合が高かった。一方、とくに女子よりも男子の方に「好き」が多かった教科、「社会」（55.0%＞40.9%）、「数学」（39.8%＞25.8%）、「理科」（60.1%＞46.0%）であった。

図1-1-4 教科や活動の時間の好き嫌い（中学生・性別）



つづいて、学年別に、次の教科や特別活動の時間について「好き」「とても好き」と「まあ好き」の合計)の回答率を見てみると(図1-1-5)、全体的に、学年が上がるにつれて、「好き」と答える割合は低くなっている。その中でも、「算数・数学」は学年による変動が激しく、小6生から中1生での差が、26.5ポイントの減少となっており、その後、中2生、中3生で若干持ち直している。また、「総合的な学習の時間」は、他の教科と比べて、比較的上位を安定的に推移していることがわかる。

図1-1-6は、学校段階ごとに見たものであるが、「算数・数学」で小学生と中学生の差が大きいことがわかる。

図1-1-5 教科や活動の時間の好き嫌い(学年別)

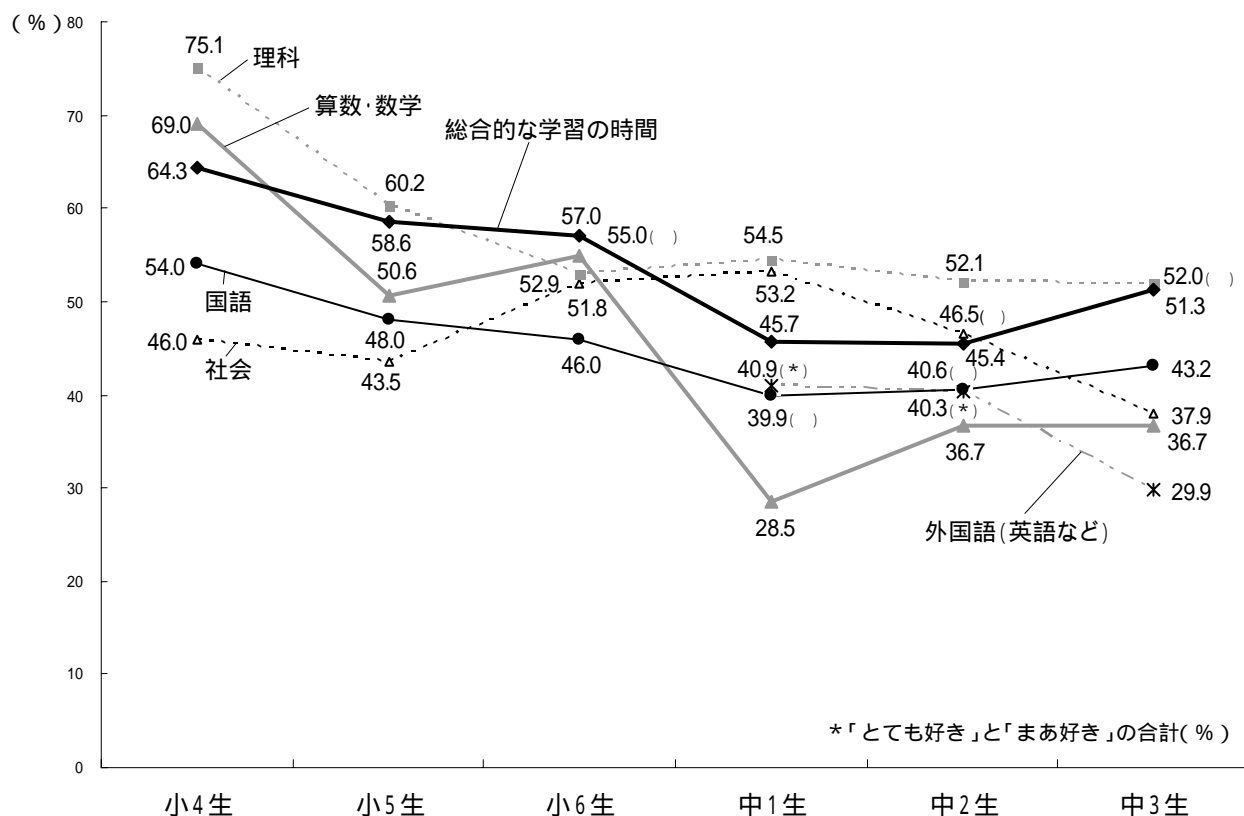
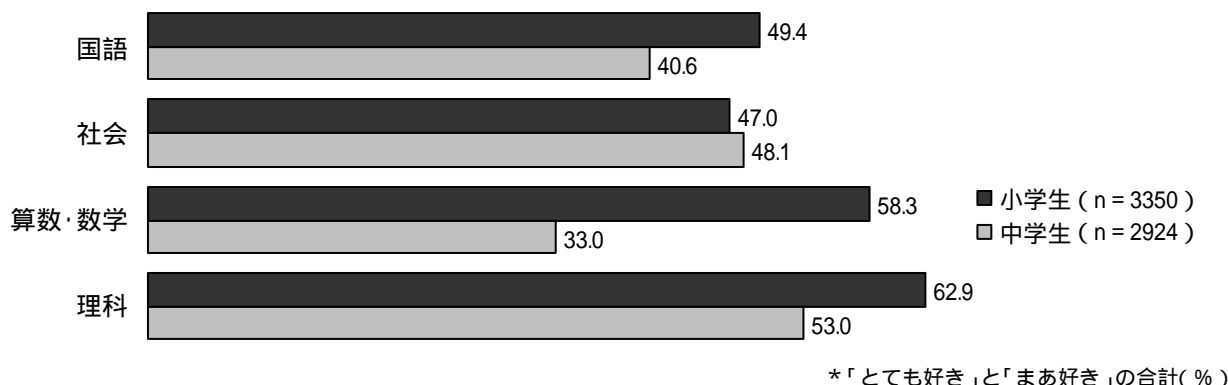


図1-1-6 教科や活動の時間の好き嫌い(学校段階別)

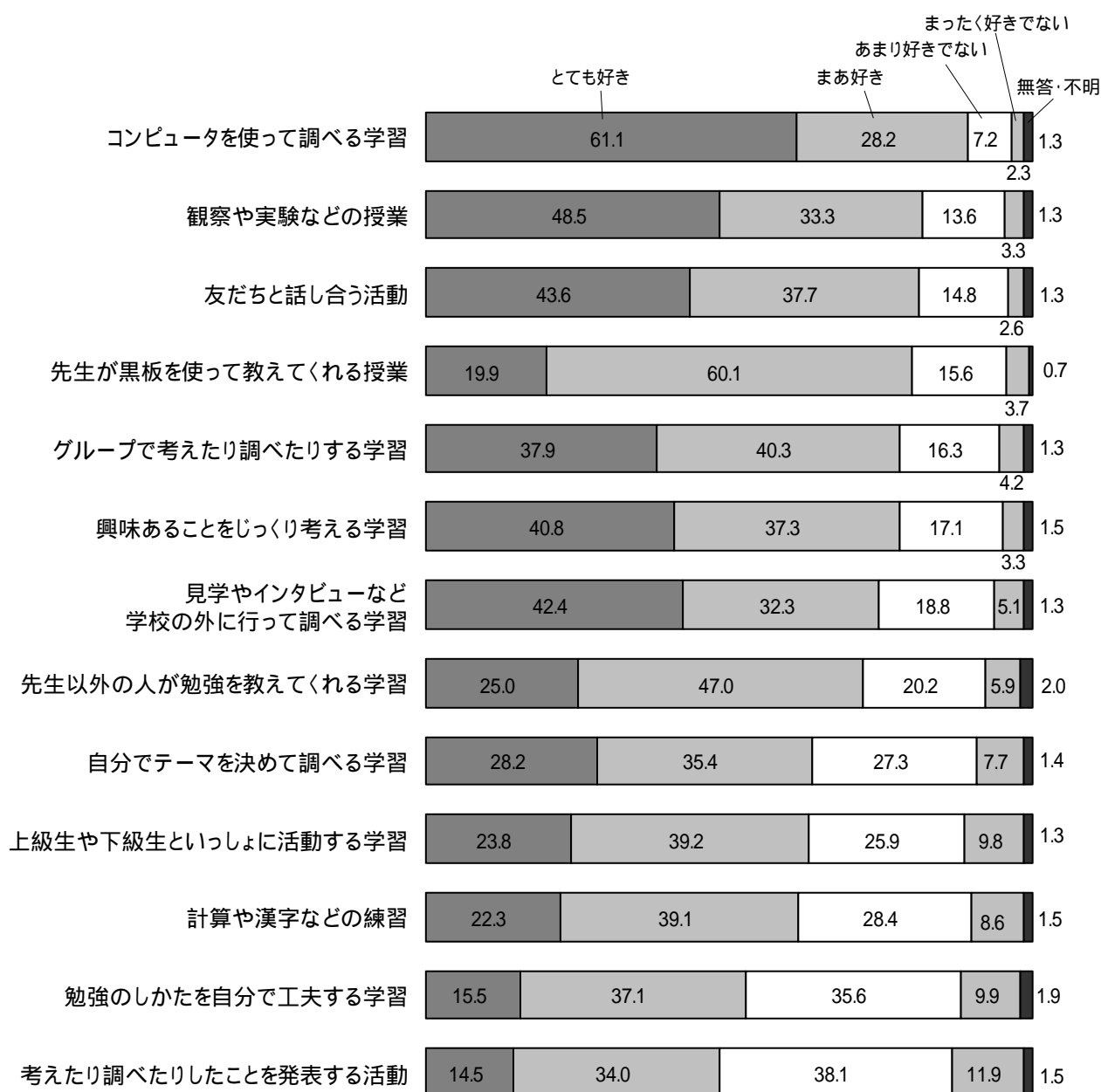




## 2. 授業や学習活動の好き嫌い

前節では、主として教科ごとに好き嫌いを確認した。それでは、子どもたちはもう少し具体的な授業や学習活動について、どのように感じているのだろうか。図1-2-1に示したそれぞれの活動について、「好き」かどうかを聞いたところ、小学生では、「コンピュータを使って調べる学習」(「とても好き」と「まあ好き」の合計：89.3%、以下同様)、「観察や実験などの授業」(81.8%)、「友だちと話し合う活動」(81.3%)などが、好きな活動の上位を占めた。

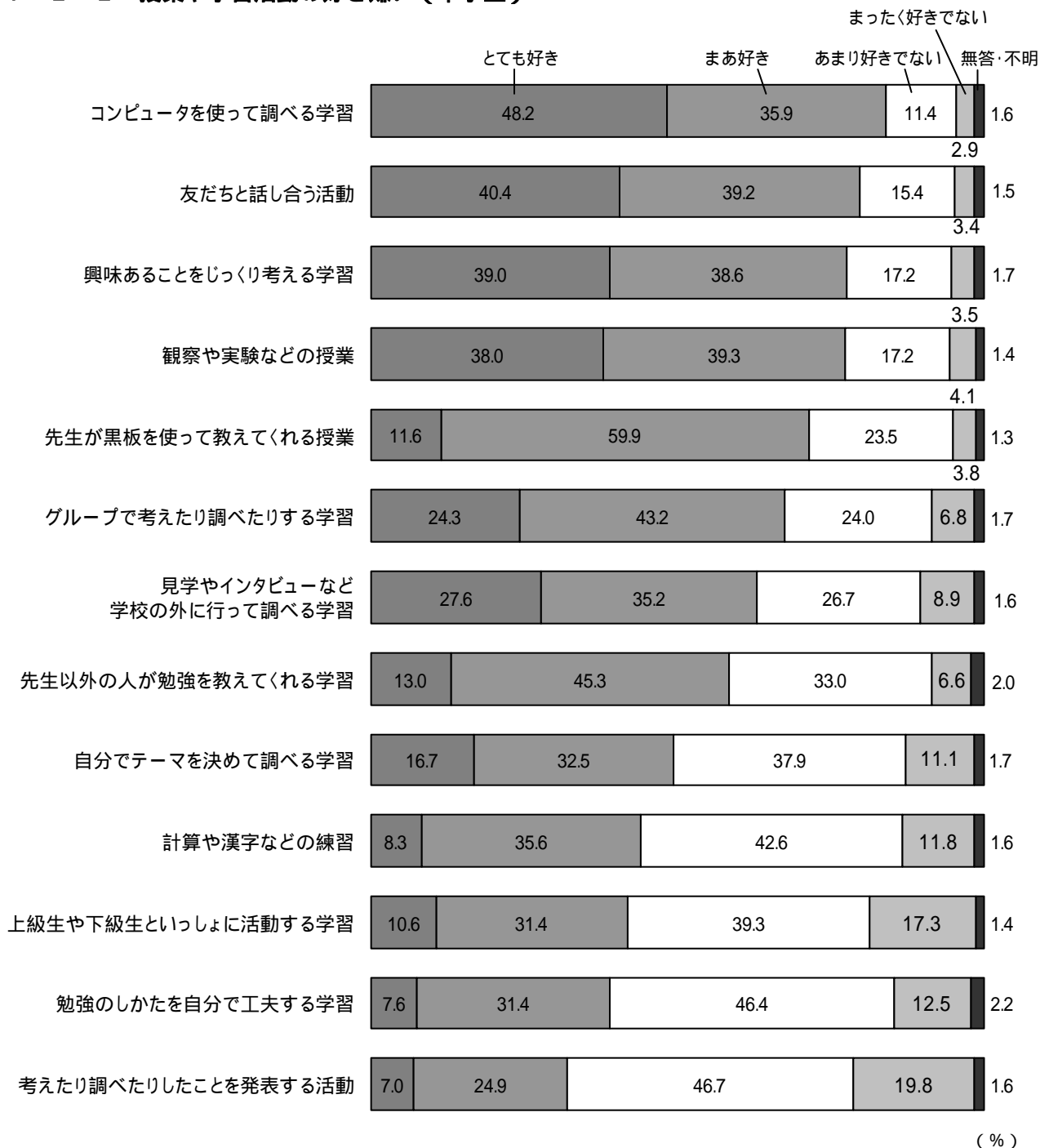
図1-2-1 授業や学習活動の好き嫌い(小学生)



(%)

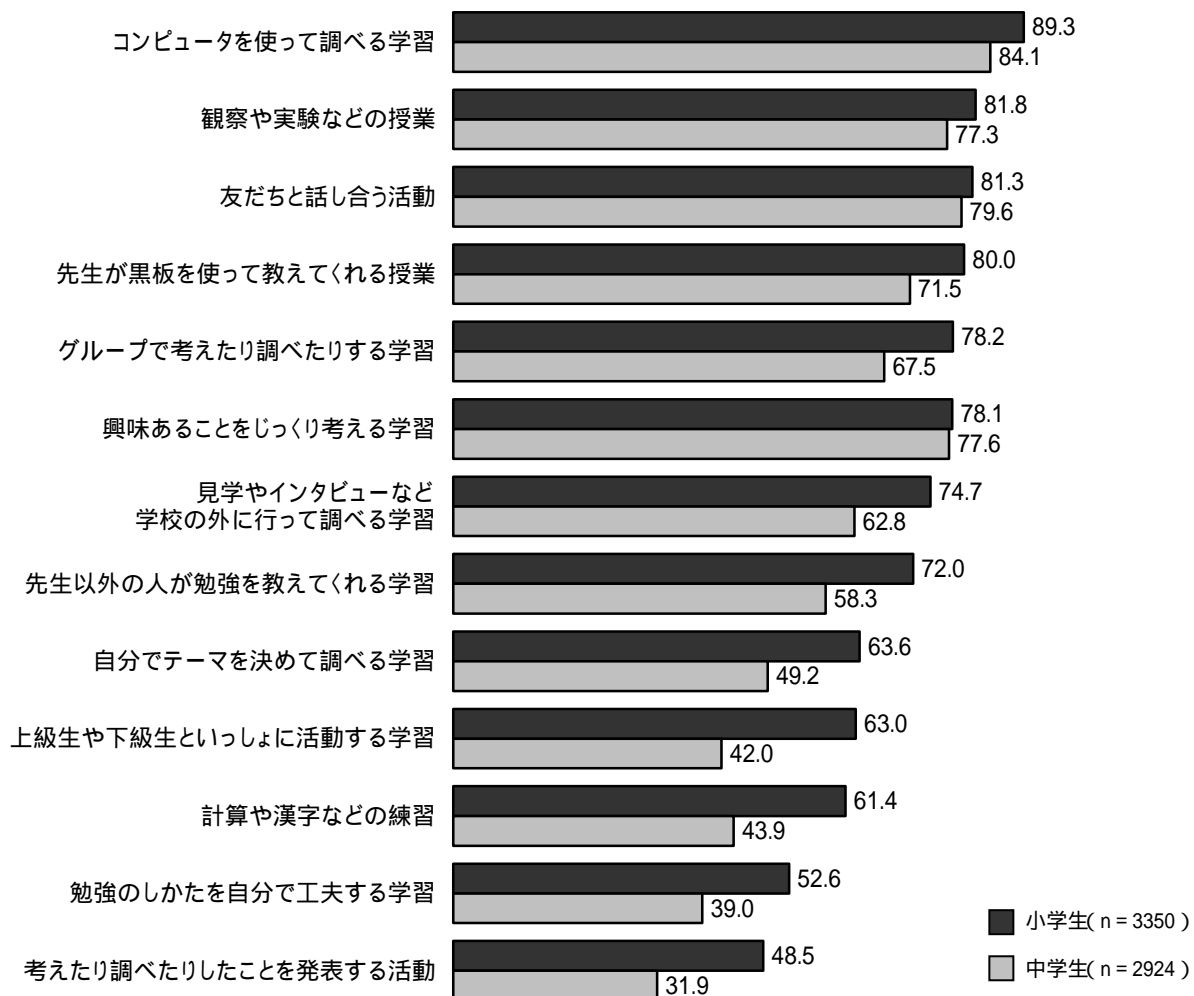
次に、中学生の結果を見てみよう（図1-2-2）。「好き」（「とても好き」と「まあ好き」の合計）の割合を見ると、小学生と同様に「コンピュータを使って調べる学習」（84.1%）がトップで、「友だちと話し合う活動」（79.6%）、「興味あることをじっくり考える学習」（77.6%）がつづく。

図1-2-2 授業や学習活動の好き嫌い（中学生）



次に、学校での授業や学習活動がどれくらい好きかを学校段階別に比較すると(図1-2-3)、「好き」の比率はすべての項目で小学生が中学生を上回っていることがわかる。とくに差が大きい項目は、「上級生や下級生といっしょに活動する学習」(「とても好き」と「まあ好き」の合計：小学生63.0% > 中学生42.0%、以下同様)、「計算や漢字などの練習」(61.4% > 43.9%)、「考えたり調べたりしたことを発表する活動」(48.5% > 31.9%)、「自分でテーマを決めて調べる学習」(63.6% > 49.2%)などとなっている。

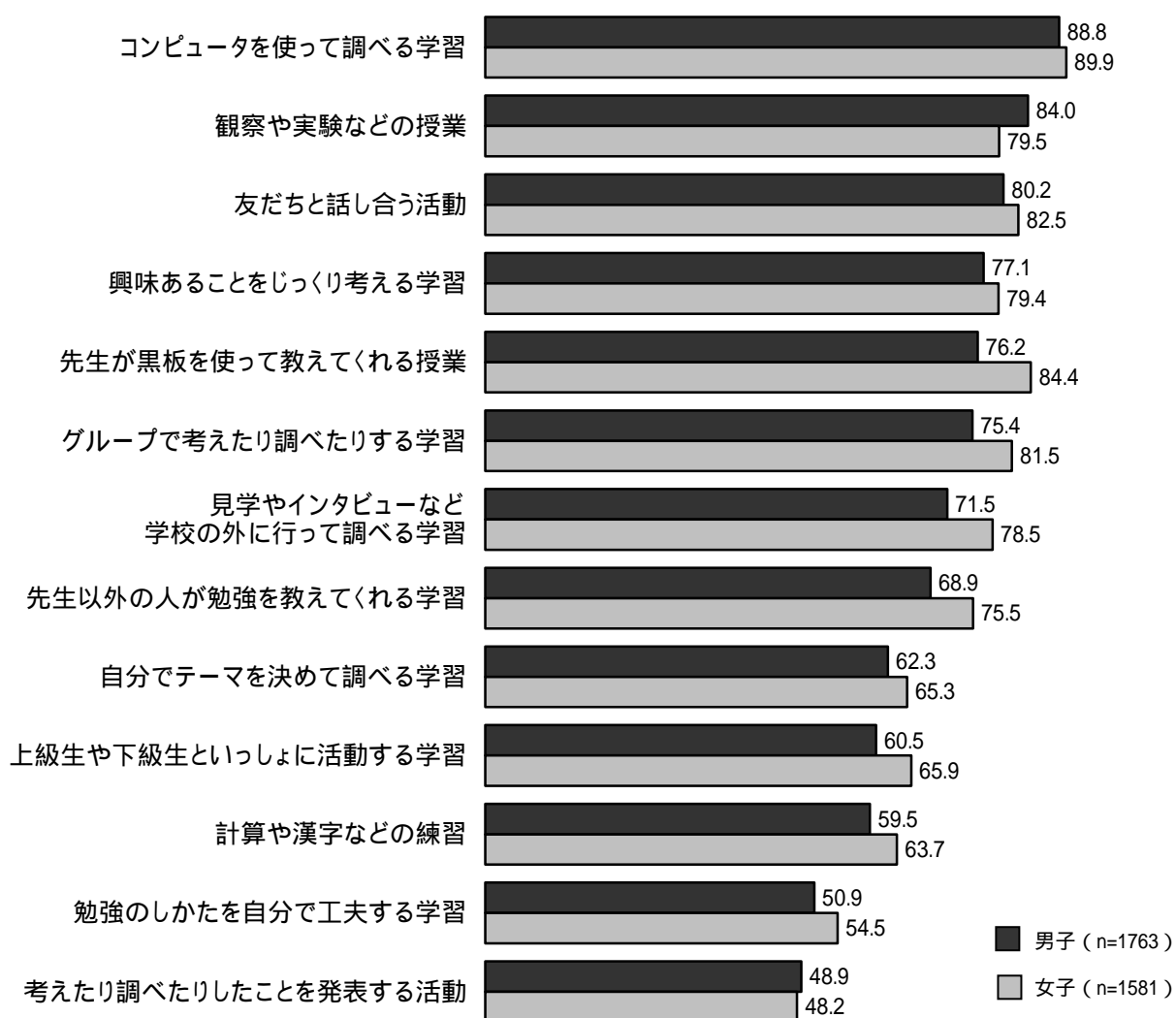
図1-2-3 授業や学習活動の好き嫌い(学校段階別)



\*「とても好き」と「まあ好き」の合計(%)

小学生の男女別に授業や学習活動の「好き」の比率を見ると(図1-2-4)「コンピュータを使って調べる学習」「とても好き」と「まあ好き」の合計：男子 88.8%、女子 89.9%、以下同様)は、男女ともに高い数値を示していることがわかる。「観察や実験などの授業」(84.0% > 79.5%)は男子のほうが高い割合なのに対し、「先生が黒板を使って教えてくれる授業」(76.2% < 84.4%)、「グループで考えたり調べたりする学習」(75.4% < 81.5%)、「見学やインタビューなど学校の外に行って調べる学習」(71.5% < 78.5%)、「先生以外の方が勉強を教えてくれる学習」(68.9% < 75.5%)などでは、男子より女子のほうが「好き」の比率が高い。

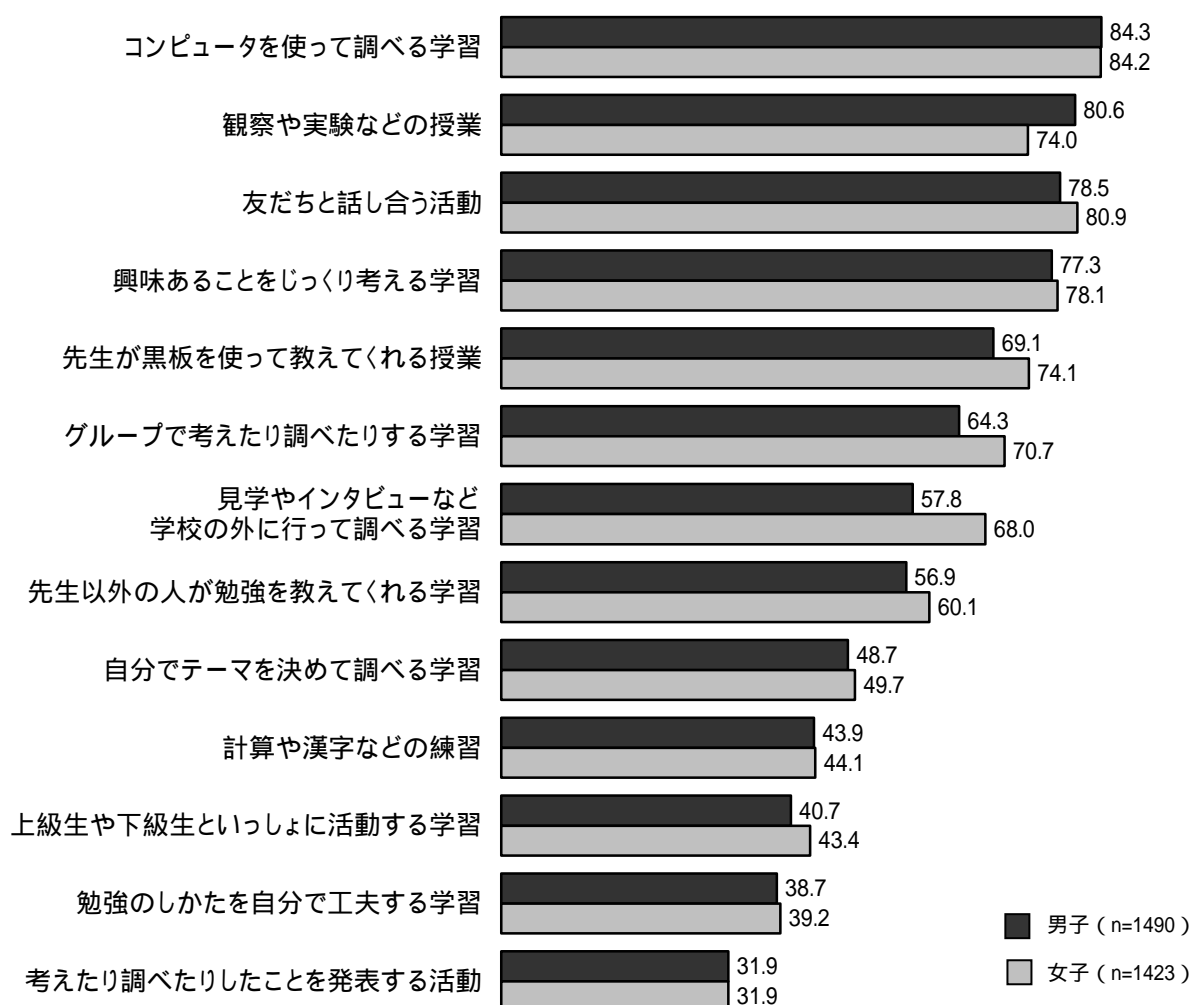
図1-2-4 授業や学習活動の好き嫌い(小学生・性別)



\*「とても好き」と「まあ好き」の合計(%)

同様に中学生についても、授業や学習活動について性別に「好き」の比率を見ると(図1-2-5)小学生と同じように「観察や実験などの授業」「とても好き」と「まあ好き」の合計：男子80.6%>女子74.0%、以下同様)は男子が高い割合を示し、「見学やインタビューなど学校の外に行って調べる学習」(57.8%<68.0%)、「グループで考えたり調べたりする学習」(64.3%<70.7%)、「先生が黒板を使って教えてくれる授業」(69.1%<74.1%)などでは女子が高い割合を示している。

図1-2-5 授業や学習活動の好き嫌い(中学生・性別)

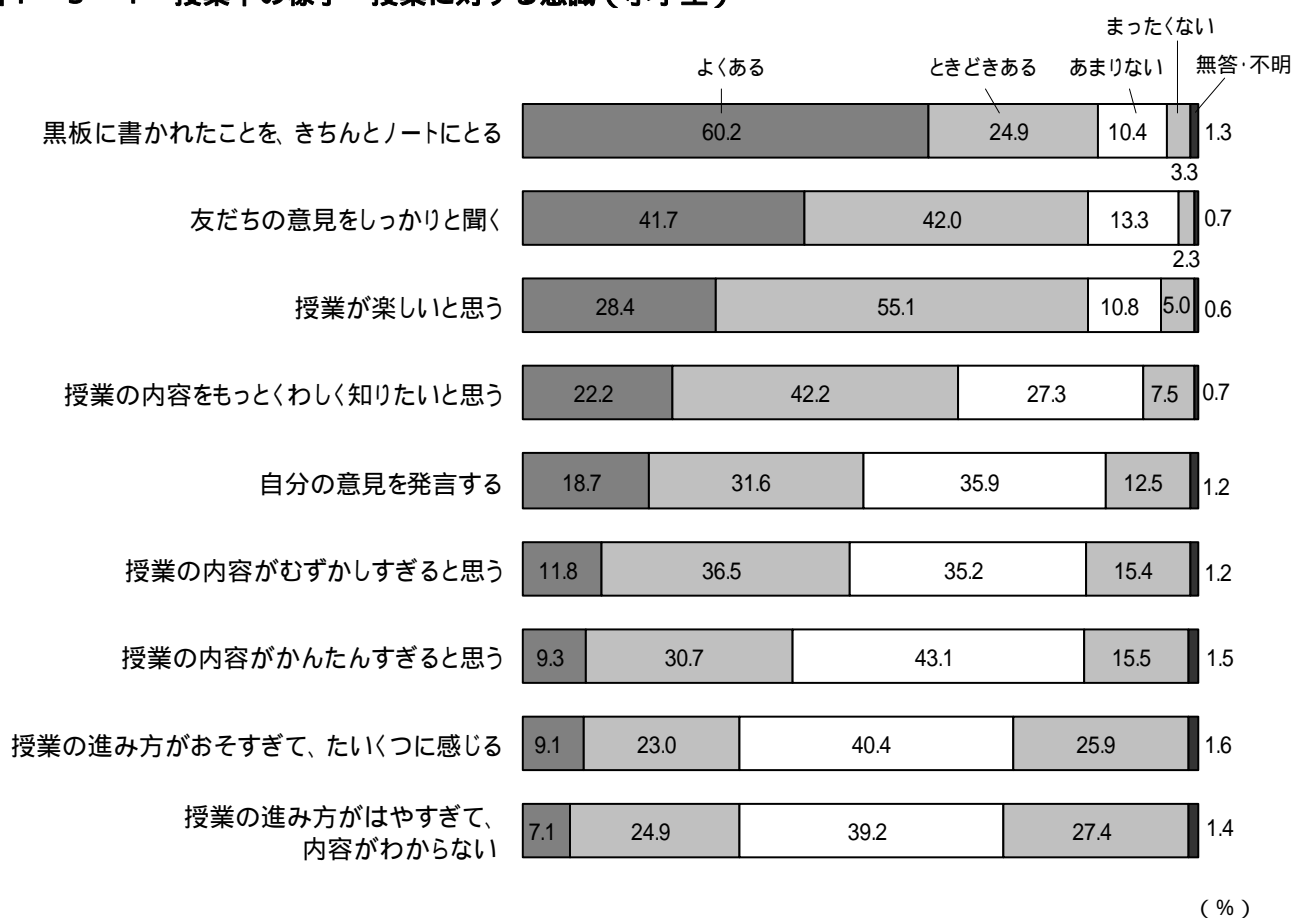


\*「とても好き」と「まあ好き」の合計(%)

### 3 . 授業中の様子・授業に対する意識

次に、授業中の様子や授業に対する意識を聞いたところ、小学生の回答は、**図1-3-1**に示された結果になった。「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」(「よくある」と「ときどきある」の合計：85.1%、以下同様)、「友だちの意見をしっかりと聞く」(83.7%)などで数値が高く、授業にまじめに取り組んでいることをうかがわせる回答が目立つ。また、「授業が楽しいと思う」割合は8割を超える。また、約5割の小学生が「授業の内容がむずかしすぎると思う」と感じている一方で(48.3%)、「授業の内容がかんたんすぎると思う」という小学生も4割いる(40.0%)。

**図1-3-1 授業中の様子・授業に対する意識(小学生)**

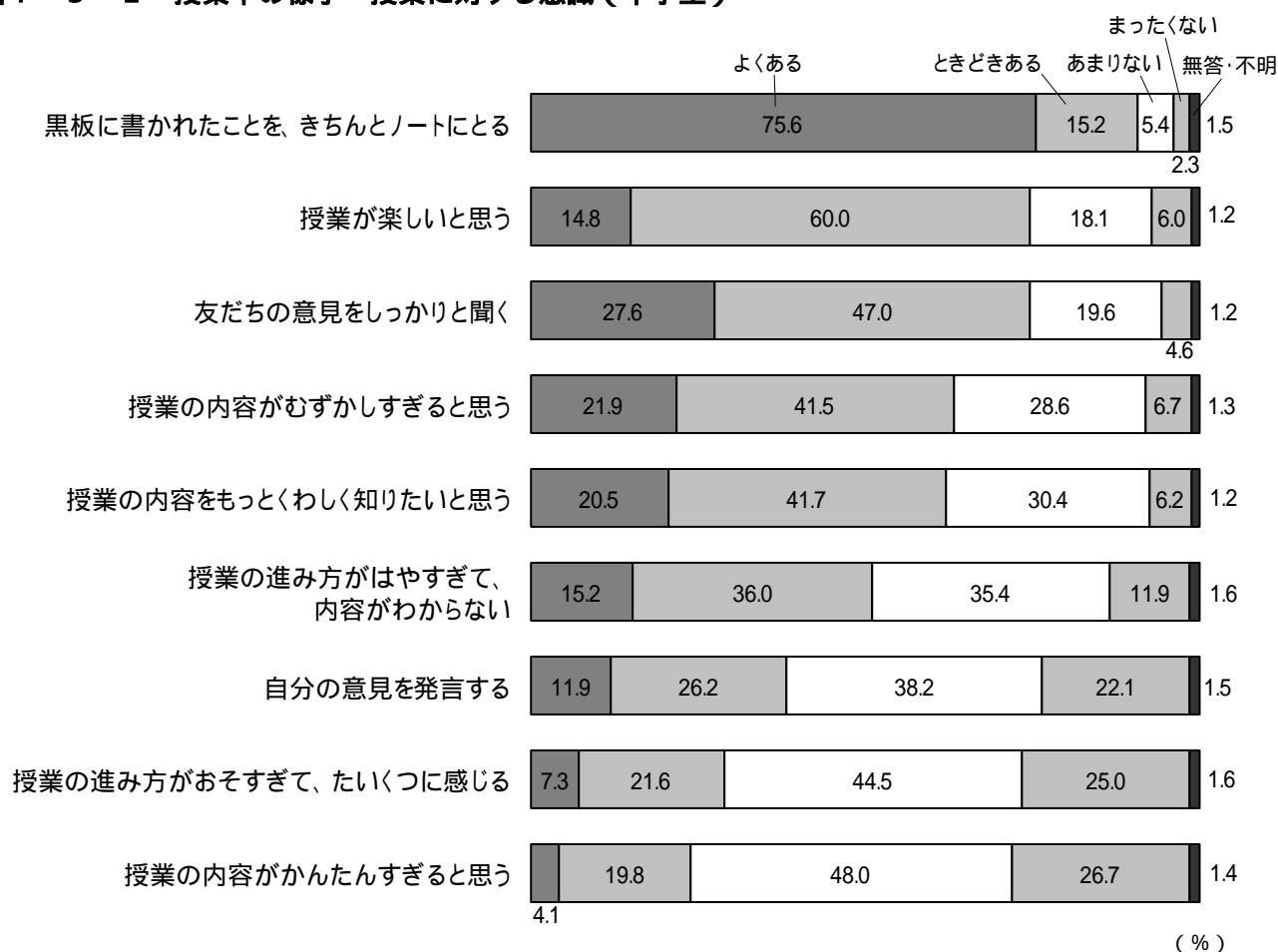


では、授業中の様子や授業に対する意識は、小学生と中学生で異なるのだろうか。

図1-3-2で中学生の結果を見てみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」(「よくある」と「ときどきある」の合計：90.8%、以下同様)、「友だちの意見をしっかりと聞く」(74.6%)などで数値が高く、小学生と同様に授業にまじめに取り組んでいる様子が見える。

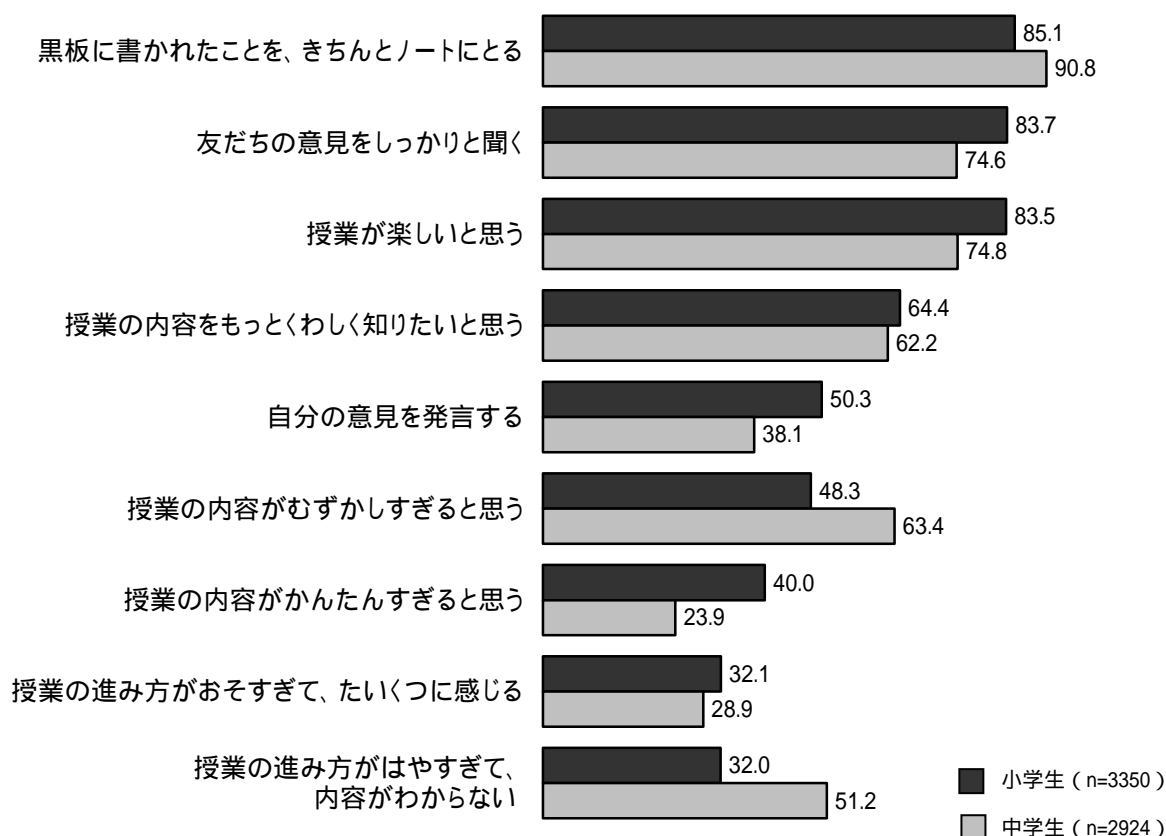
一方で、中学生の6割以上が「授業の内容がむずかしすぎると思う」(63.4%)と答えており、この数値は小学生よりもかなり高い(小学生 48.3%)。約3人に2人の中学生が、授業をむずかしいと感じる場面があるという結果になっている。

図1-3-2 授業中の様子・授業に対する意識(中学生)



授業中の様子や授業に対する意識について、小学生と中学生の違いを示すために、学校段階別に見たのが図1-3-3である。「授業の進み方がはやすぎて、内容がわからない」(「よくある」と「ときどきある」の合計：小学生 32.0% < 中学生 51.2%、以下同様)、「授業の内容がむずかしすぎると思う」(48.3% < 63.4%) などでは、小学生より中学生のほうが「ある」という比率が高い。反対に、「授業の内容がかんたんすぎると思う」(40.0% > 23.9%) 「自分の意見を発言する」(50.3% > 38.1%) では中学生より小学生のほうが高い結果となった。総じて、小学生のほうが授業を理解している様子である。

図1-3-3 授業中の様子・授業に対する意識(学校段階別)

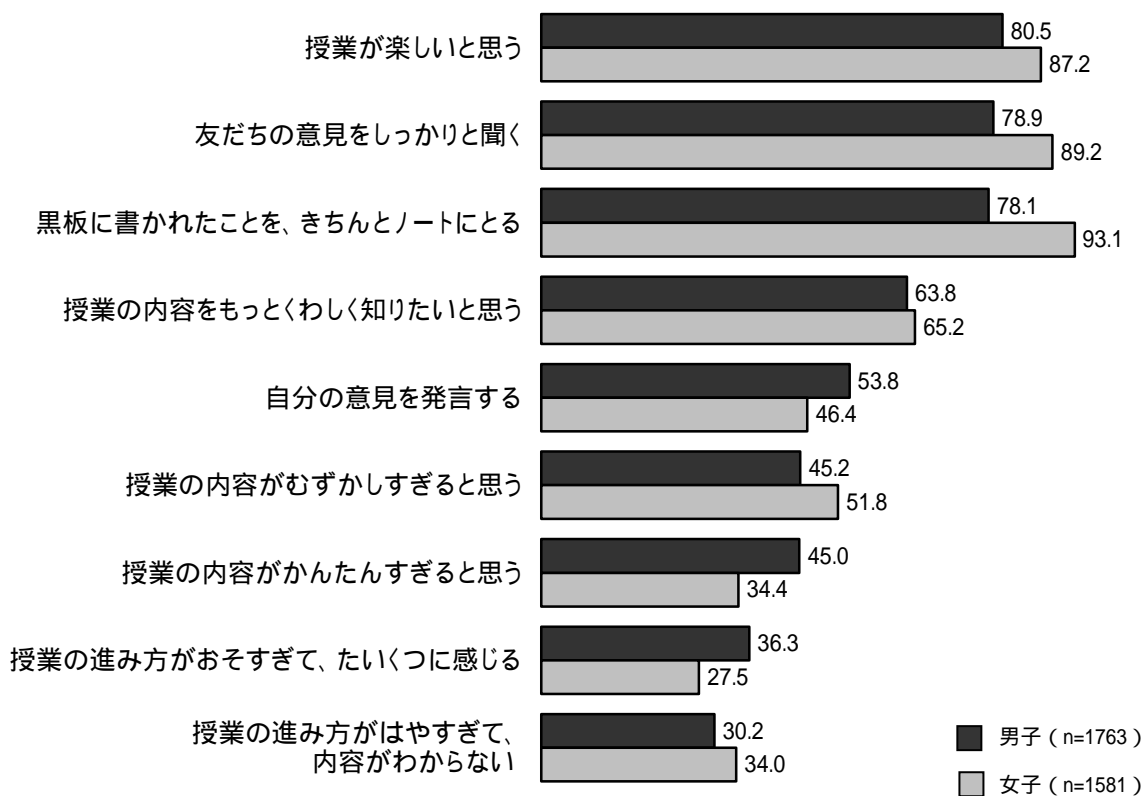


\* 「よくある」と「ときどきある」の合計(%)



では、授業中の態度や授業に対する意識は、男子と女子で異なるのだろうか。このことを確認するために、小学生の性別に授業中の様子の違いを見た(図1-3-4)。「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」(「よくある」と「ときどきある」の合計：男子 78.1% < 女子 93.1%、以下同様)、「友だちの意見をしっかりと聞く」(78.9% < 89.2%)、「授業が楽しいと思う」(80.5% < 87.2%)などについては、男子より女子が「ある」という比率が高い。一方、「授業の内容がかんたんすぎると思う」(45.0% > 34.4%)、「授業の進み方がおそすぎて、たいくつに感じる」(36.3% > 27.5%)、「自分の意見を発表する」(53.8% > 46.4%)では、男子の比率が高い結果になっている。

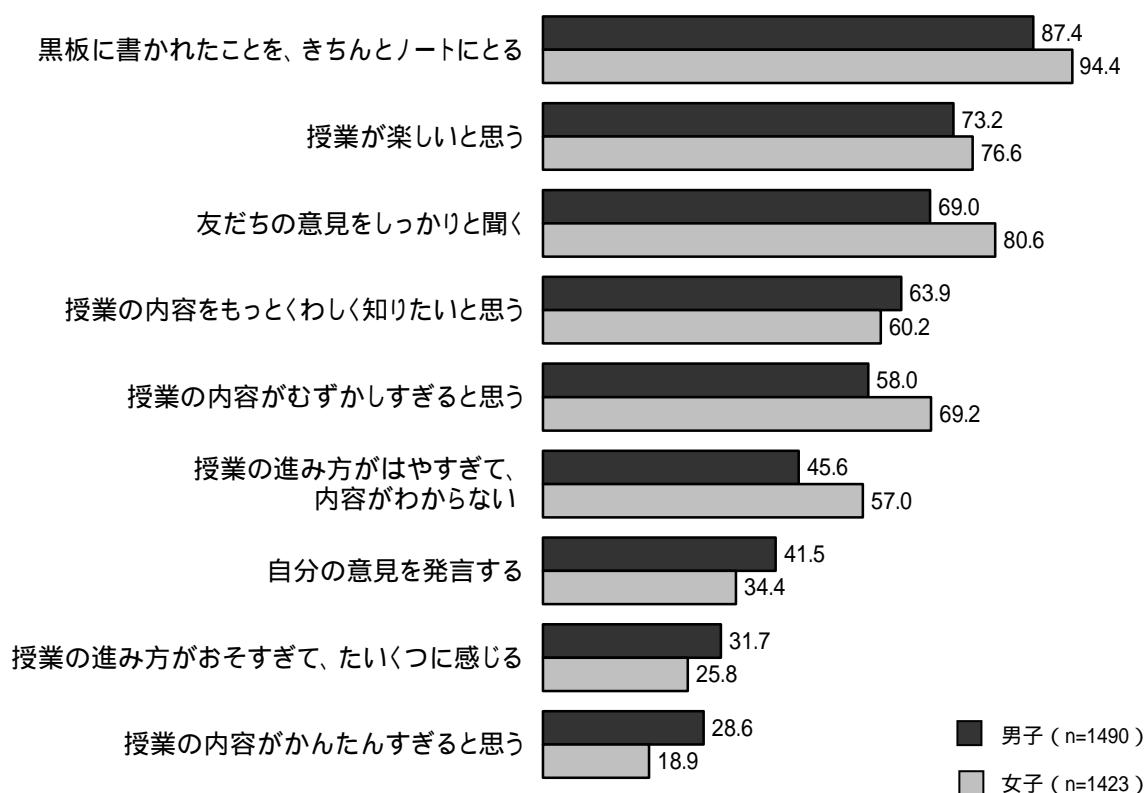
図1-3-4 授業中の様子・授業に対する意識(小学生・性別)



\* 「よくある」と「ときどきある」の合計(%)

中学生についても小学生と同様に性別の違いが見られた（図1-3-5）。「黒板に書かれたことを、きちんとノートにとる」（「よくある」と「ときどきある」の合計：男子 87.4% < 女子 94.4%、以下同様）、「授業が楽しいと思う」（73.2% < 76.6%）、「友だちの意見をしっかりと聞く」（69.0% < 80.6%）などは、女子の方が「ある」という回答が多い。また、「授業の内容がむずかしすぎると思う」（58.0% < 69.2%）、「授業の進み方がはやすぎて、内容がわからない」（45.6% < 57.0%）でも女子のほうが高く、女子生徒のほうが授業についていくのを困難に感じていることがわかる。

図1-3-5 授業中の様子・授業に対する意識（中学生・性別）



\* 「よくある」と「ときどきある」の合計 (%)

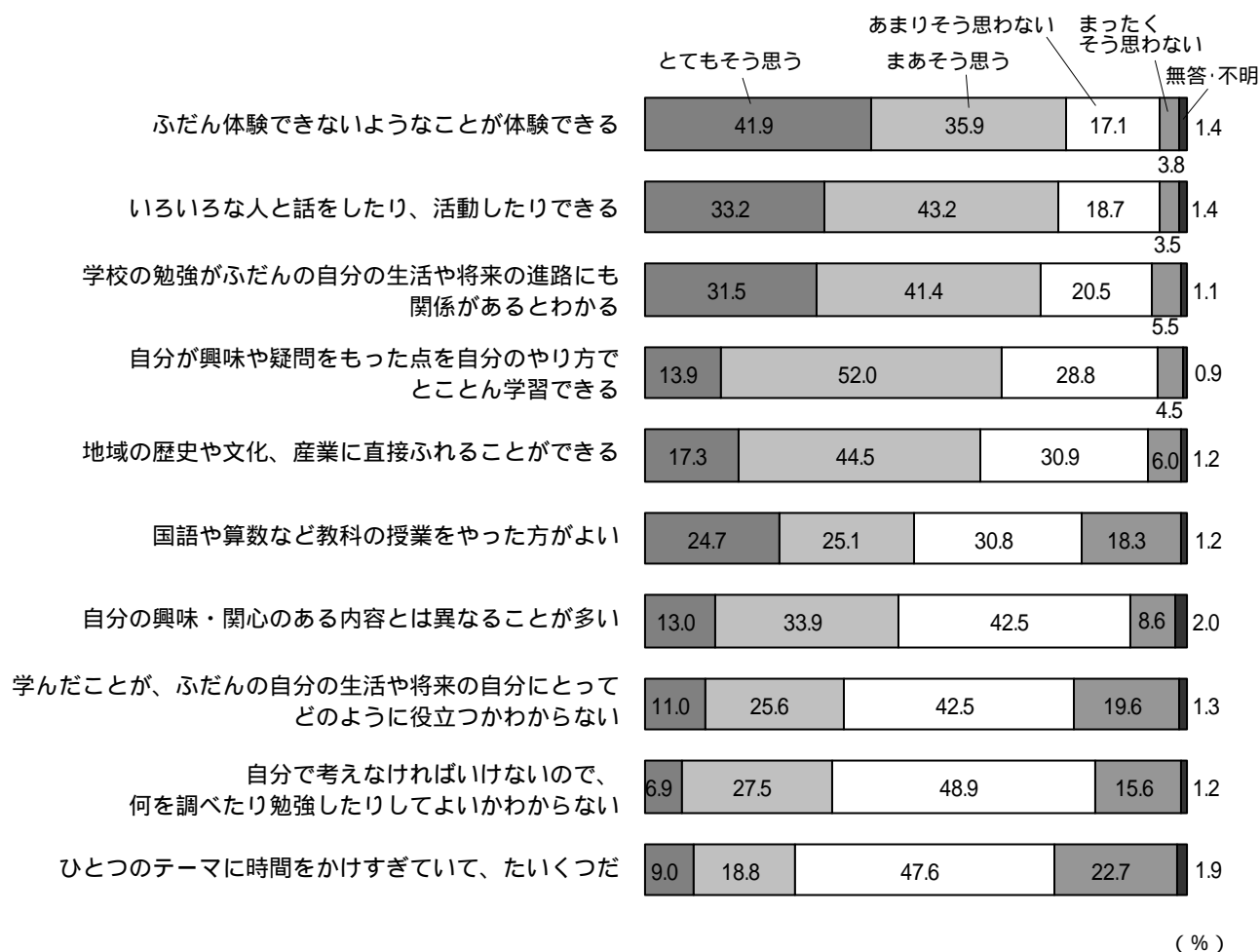
## 4. 「総合的な学習の時間」に対する意識

## (1) 「総合的な学習の時間」についての考え

本節では、「総合的な学習の時間」に関するデータを見ていこう。最初に、「総合的な学習の時間」についての考えを小学生にたずねた結果（図1-4-1）である。「ふだん体験できないようなことが体験できる」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：77.8%、以下同様）、「いろいろな人と話をしたり、活動したりできる」（76.4%）、「学校の勉強がふだんの自分の生活や将来の進路にも関係があるとわかる」（72.9%）などで「そう思う」という回答が多い。

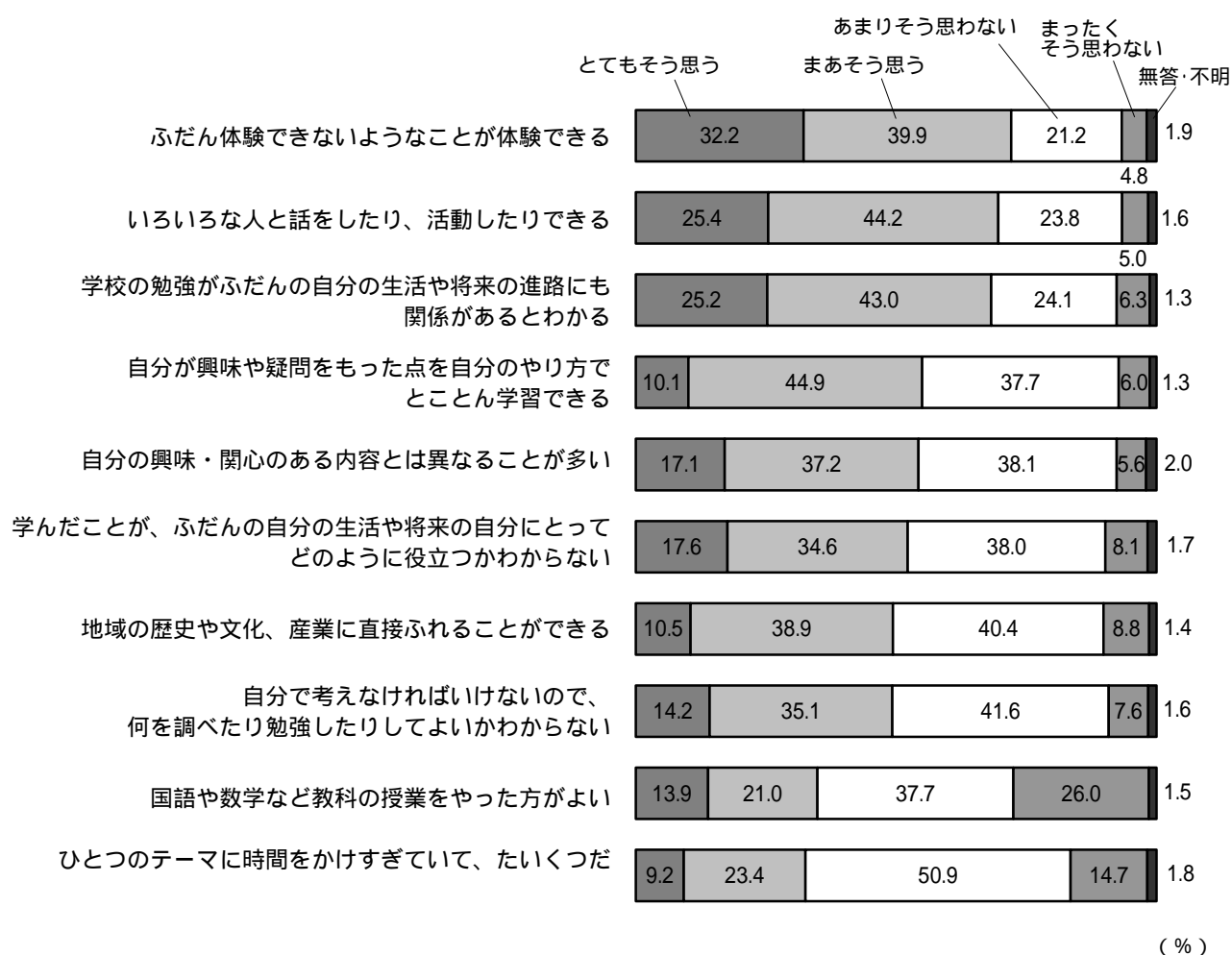
しかし、一方で、「国語や算数などの教科の授業をやった方がよい」（49.8%）、「自分の興味・関心のある内容とは異なることが多い」（46.9%）についても、半数近くが「そう思う」と回答している。

図1-4-1 「総合的な学習の時間」についての考え（小学生）



それでは、中学生は「総合的な学習の時間」についてのどのように考えているのだろうか（図1-4-2）。中学生でも、「ふだん体験できないようなことが体験できる」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：72.1%、以下同様）、「いろいろな人と話をしたり、活動したりできる」（69.6%）、「学校の勉強がふだんの自分の生活や将来の進路にも関係があるとわかる」（68.2%）などで「そう思う」という回答が多く、肯定的にとらえる傾向が表れている。しかし一方で、「学んだことが、ふだんの自分の生活や将来の自分にとってどのように役立つかわからない」（52.2%）など、戸惑いを感じている生徒も約5割となっている。

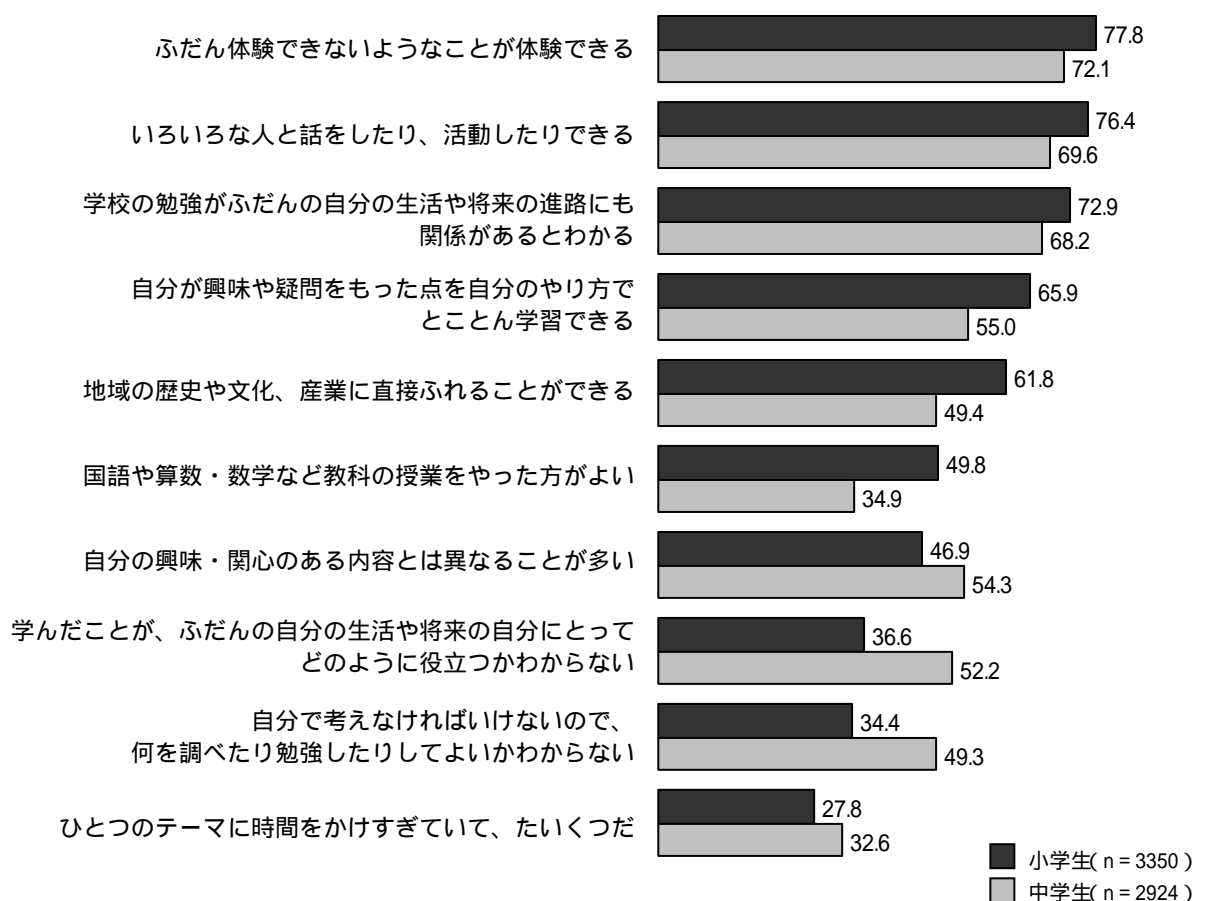
図1-4-2 「総合的な学習の時間」についての考え（中学生）



「総合的な学習の時間」についての考えを学校段階別に示したのが、**図1-4-3**である。これを見ると、「ふだん体験できないようなことが体験できる」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生77.8% > 中学生72.1%、以下同様)、「いろいろな人と話をしたり、活動したりできる」(76.4% > 69.6%)、「学校の勉強がふだんの自分の生活や将来の進路にも関係があるとわかる」(72.9% > 68.2%)、「自分が興味や疑問をもった点を自分のやり方できとん学習できる」(65.9% > 55.0%)、「地域の歴史や文化、産業に直接ふれることができる」(61.8% > 49.4%)などの項目で、「そう思う」という回答が小学生に多い。小学生のほうが「総合的な学習の時間」を肯定的に評価していることがわかる。

一方で、「自分の興味・関心のある内容とは異なることが多い」(46.9% < 54.3%)、「国語や算数・数学など教科の授業をやったほうがよい」(49.8% < 54.3%)、「学んだことが、ふだんの自分の生活や将来の自分にとってどのように役立つかわからない」(36.6% < 52.2%)などの項目では、中学生に「そう思う」と回答する割合が高い。

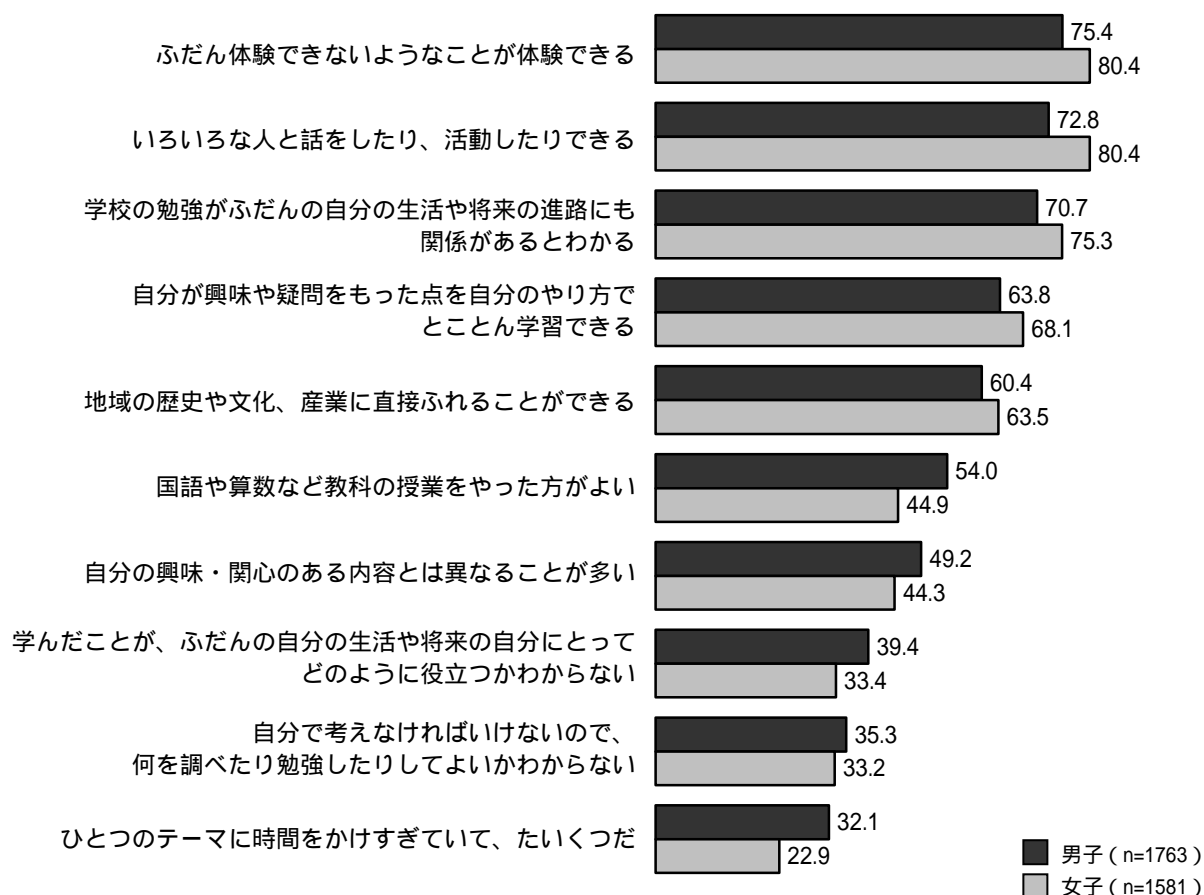
**図1-4-3 「総合的な学習の時間」についての考え(学校段階別)**



\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

次に、小学生について性別に「総合的な学習の時間」についての考えを比較してみると（図1-4-4）「いろいろな人と話をしたり、活動したりできる」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：男子72.8%＜女子80.4%、以下同様）、「ふだん体験できないようなことが体験できる」（75.4%＜80.4%）、「学校の勉強がふだんの自分の生活や将来の進路にも関係があるとわかる」（70.7%＜75.3%）などでは女子のほうが「そう思う」と回答する傾向が強い。一方、「ひとつのテーマに時間をかけすぎていて、たいくつだ」（32.1%＞22.9%）、「国語や算数など教科の授業をやった方がよい」（54.0%＞44.9%）、「学んだことが、ふだんの自分の生活や将来の自分にとってどのように役立つかわからない」（39.4%＞33.4%）など否定的な項目については男子のほうが「そう思う」という回答が多く、男子よりも女子のほうが「総合的な学習の時間」を肯定的にとらえていることがわかる。

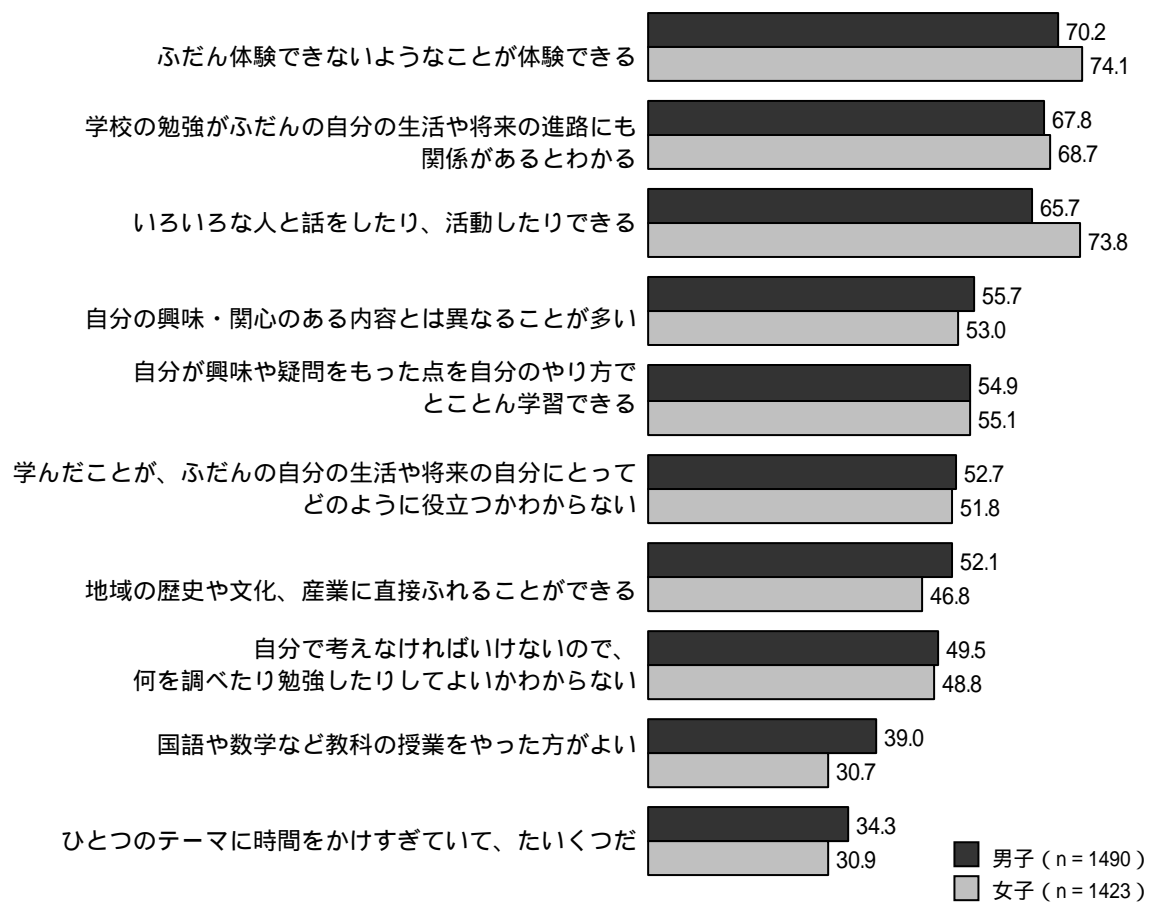
図1-4-4 「総合的な学習の時間」についての考え（小学生・性別）



\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計 (%)

中学生についても同様に「総合的な学習の時間」についての考えを性別に見ると(図1-4-5)、「いろいろな人と話をしたり、活動したりできる」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計:男子65.7% < 女子73.8%、以下同様)、「ふだん体験できないようなことが体験できる」(70.2% < 74.1%)などの項目で男子より女子のほうが「そう思う」という数値が高く、「国語や数学など教科の授業をやった方がよい」(39.0% > 30.7%)、「ひとつのテーマに時間をかけすぎていて、たいくつだ」(34.3% > 30.9%)などでは男子のほうが数値が高いという結果になっている。女子のほうが「総合的な学習の時間」を肯定的にとらえていることがわかる。しかしながら、小学生ほど著しい差異はみられない。

図1-4-5 「総合的な学習の時間」についての考え(中学生・性別)

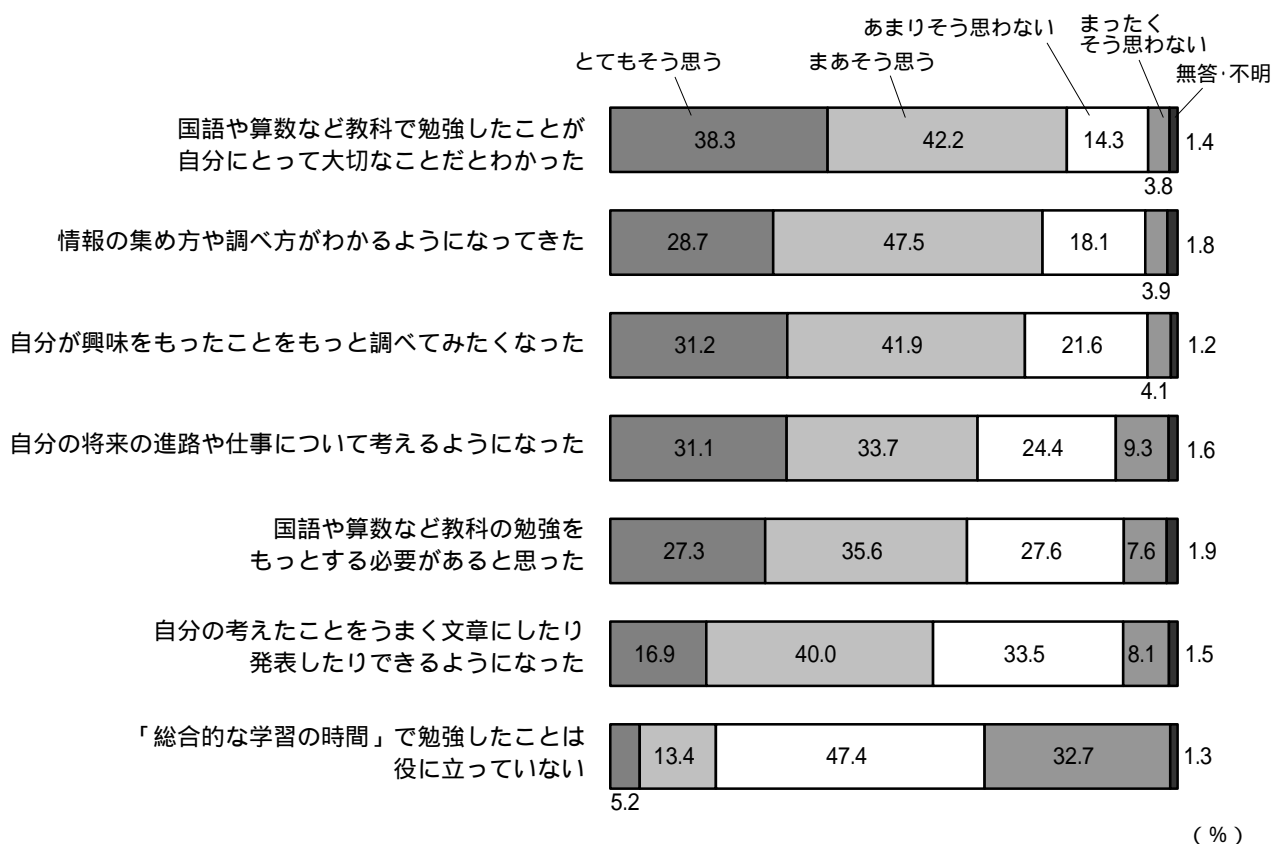


\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

(2) 「総合的な学習の時間」の役立ち感

つづいて、「総合的な学習の時間」がどのように役立っていると思うかをたずねた。最初に、小学生の結果（図1-4-6）を見ると、「国語や算数など教科で勉強したことが自分にとって大切なことだとわかった」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：80.5%、以下同様）、「情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた」（76.2%）など、概して学習していることが役立っていると認識されていることがわかる。「『総合的な学習の時間』で勉強したことは役に立っていない」（18.6%）では、否定派の意見が多数であった。

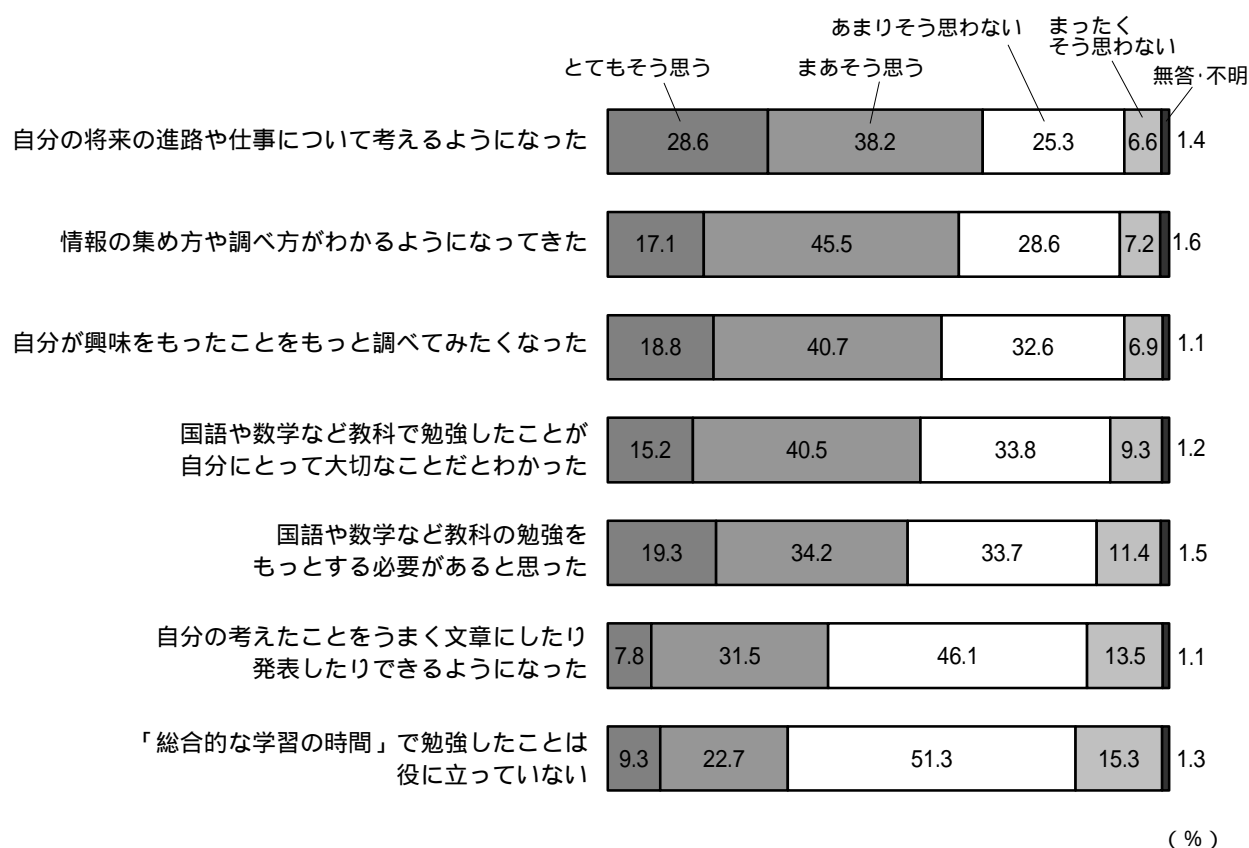
図1-4-6 「総合的な学習の時間」の役立ち感（小学生）





それでは、中学生は「総合的な学習の時間」がどのように役立っていると感じているのだろうか（図 1 - 4 - 7）。「自分の将来の進路や仕事について考えるようになった」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：66.8%、以下同様）、「情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた」（62.6%）などで「そう思う」の数値が高い。また、「『総合的な学習の時間』で勉強したことは役に立っていない」（32.0%）については、小学生よりも「そう思う」割合が高く、3割強の生徒がそのように感じている。

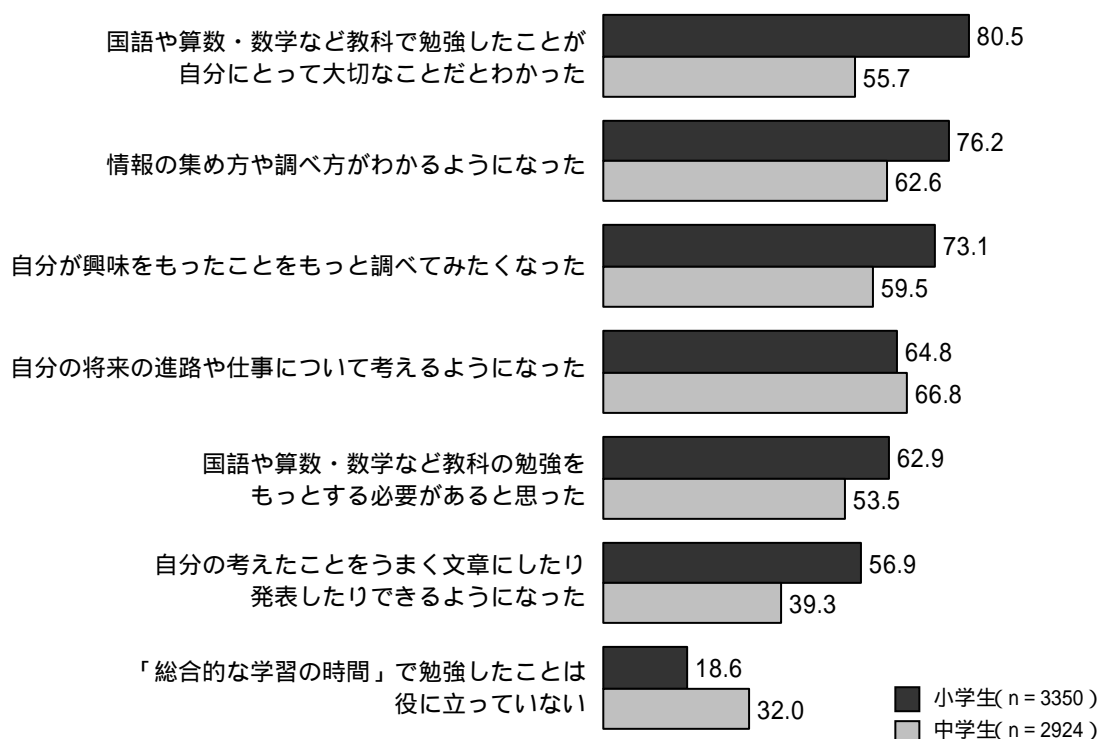
図 1 - 4 - 7 「総合的な学習の時間」の役立ち感（中学生）



「総合的な学習の時間」の役立ち感を学校段階別に示したのが、**図1 - 4 - 8**である。これを見ると、「国語や算数・数学など教科で勉強したことが自分にとって大切なことだとわかった」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生 80.5% > 中学生 55.7%、以下同様）、「情報の集め方や調べ方がわかるようになった」（76.2% > 62.6%）、「自分が興味をもったことをもっと調べてみたくなった」（73.1% > 59.5%）、「自分の考えたことをうまく文章にしたり発表したりできるようになった」（56.9% > 39.3%）などの項目で、小学生と中学生の差が大きい。

総じて、小学生は中学生に比べて、「総合的な学習の時間」の取り組みが自分にとって役立っているという思いを強く持っている。

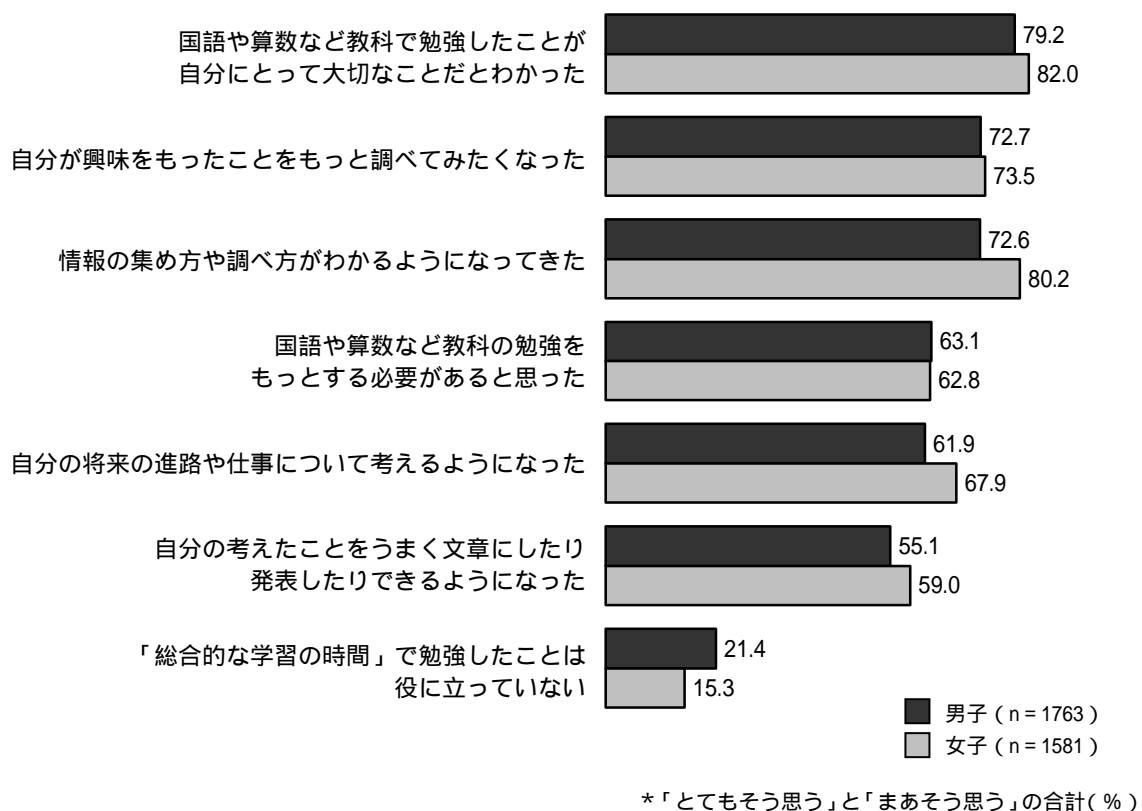
**図1 - 4 - 8 「総合的な学習の時間」の役立ち感（学校段階別）**



\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計（%）

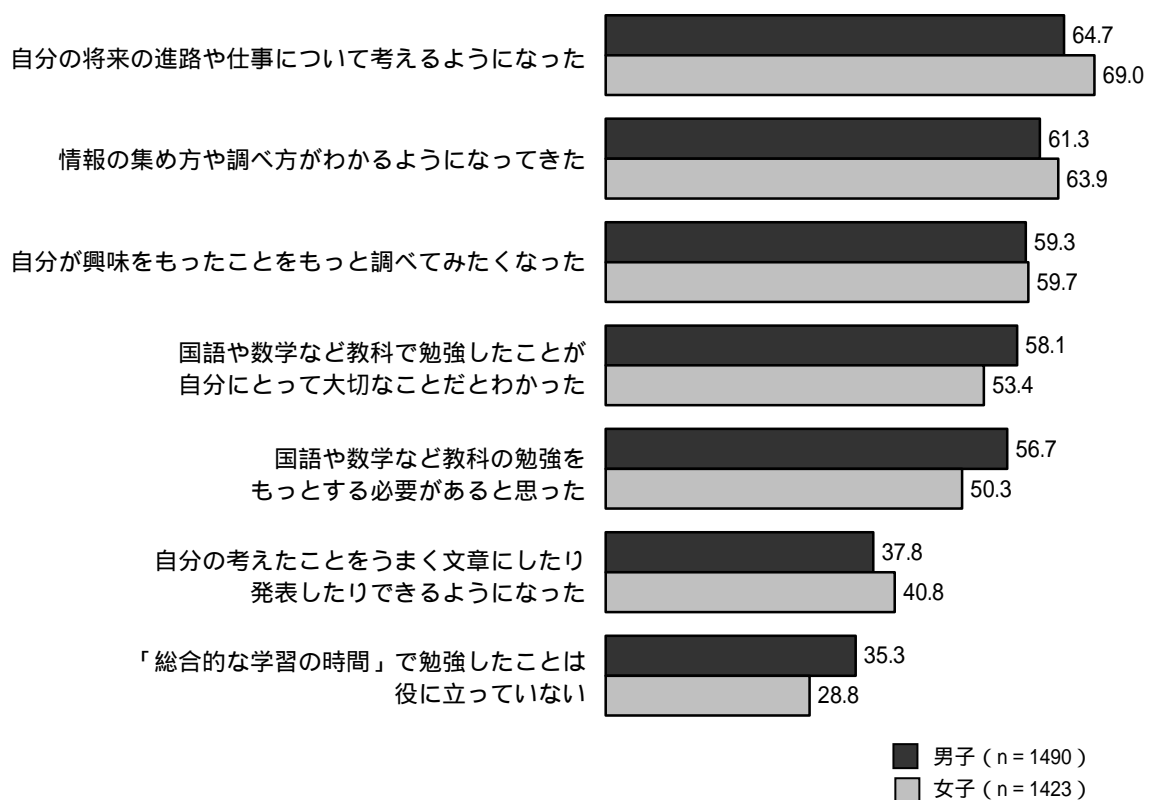
次に、小学生について、「総合的な学習の時間」で勉強したことがどのように役に立っていると思っているかを性別に見た(図1-4-9)。「情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：男子 72.6% < 女子 80.2%、以下同様)。「自分の将来の進路や仕事について考えるようになった」(61.9% < 67.9%)などの項目で、男子より女子のほうが「そう思う」という回答が多い。一方、「『総合的な学習の時間』で勉強したことは役に立っていない」(21.4% > 15.3%)では女子より男子のほうが「そう思う」の比率が高く、男子のほうが「総合的な学習の時間」に否定的な見方をしていることがわかる。

図1-4-9 「総合的な学習の時間」の役立ち感(小学生・性別)



同じように、中学生について、「総合的な学習の時間」で勉強したことがどのように役に立っているかを見てみると（図1-4-10）、「『総合的な学習の時間』で勉強したことは役に立っていない」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：男子35.3% > 女子28.8%、以下同様）、「国語や数学など教科の勉強をもっとする必要があると思った」（56.7% > 50.3%）で女子より男子のほうが「そう思う」と回答している。一方、「自分の将来の進路や仕事について考えるようになった」（64.7% < 69.0%）などで男子より女子のほうが「そう思う」の数値が高く、小学生と同様に女子のほうが役立っているという認識をもっているようである。

図1-4-10 「総合的な学習の時間」の役立ち感（中学生・性別）



\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

(3)授業理解度による意見の違い

「総合的な学習の時間」に対する感じ方や意見は、子どもの学力や成績によっても異なる可能性がある。今回の調査では、子どもに直接、成績をたずねる項目を設定しなかったため、ここでは、授業に対する理解の程度によって、それらがどれくらい異なるのかを確認したい。

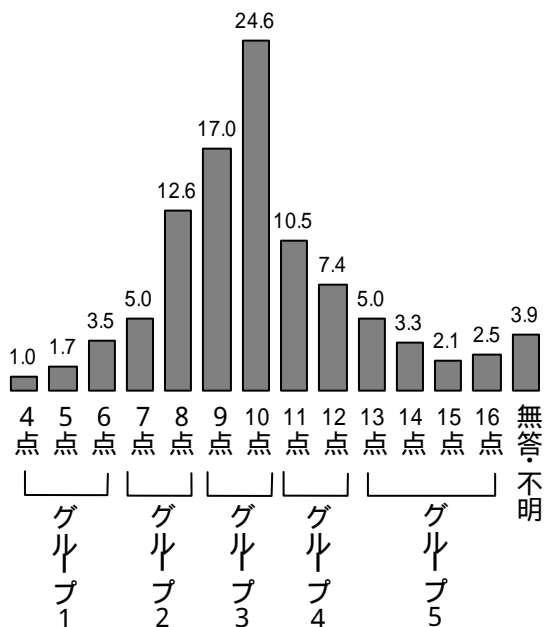
授業の理解度によって小・中学生をグループ分けするために、「授業の内容がむずかしすぎると思う」、「授業の内容がかんたんすぎると思う」、「授業の進み方がはやすぎて、内容がわからない」、「授業の進み方がおそすぎで、たいくつに感じる」という、授業中の様子に関する4つの設問を用いた。これらはいずれも、「1.よくある」から「4.まったくない」の4段階でたずねているので、

については「1.よくある」:1点~「4.まったくない」:4点とし、この設問は得点を逆転させて「1.よくある」:4点~「4.まったくない」:1点としたうえで、すべての設問の回答を合計した。これにより、4~16点までの分布を示す集団ができる。得点が高いほど、授業理解度が高いことを意味する。この分布は、図1-4-11のようになる。

さらにこれを、各グループの母数などを考慮して、5つのグループに分類した。「グループ1」は授業理解度がもっとも低いグループ、「グループ5」はもっとも高いグループということになる。このグループ別に、「総合的な学習の時間」についての考えの違いを見たのが、次頁の図1-4-12である。

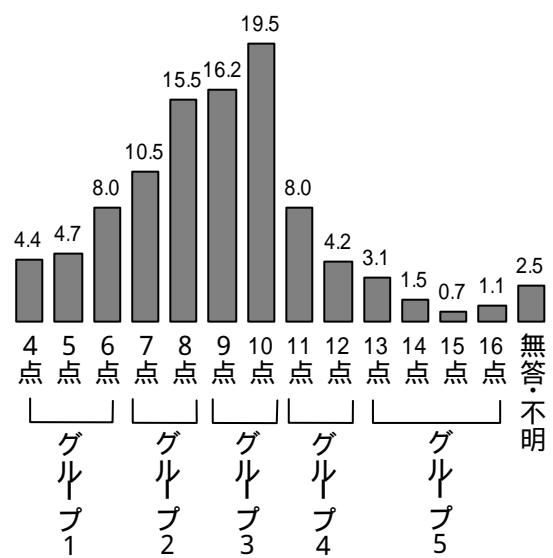
図1-4-11 授業理解度の分布(学校段階別)

小学生



(%)

中学生



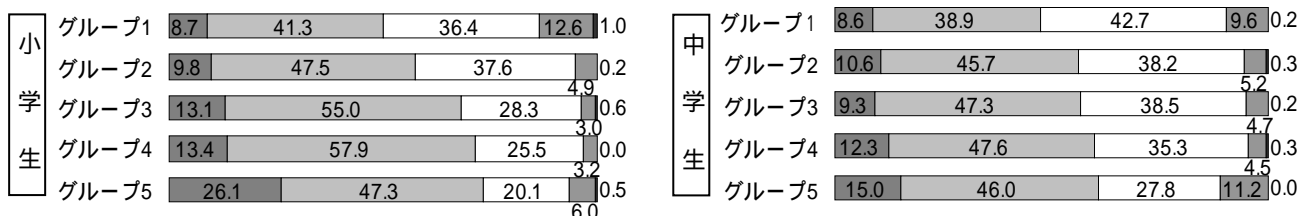
(%)

図1-4-12を見ると、いくつかの項目について授業の理解度と関連があることがわかる。たとえば、小学生では、「自分が興味や疑問をもった点を自分のやり方でとことん学習できる」「地域の歴史や文化、産業に直接ふれることができる」「ふだん体験できないようなことが体験できる」といった項目で、「グループ5」ほど「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計、以下同様）という回答が多くなる傾向が表れる。反対に、「自分で考えなければいけないので、何を調べたり勉強したりしてよいかわからない」「学んだことが、ふだんの自分の生活や将来の自分にとってどのように役立つかわからない」などの項目では、「グループ1」ほど「そう思う」の回答が多くなる。

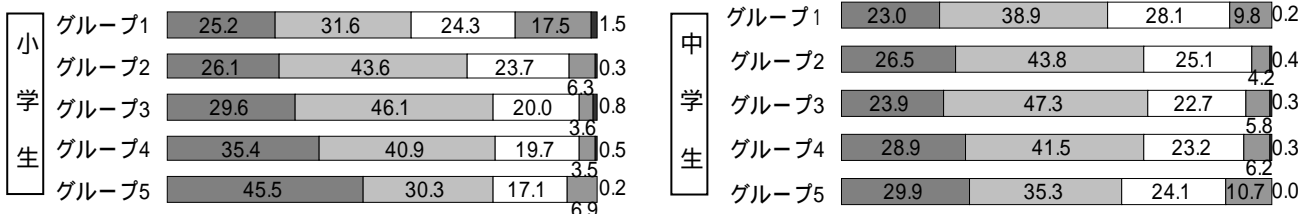
中学生では、「ひとつのテーマに時間をかけすぎていて、たいくつだ」「自分の興味・関心のある内容とは異なることが多い」「国語や数学など教科の授業をやったほうがよい」などの項目に「そう思う」と回答する比率が、「グループ4」や「グループ5」で多くなっている。

図1-4-12 「総合的な学習の時間」についての考え（学校段階別、授業理解度別）

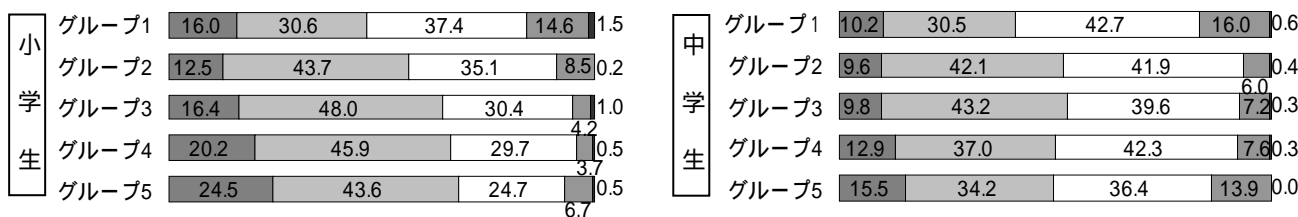
自分が興味や疑問をもった点を自分のやり方でとことん学習できる



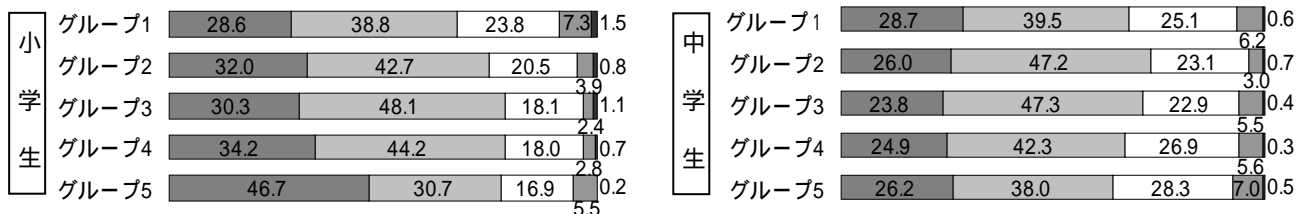
学校の勉強がふだんの自分の生活や将来の進路にも関係があるとわかる



地域の歴史や文化、産業に直接ふれることができる

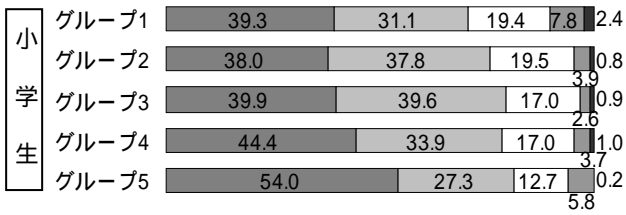


いろいろな人と話をしたり、活動したりできる

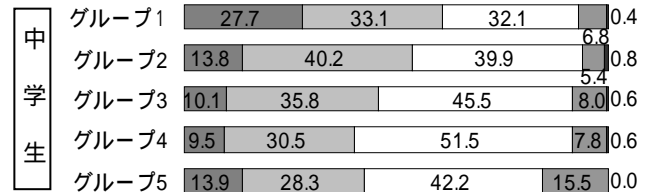
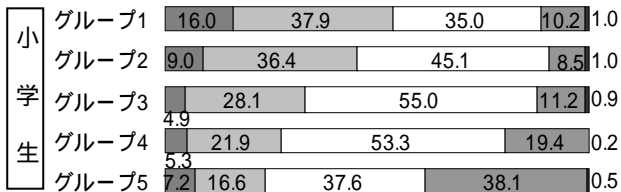


\* 数値は左から「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」「無答・不明」の値 (%)。

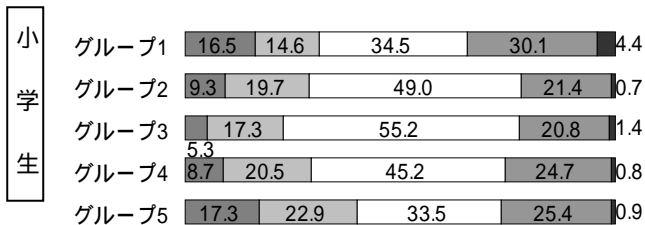
**ふだん体験できないようなことが体験できる**



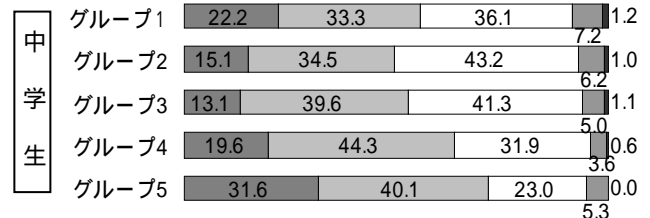
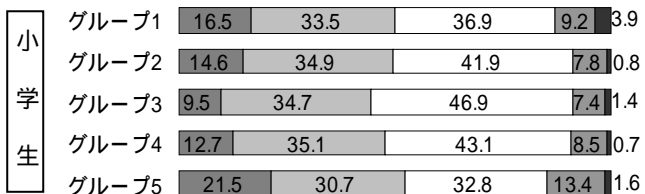
**自分で考えなければいけないので、何を調べたり勉強したりしてよいかわからない**



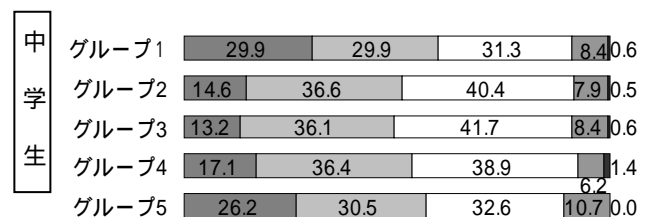
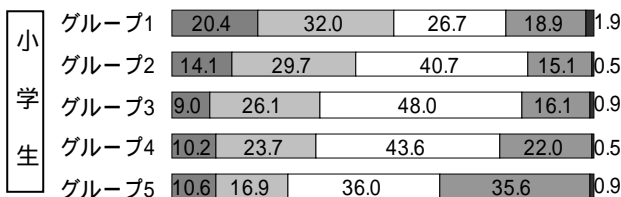
**ひとつのテーマに時間をかけすぎていて、たいくつだ**



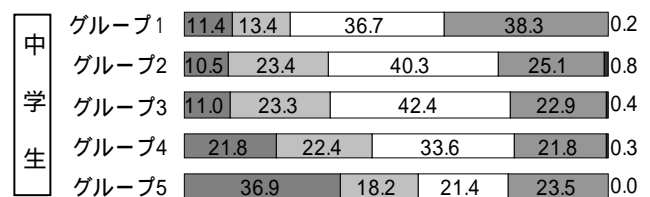
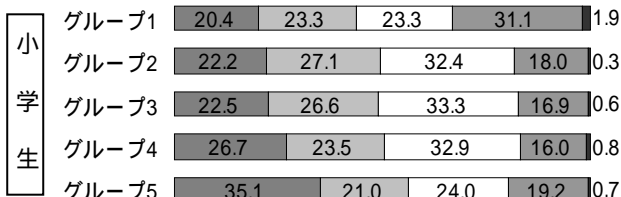
**自分の興味・関心のある内容とは異なることが多い**



**学んだことが、ふだんの自分の生活や将来の自分にとってどのように役立つかわからない**



**国語や算数など教科の授業をやったほうがよい(中学生は「算数」「数学」)**



\* 数値は左から「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」「無答・不明」の値(%)

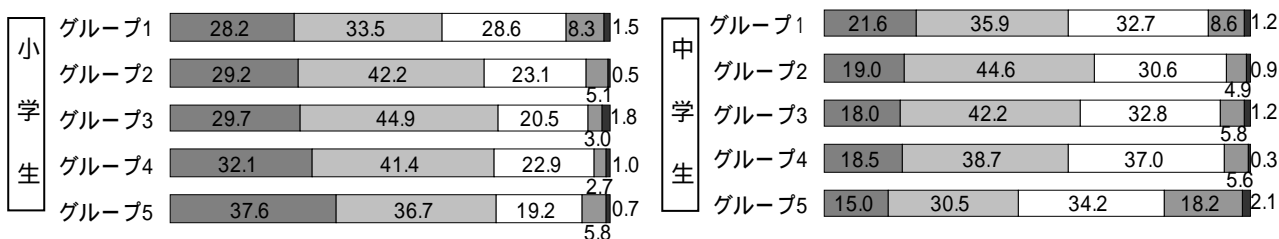
次に、「総合的な学習の時間」の役立ち感について、授業理解度のグループ別に見てみた。図1-4-13に示したように、小学生は、「自分の考えたことをうまく文章にしたり発表したりできるようになった」「情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた」「国語や算数など教科の勉強をもっとする必要があると思った」「自分の将来の進路や仕事について考えるようになった」など多くの項目で、「グループ5」がもっとも多く「そう思う」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計、以下同様）と回答している。

これに対して、中学生では、「グループ4」に「そう思う」という回答がもっとも多くなっている項目がいくつかみられ、授業理解度と「総合的な学習の時間」の役立ち感には一定の関係が見られるものの、「グループ1」から「グループ5」にかけて段階的に増減する項目はない。

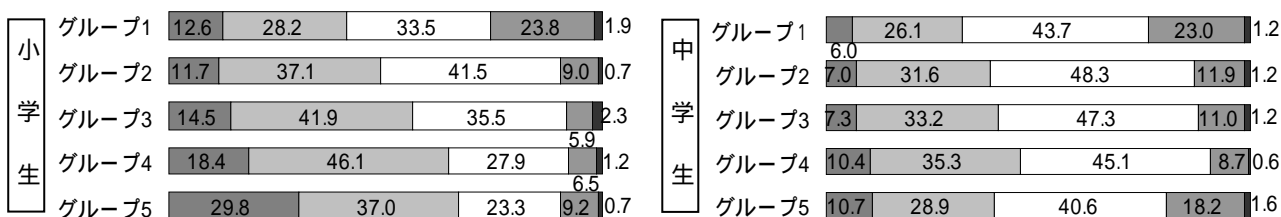
なお、『総合的な学習の時間』で勉強したことは役に立っていないについては、小学生、中学生ともに「グループ1」と「グループ5」で「そう思う」という回答比率が高いという結果になっている。

図1-4-13 「総合的な学習の時間」の役立ち感（学校段階別、授業理解度別）

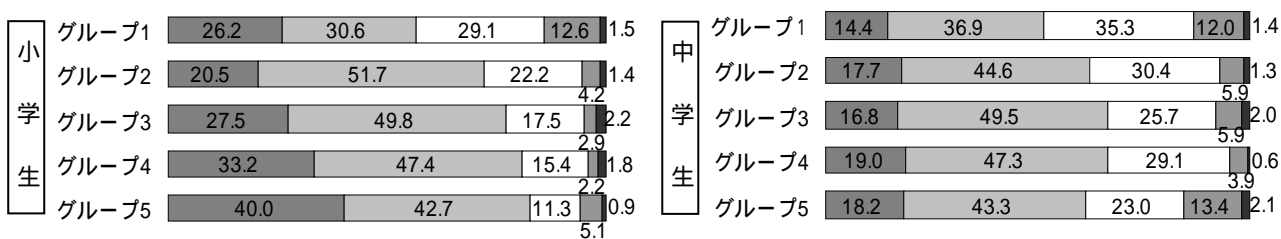
自分が興味をもったことをもっと調べてみたくなった



自分の考えたことをうまく文章にしたり発表したりできるようになった



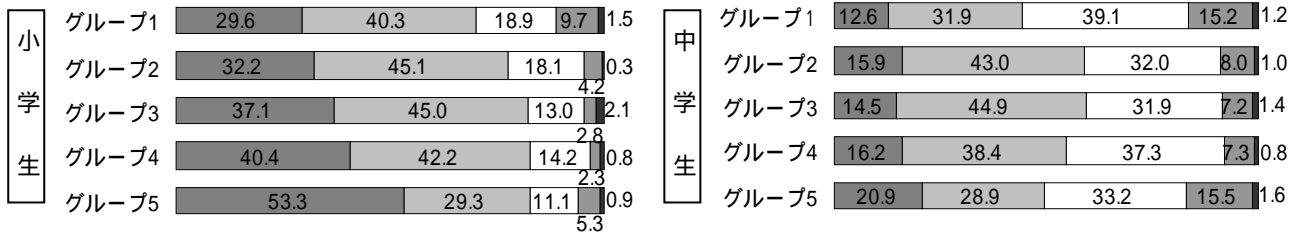
情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた



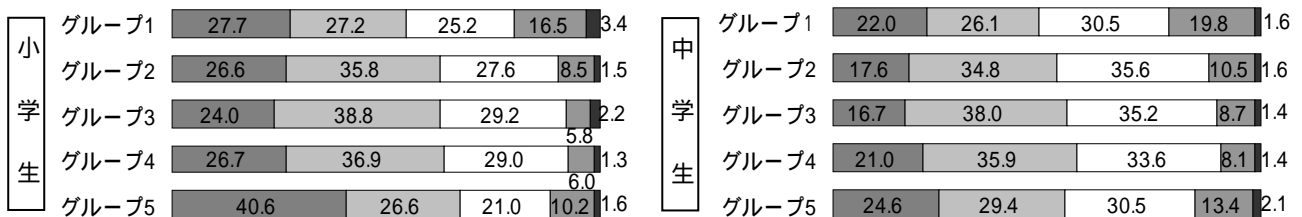
\* 数値は左から「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」「無答・不明」の値(%)



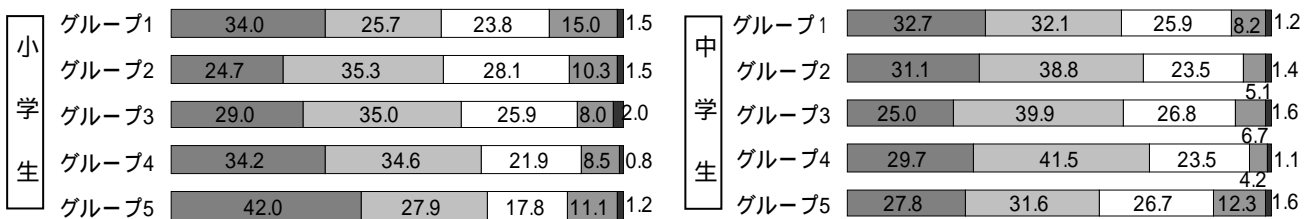
**国語や算数など教科で勉強したことが自分にとって大切なことだとわかった(中学生は「算数」「数学」)**



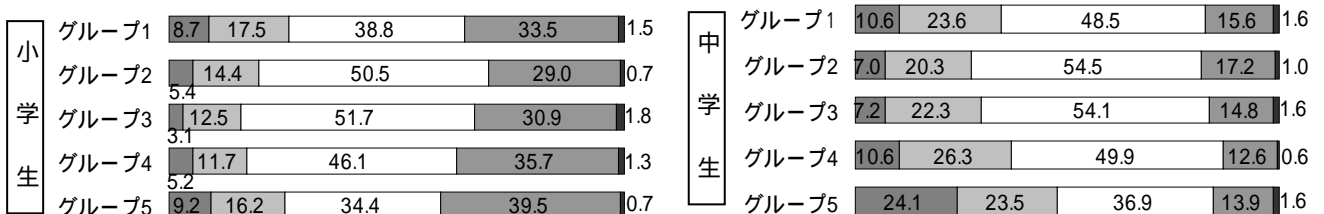
**国語や算数など教科の勉強をもっとする必要があると思った(中学生は「算数」「数学」)**



**自分の将来の進路や仕事について考えるようになった**



**「総合的な学習の時間」で勉強したことは役に立っていない**



\*数値は左から「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」「無答・不明」の値(%)

## 5 . 習熟度別授業に対する意識

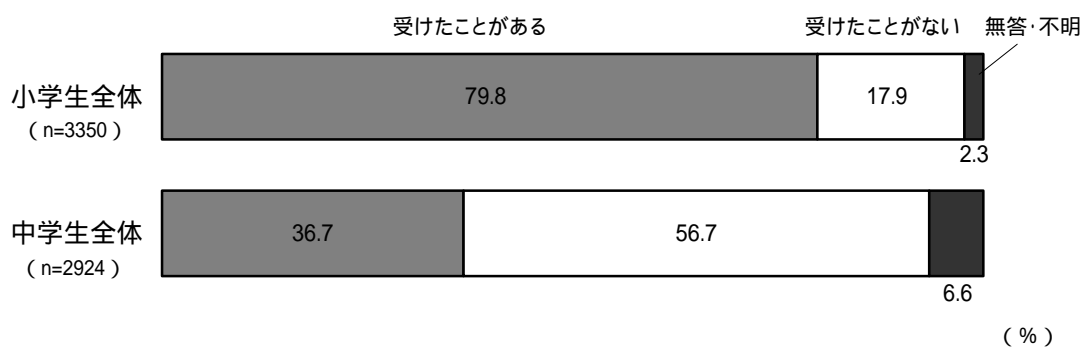
### (1) 習熟度別授業を受けた経験

本節では、習熟度別授業について小・中学生にたずねた結果を見ていくことにする。

図1 - 5 - 1は、「授業内容をどれくらい理解しているかによってクラスをいくつかのグループに分けて授業すること」について、そのような授業を学校で受けたことがあるかを聞いた結果である。「受けたことがある」という回答は、小学生の約8割、中学生の4割弱であった。

なお、この数値は、実際に学校が習熟度別授業を実施しているかどうかをそのまま反映しているものではない。あくまで小・中学生が学校でそのような授業を受けたことがあると認識しているかどうかを表した結果であることを補足しておく。

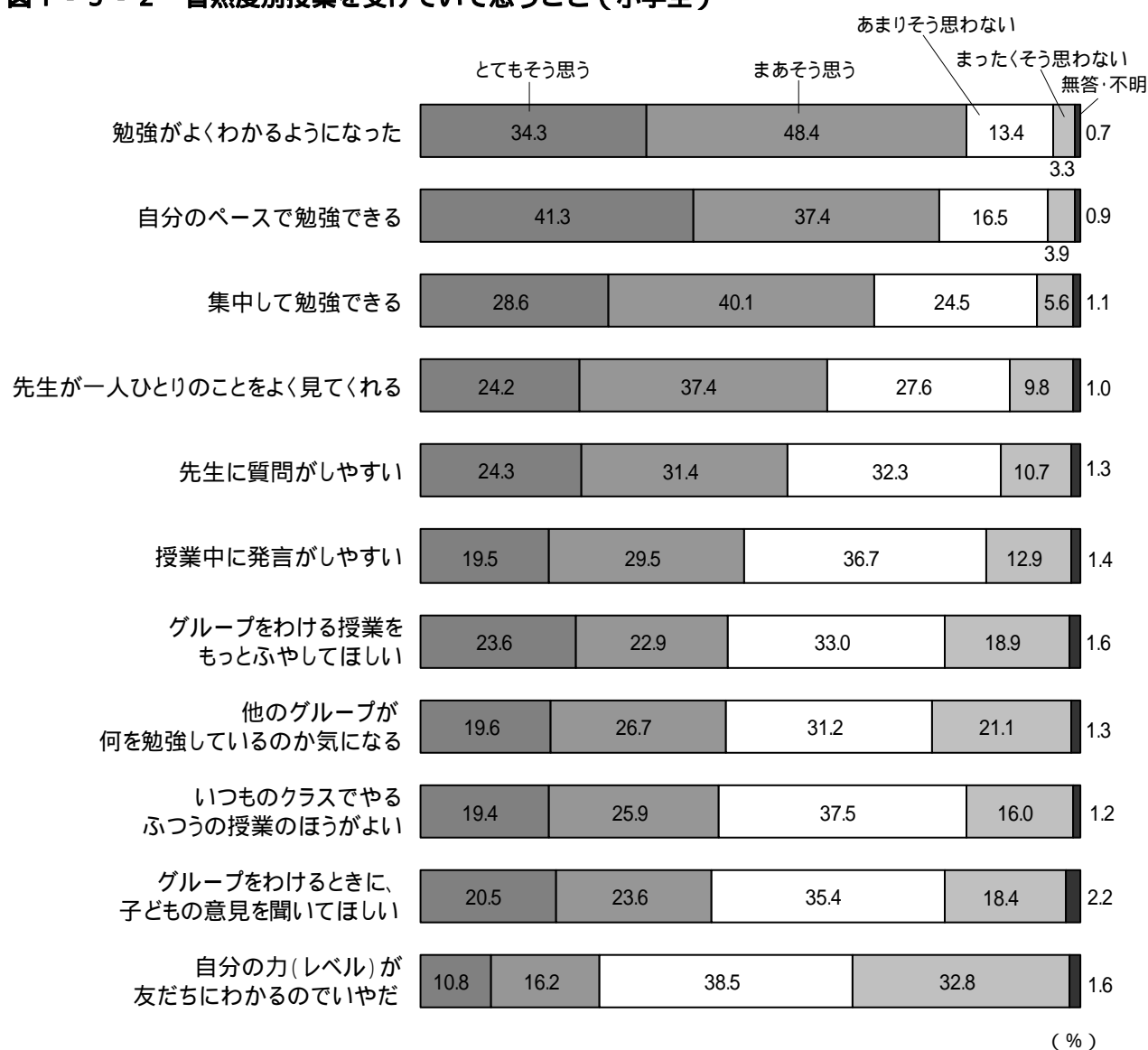
図1 - 5 - 1 習熟度別授業を受けた経験



## (2) 習熟度別授業に対する意識

次に、「受けたことがある」と回答した小学生(2,673名)に対して、習熟度別授業を受けていて思うことを聞いた(図1-5-2)。その結果、「勉強がよくわかるようになった」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計:82.7%、以下同様)、「自分のペースで勉強できる」(78.7%)、「集中して勉強できる」(68.7%)など、受けた経験がある小学生は肯定的にとらえていることがわかる。ただし、「他のグループが何を勉強しているのか気になる」(46.3%)、「いつものクラスでやるふつうの授業のほうがよい」(45.3%)「グループをわけるときに子どもの意見を聞いてほしい」(44.1%)なども半数弱の小学生が「そう思う」と回答している。

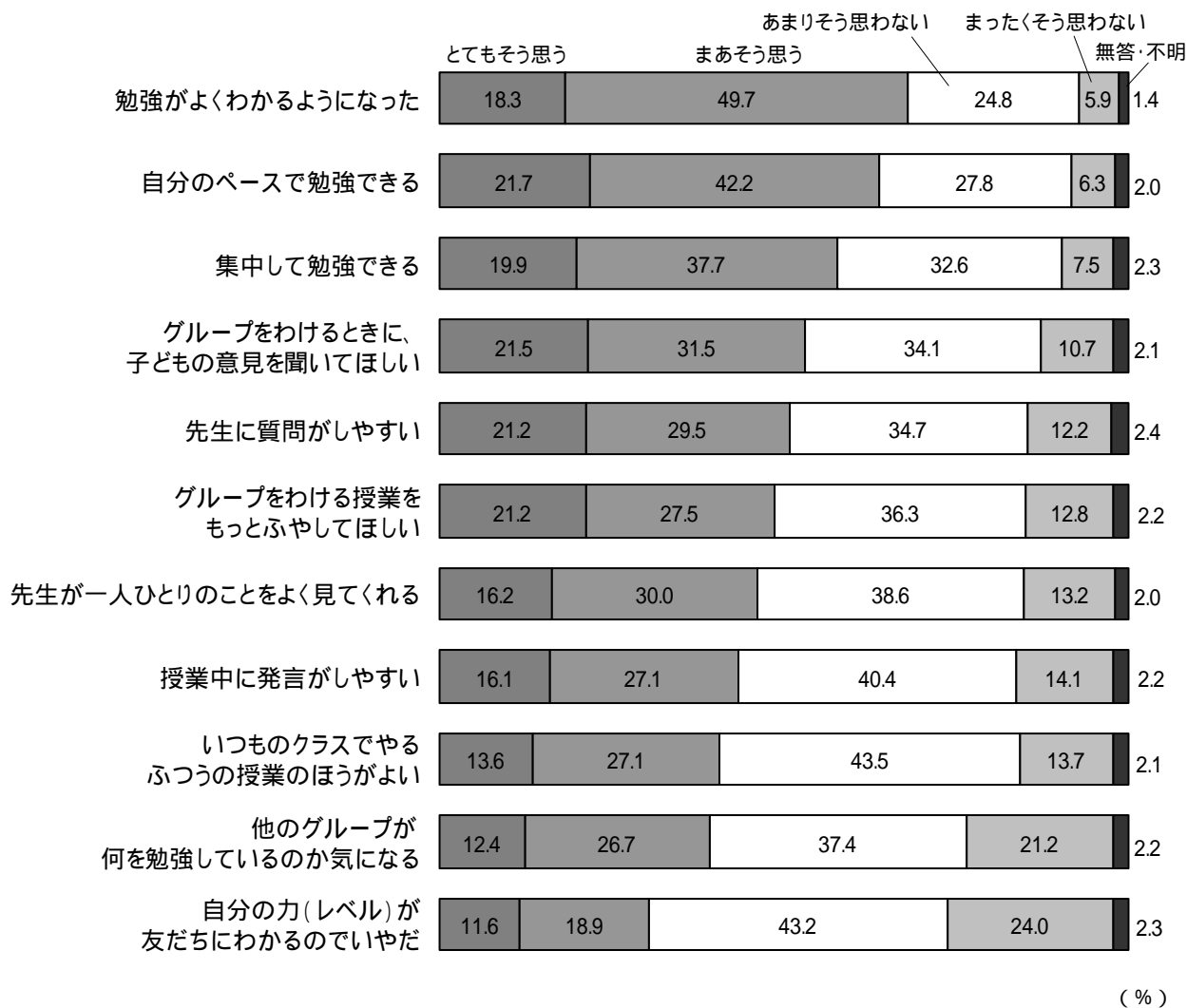
図1-5-2 習熟度別授業を受けていて思うこと(小学生)



\* 習熟度別授業を受けた経験についての設問で、「受けたことがある」と回答した小学生(n=2673)を母数としている。

同様に、習熟度別授業を「受けたことがある」と回答した中学生（1,073名）に、どう思うかを聞いた結果が図1-5-3である。「勉強がよくわかるようになった」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：68.0%、以下同様）、「自分のペースで勉強できる」（63.9%）、「集中して勉強できる」（57.6%）などで「そう思う」の比率が高い。「いつものクラスでやるふつうの授業のほうがよい」（40.7%）、「他のグループが何を勉強しているのか気になる」（39.1%）は4割前後である。

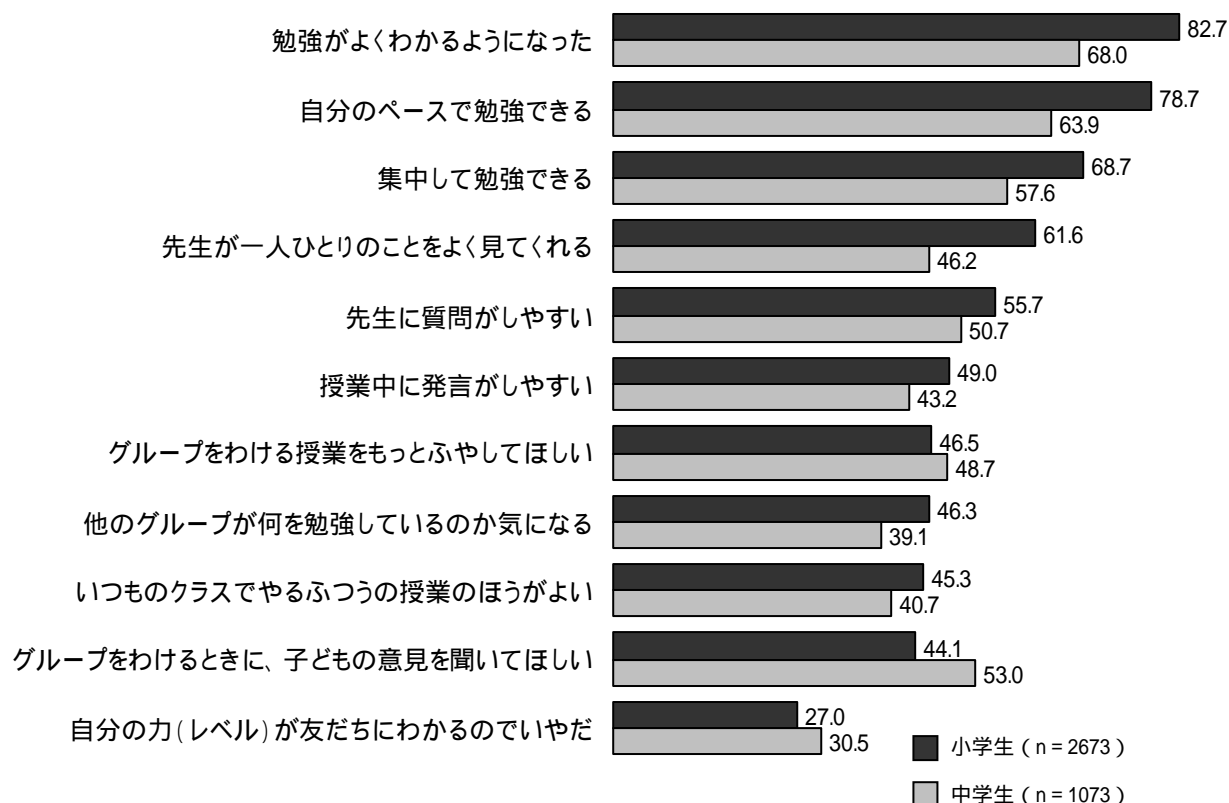
図1-5-3 習熟度別授業を受けていて思うこと（中学生）



\* 習熟度別授業を受けた経験についての設問で、「受けたことがある」と回答した中学生（n=1073）を母数としている。

習熟度別授業を受けていて思うことを学校段階別に見たのが、**図1-5-4**である。「先生が一人ひとりのことをよく見てくれる」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生61.6% > 中学生46.2%、以下同様）「自分のペースで勉強できる」(78.7% > 63.9%)、「勉強がよくわかるようになった」(82.7% > 68.0%)、「集中して勉強できる」(68.7% > 57.6%)などの項目で、中学生よりも小学生のほうが「そう思う」の割合が高い。

**図1-5-4 習熟度別授業を受けていて思うこと（学校段階別）**



\*「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

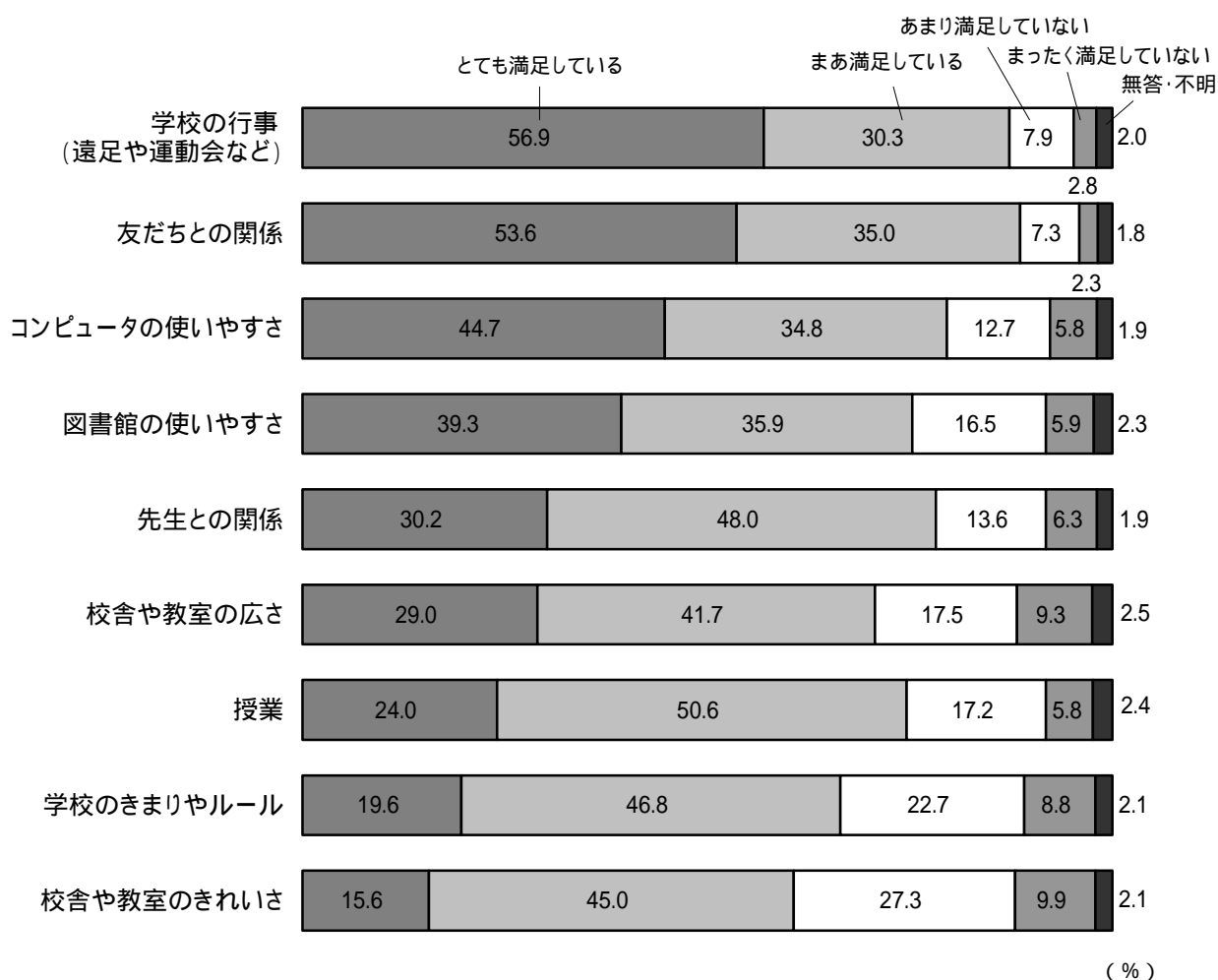
\* 習熟度別授業を受けた経験についての設問で、「受けたことがある」と回答した児童生徒を母数にしている。

## 2章 学校や勉強についての意見

### 1. 学校生活の満足度

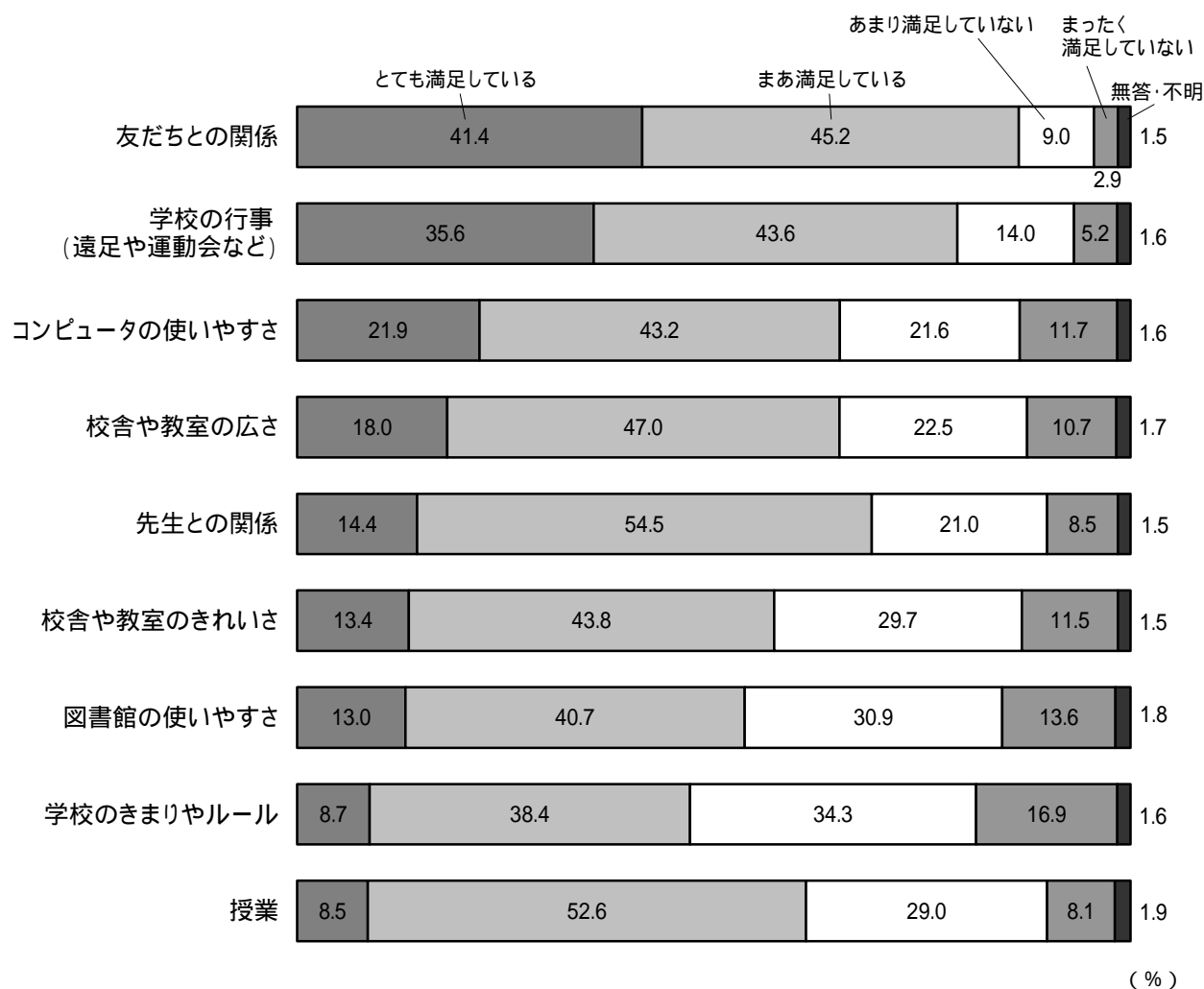
最初に、子どもたちが学校生活をどのように評価しているのかについて確認しよう。図2-1-1は、小学生に対して人間関係や学校の取り組み、施設・設備などに関する満足度をたずねた結果である。「とても満足している」の比率を見ると、「学校の行事（遠足や運動会など）」（56.9%）、「友だちとの関係」（53.6%）などの項目で数値が高い。逆に「あまり満足していない」「まったく満足していない」という回答が多いのは、「校舎や教室のきれいさ」（「あまり満足していない」と「まったく満足していない」の合計：37.2%、以下同様）、「学校のきまりやルール」（31.5%）などであった。

図2-1-1 学校生活の満足度（小学生）



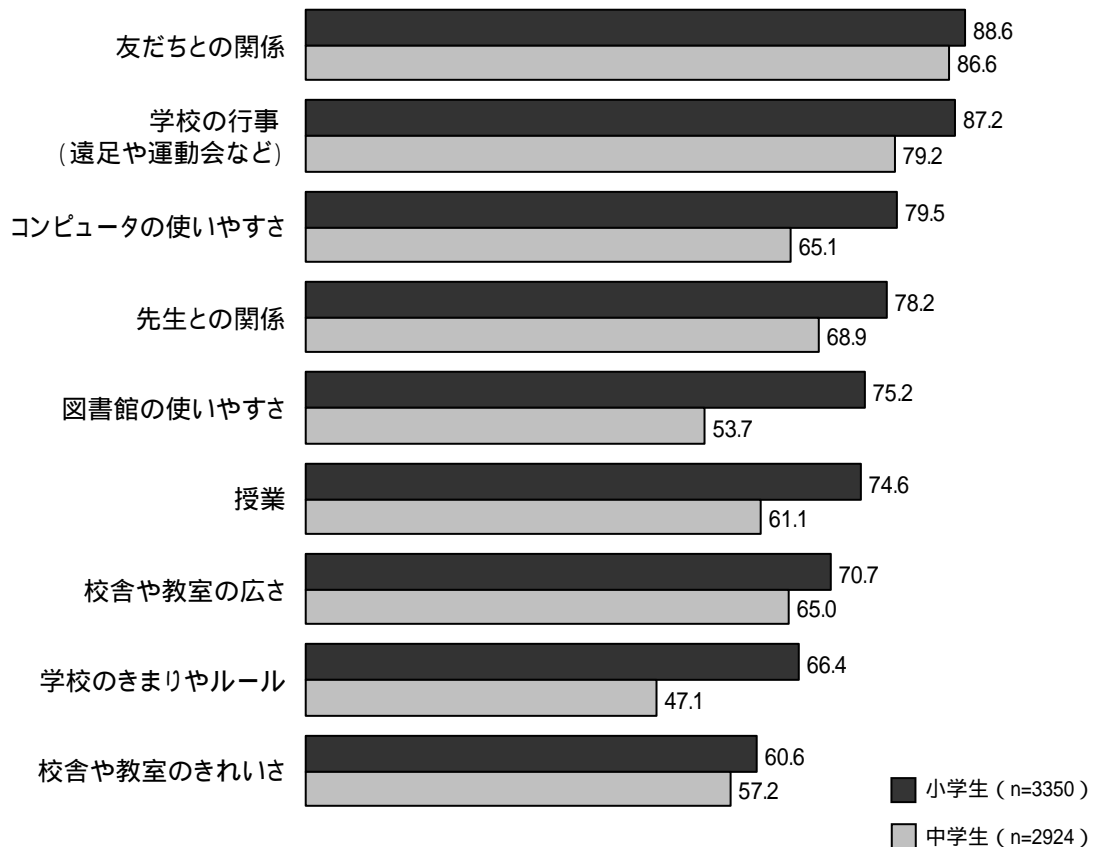
次に、中学生の学校生活の満足度を「とても満足している」の割合で見ると(図2-1-2)、「友だちとの関係」(41.4%)、「学校の行事(遠足や運動会など)」(35.6%)などの項目で比率が高くなっている。逆に満足度の低い項目としては、「学校のきまりやルール」(「あまり満足していない」と「まったく満足していない」の合計:51.2%、以下同様)、「図書館の使いやすさ」(44.5%)、「校舎や教室のきれいさ」(41.2%)などがあげられる。

図2-1-2 学校生活の満足度(中学生)



学校生活の満足度を学校段階別に見ると(図2-1-3)、「図書館の使いやすさ」、「とても満足している」と「まあ満足している」の合計：小学校 75.2% > 中学校 53.7%、以下同様)、「学校のきまりやルール」(66.4% > 47.1%)、「コンピュータの使いやすさ」(79.5% > 65.1%)、「授業」(74.6% > 61.1%)などで学校段階によって差が開いている。

図2-1-3 学校生活の満足度(学校段階別)



\*「とても満足している」と「まあ満足している」の合計(%)



## 2. 学校の楽しさ

満足度について、学校に通うのが楽しいかをたずねたところ、小学生では8割弱（「とても楽しい」と「まあ楽しい」の合計：78.9%、以下同様）が、中学生でも4人に3人（75.0%）が「楽しい」と答えている（図2-2-1）。

つづいて、学校に通うのが楽しいかを学年別にみたのが、図2-2-2である。「楽しい」（「とても楽しい」と「まあ楽しい」の合計）と答えた割合は、小6生でもっとも多くなっている。

図2-2-1 学校の楽しさ（学校段階別）

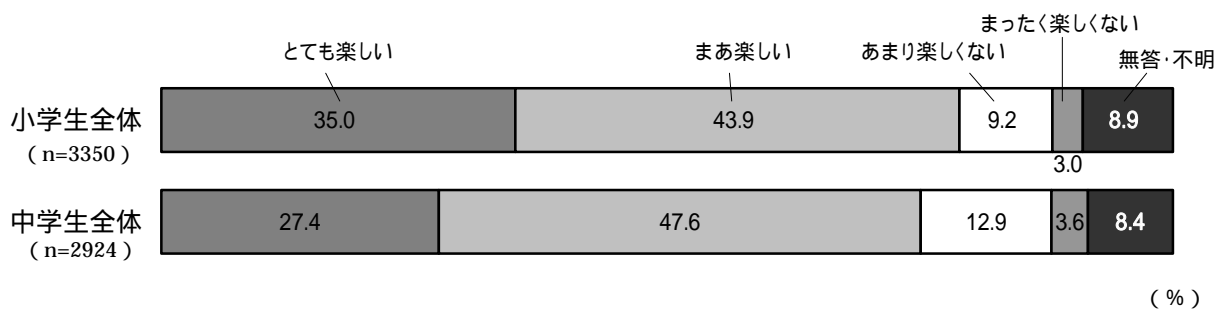
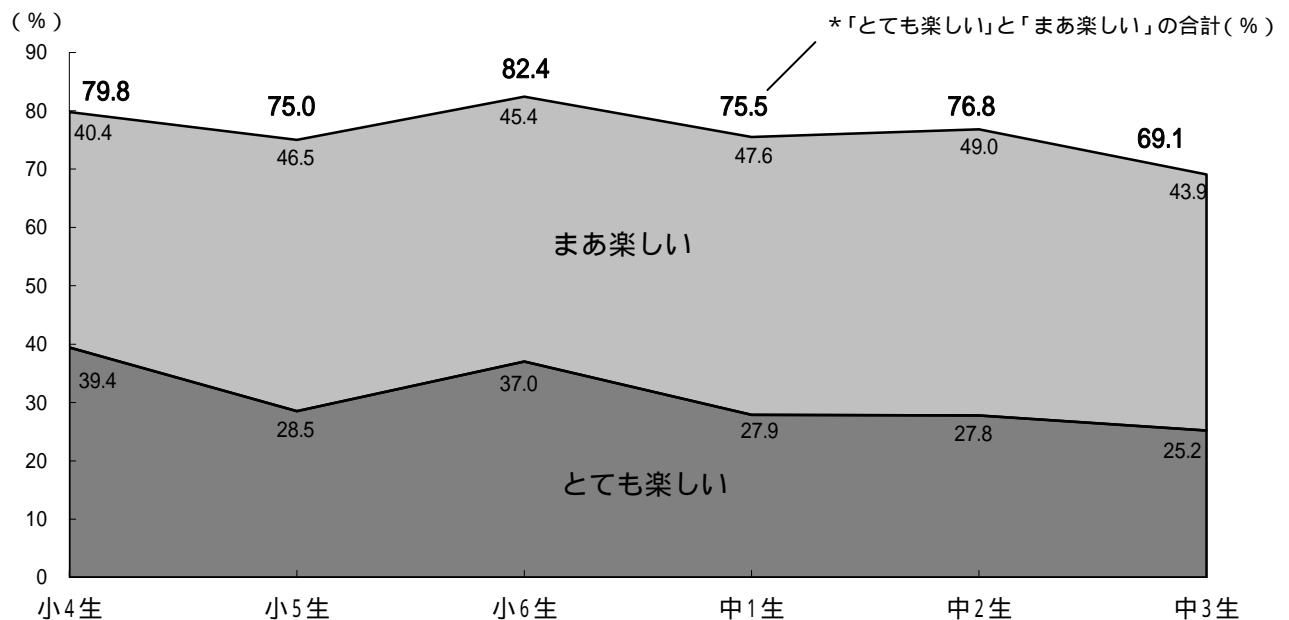
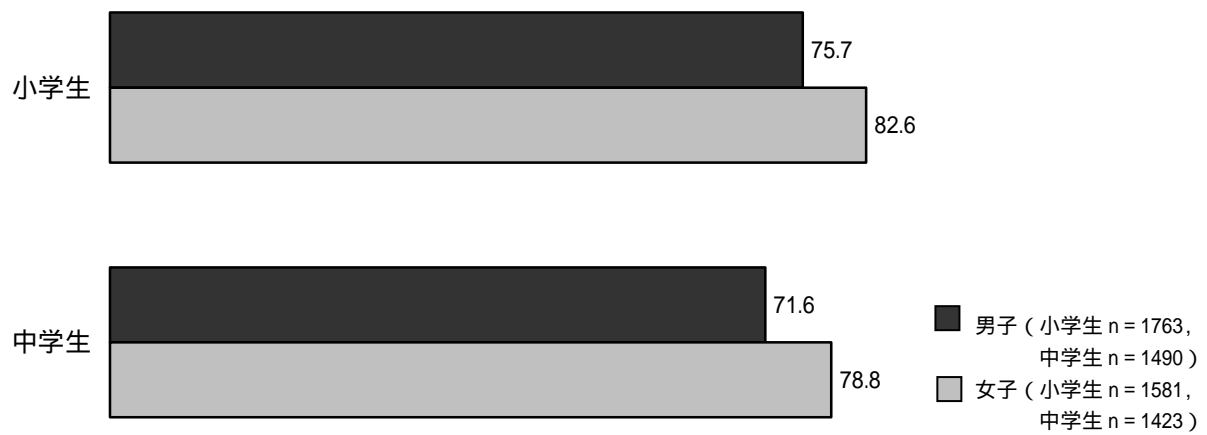


図2-2-2 学校の楽しさ（学年別）



次に、学校に行くのが楽しいかどうかを性別にみると（図2 - 2 - 3）、小学生、中学生ともに女子のほうが学校を「楽しい」と思っていることが分かる（「とても楽しい」と「まあ楽しい」の合計：小学生男子 75.7% < 小学生女子 82.6%、中学生男子 71.6% < 中学生女子 78.8%）。

図2 - 2 - 3 学校の楽しさ（学校段階別・性別）

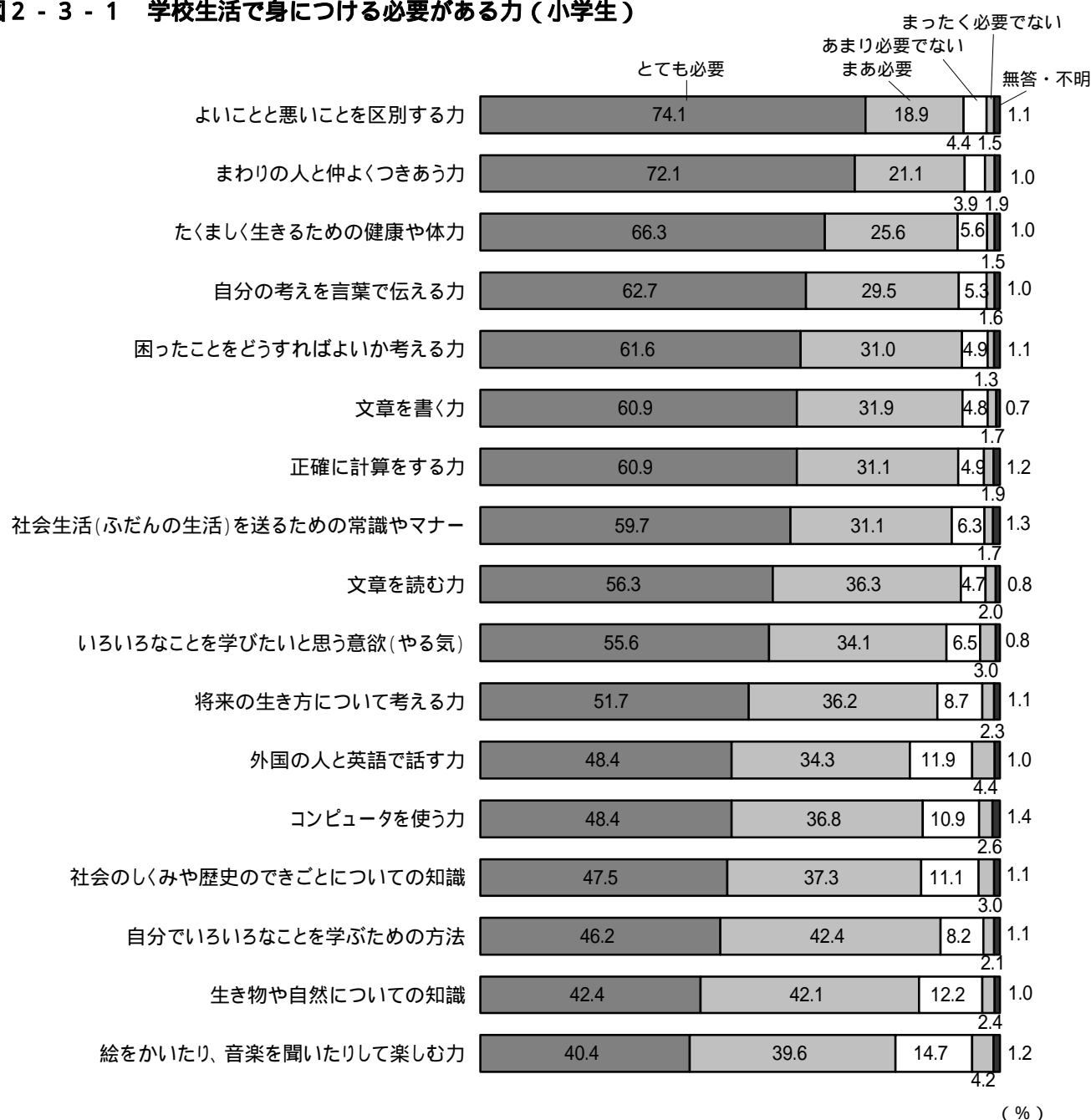


\* 「とても楽しい」と「まあ楽しい」の合計 (%)

## 3. 学校で身につける必要がある力

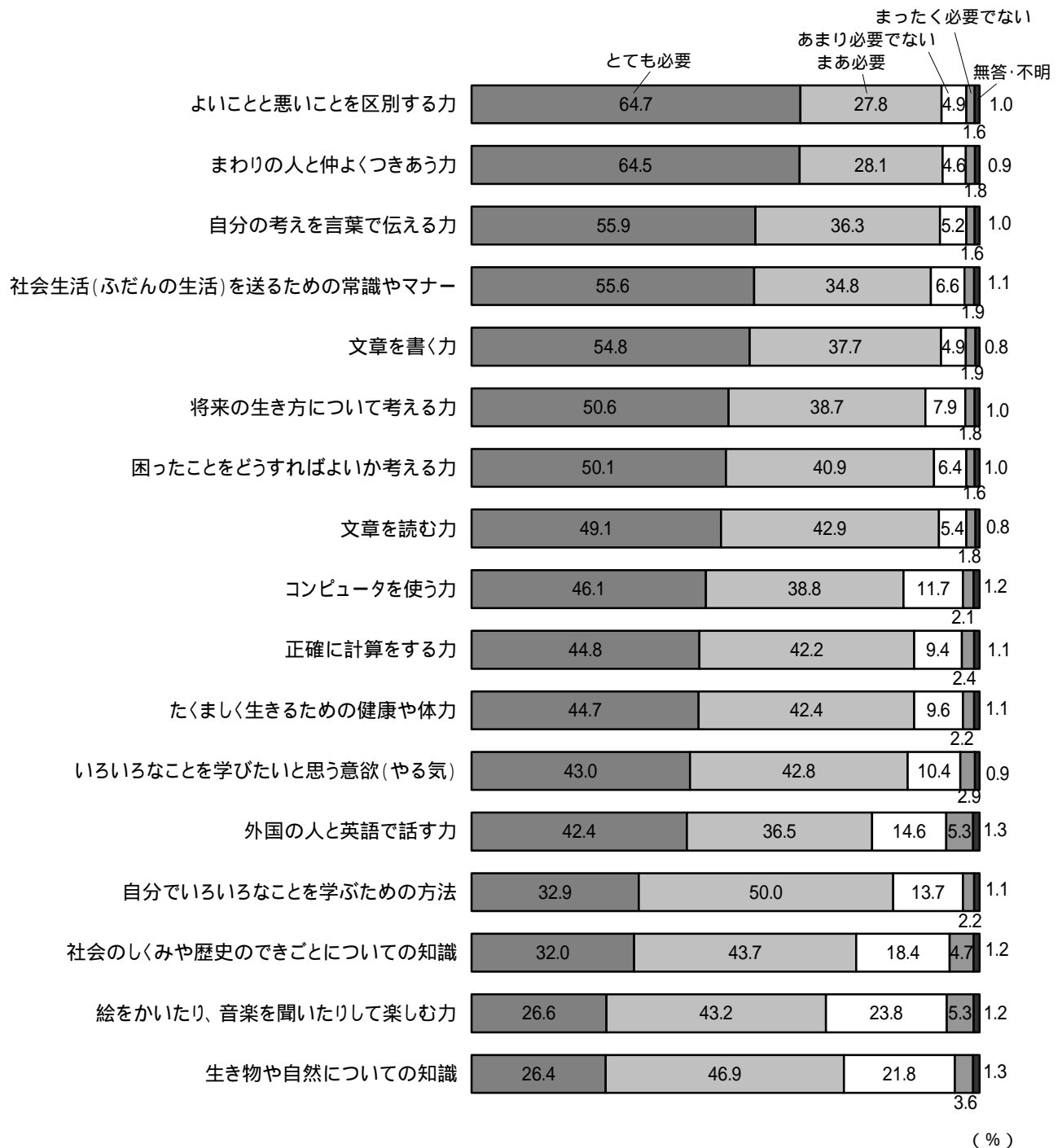
つづいて、小学生に対して、小学校での生活や勉強でどのような力を身につける必要があるかをたずねた結果(図2-3-1)を見ていこう。「とても必要」という回答が多い項目を順に並べると、「よいことと悪いことを区別する力」(74.1%)、「まわりの人と仲よくつきあう力」(72.1%)、「たくましく生きるための健康や体力」(66.3%)、「自分の考えを言葉で伝える力」(62.7%)、「困ったことをどうすればよいか考える力」(61.6%)、「文章を書く力」(60.9%)、「正確に計算をする力」(60.9%)が上位にくる結果となった。

図2-3-1 学校生活で身につける必要がある力(小学生)



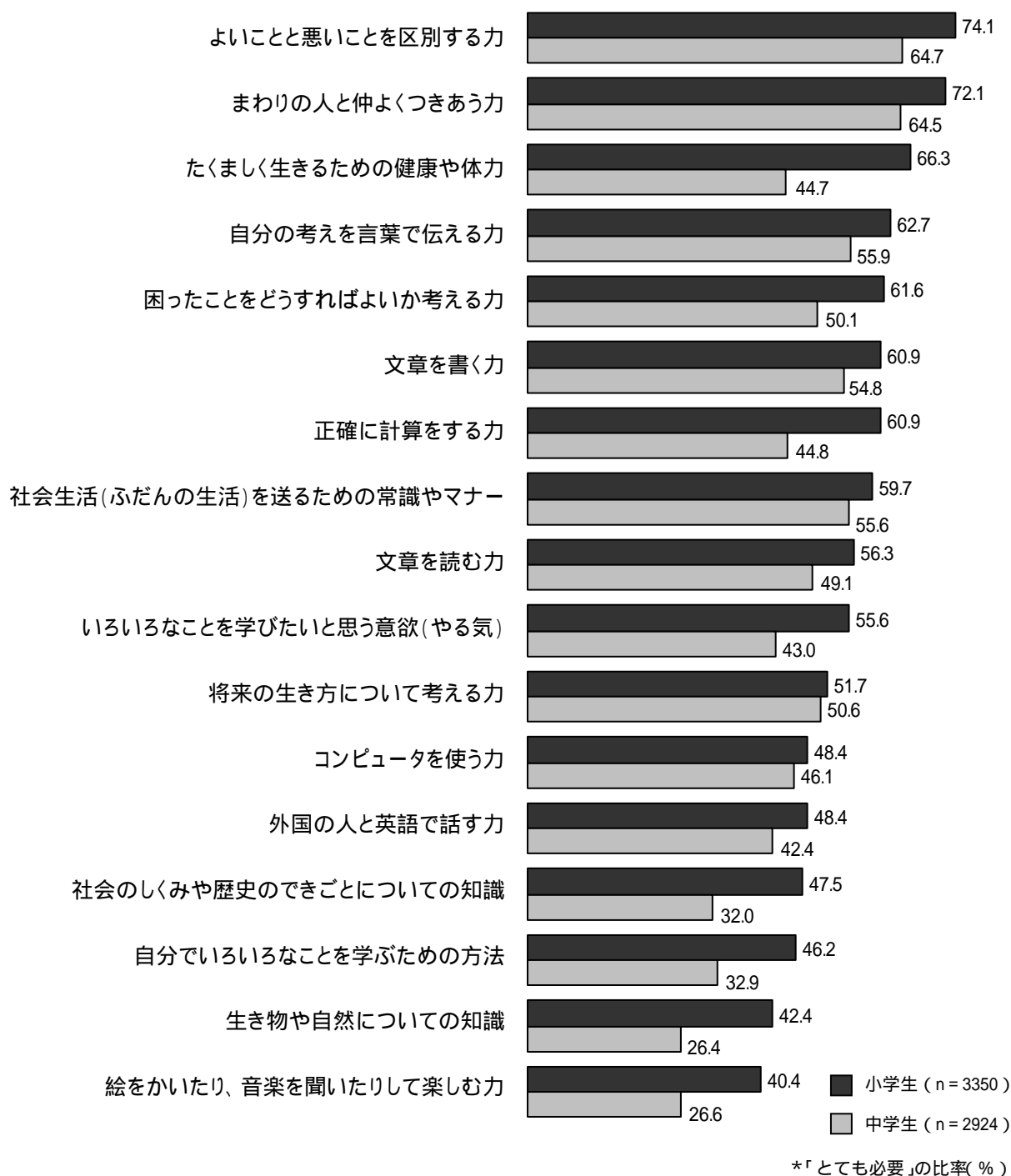
小学生と同様に、中学生に対して、中学校の生活や勉強で身につけるべき力をたずねた（図2-3-2）。「とても必要」の数値の高いものから順に、「よいことと悪いことを区別する力」（64.7%）、「まわりの人と仲よくつきあう力」（64.5%）、「自分の考えを言葉で伝える力」（55.9%）、「社会生活（ふだんの生活）を送るための常識やマナー」（55.6%）、「文章を書く力」（54.8%）となった。

図2-3-2 学校生活で身につける必要がある力（中学生）



学校生活で身につけることが「とても必要」と考えている力を学校段階別にみたのが、**図2-3-3**である。すべての項目で中学生より小学生のほうが、数値が高かった。その中でもとくに差が大きかったものは、「たくましく生きるための健康や体力」（「とても必要」：小学生 66.3% > 中学生 44.7%、以下同様）、「正確に計算をする力」（60.9% > 44.8%）、「生き物や自然についての知識」（42.4% > 26.4%）、「社会のしくみや歴史のできごとについての知識」（47.5% > 32.0%）であった。

**図2-3-3 学校生活で身につける必要がある力（学校段階別）**

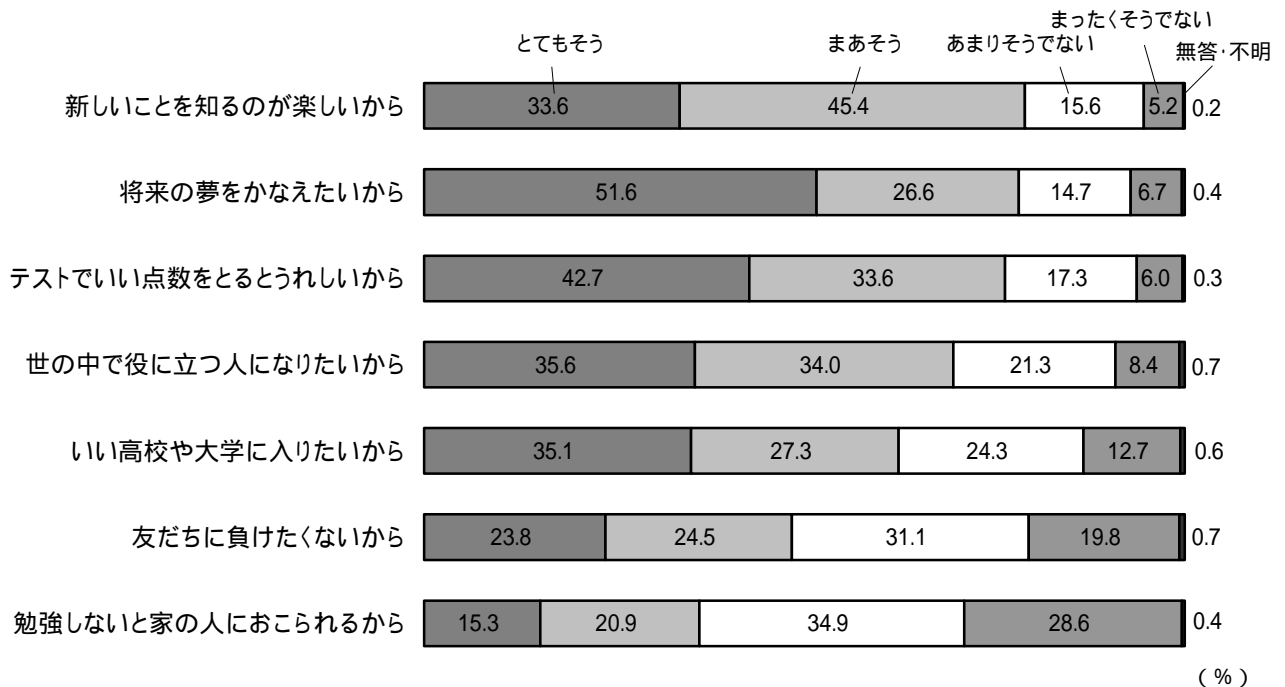


#### 4 . 勉強する理由

勉強する理由について小学生に聞いた結果を、**図2 - 4 - 1**に示した。「とてもそう」「まあそう」と答えた割合の高い順にみると、「新しいことを知るの楽しいから」「とてもそう」と「まあそう」の合計：79.0%、以下同様、「将来の夢をかなえたいから」(78.2%)、「テストでいい点数をとるとうれしいから」(76.3%)となっている。「友だちに負けたくないから」(48.3%)、「勉強しないと家の人におこられるから」(36.2%)などの理由は、他と比べて低い数値となった。

ちなみに、「とてもそう」だけの割合でみると、「将来の夢をかなえたいから」(51.6%)がもっとも高く、小学生段階でも半数が「勉強の理由」として将来の目標を意識していることがわかる。

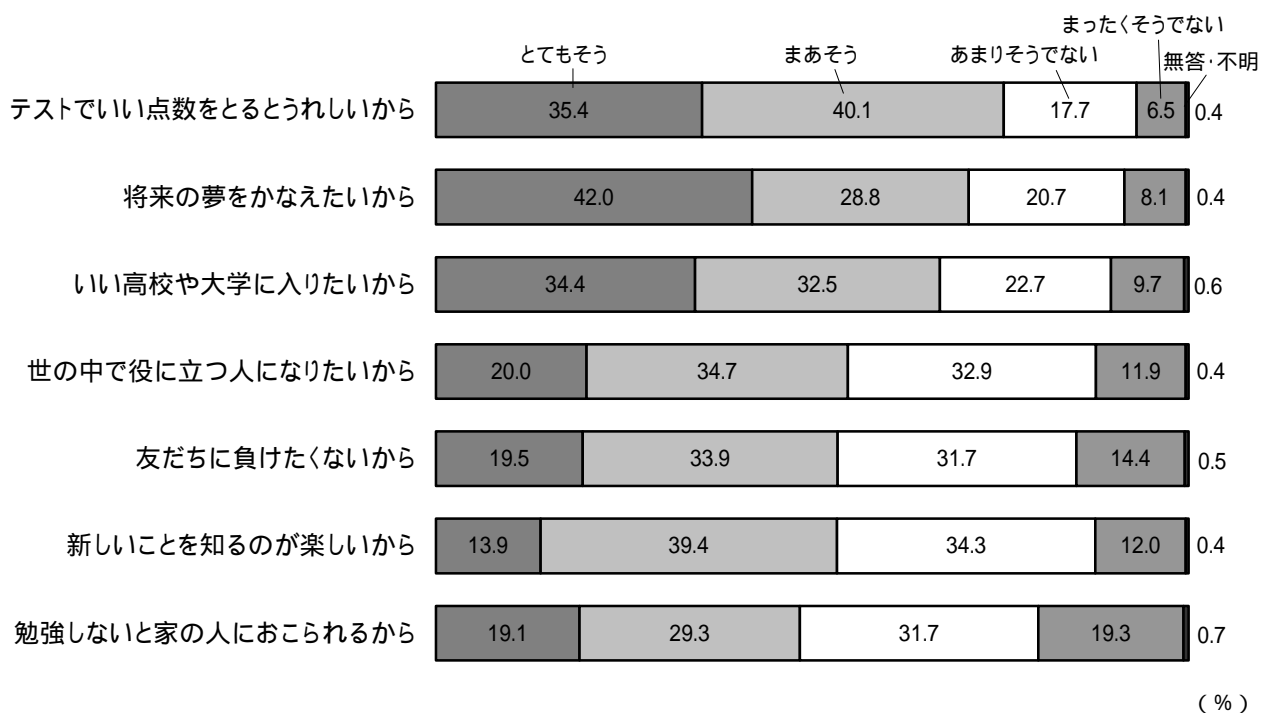
**図2 - 4 - 1 勉強する理由（小学生）**



次に、中学生に対して勉強する理由を聞いた結果を、**図2-4-2**に示した。「テストでいい点数をとるとうれしいから」(「とてもそう」と「まあそう」の合計：75.5%、以下同様)、「将来の夢をかなえたいから」(70.8%)、「いい高校や大学に入りたいから」(66.9%)などで「そう」という回答が多い。

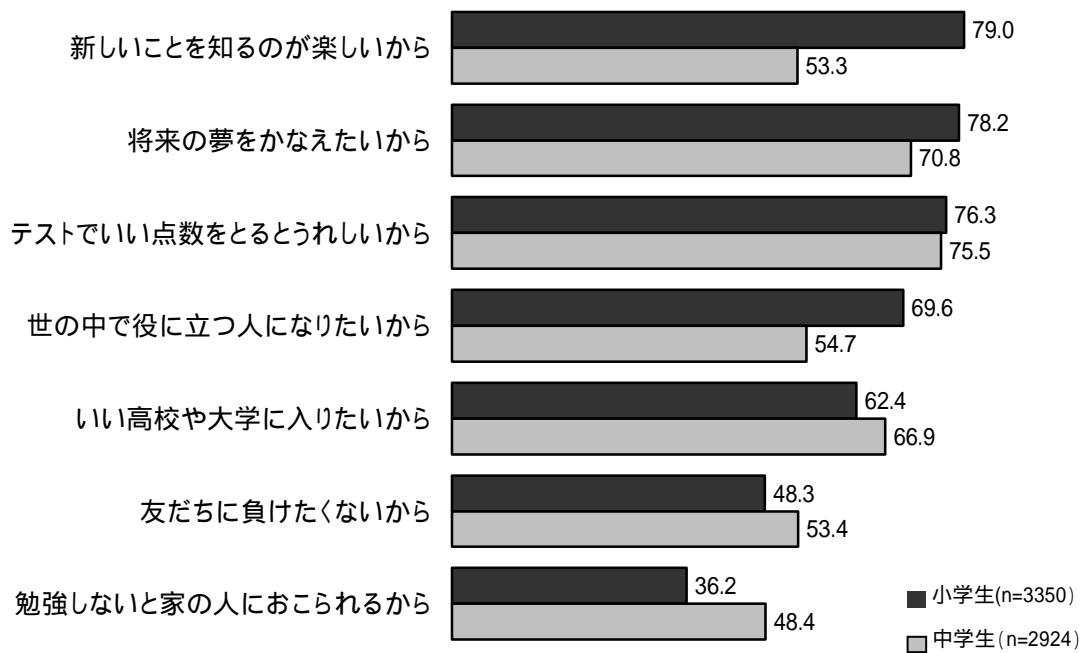
「将来の夢をかなえたいから」は、小学生と同様に「とてもそう」の比率が他の項目よりも高い(42.0%)。

**図2-4-2 勉強する理由(中学生)**



勉強する理由を学校段階別にみた結果を図2-4-3に示した。学校段階による差が大きかったのは、「新しいことを知るの楽しいから」(「とてもそう」と「まあそう」の合計：小学生 79.0% > 中学生 53.3%、以下同様)、「世の中で役に立つ人になりたいから」(69.6% > 54.7%)、「勉強しないと家の人におこられるから」(36.2% < 48.4%)などの項目である。

図2-4-3 勉強する理由(学校段階別)



\*「とてもそう」と「まあそう」の合計(%)

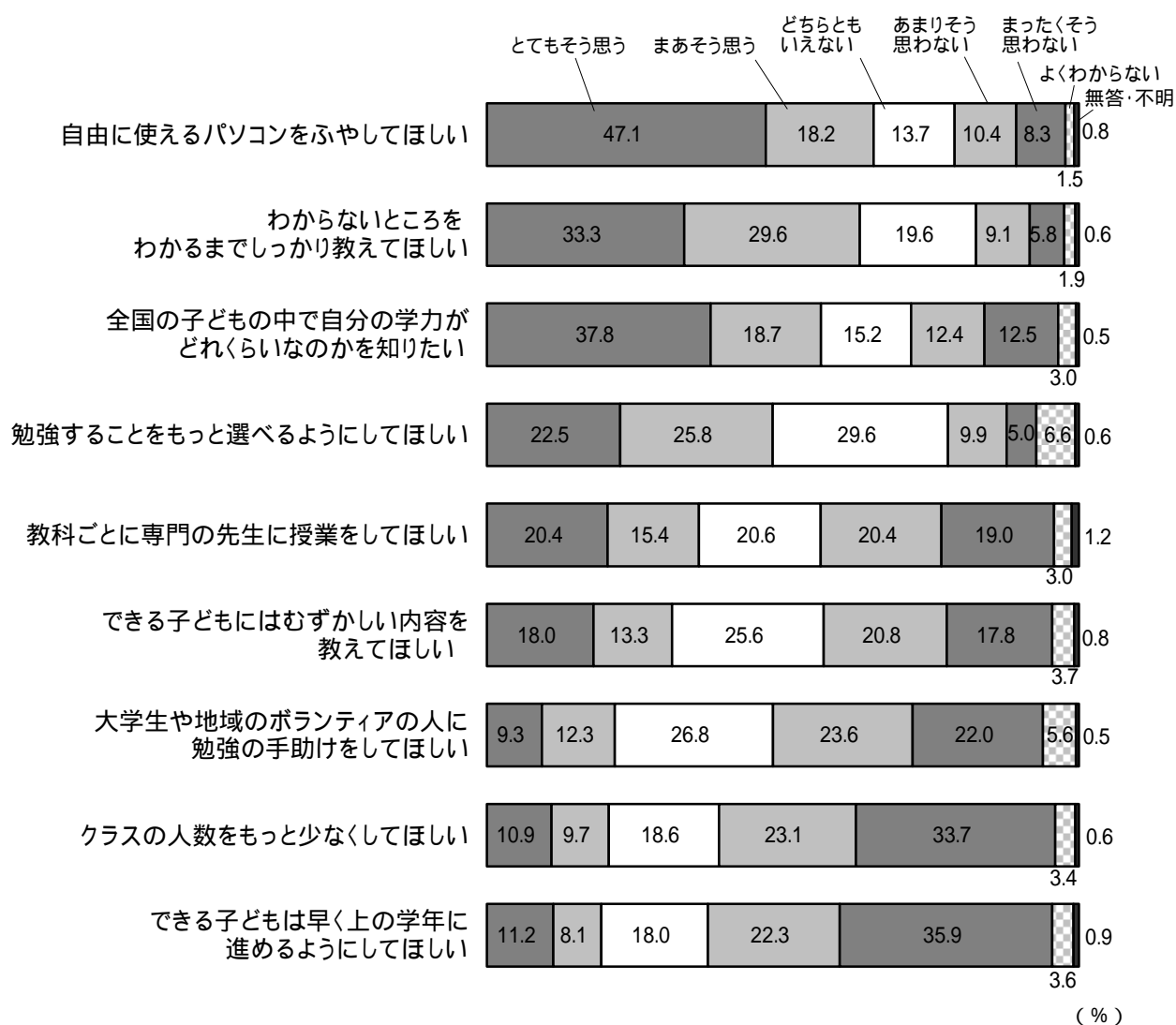


## 5 . 学校や先生に望むこと

小学生に対して「学校や先生に望むこと」を聞いた結果を、**図2-5-1**に示した。「そう思う」の比率が高かった項目は、「自由に使えるパソコンをふやしてほしい」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計:65.3%、以下同様)「わからないところをわかるまでしっかり教えてほしい」(62.9%)「全国の子どもの中で自分の学力がどれくらいなのかを知りたい」(56.5%)などである。

逆に数値の低かったものとしては、「大学生や地域のボランティアの人に勉強の手助けをしてほしい」(21.6%)「クラスの人数をもっと少なくしてほしい」(20.6%)「できる子どもは早く上の学年に進めるようにしてほしい」(19.3%)などであった。

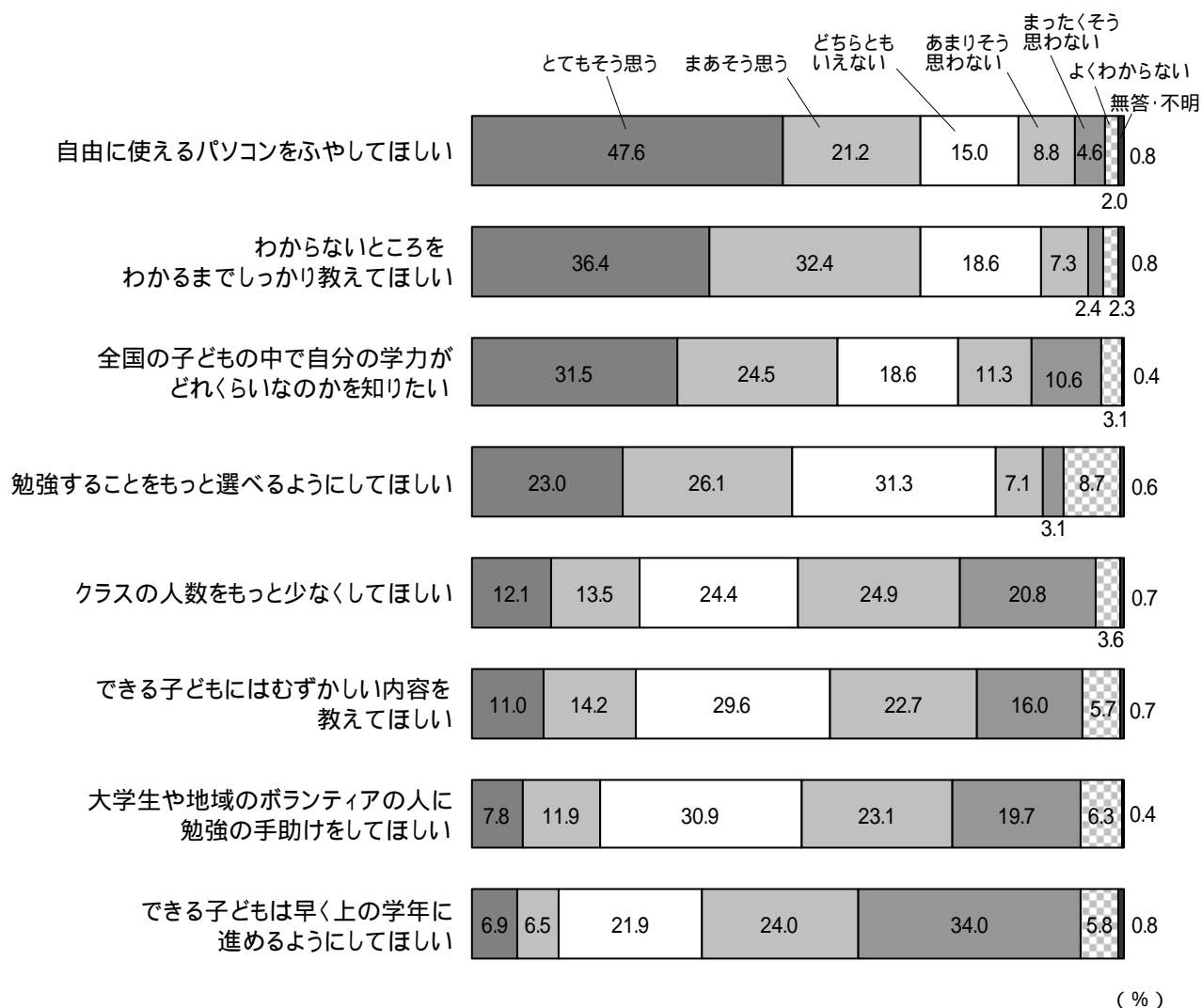
**図2-5-1 学校や先生に望むこと(小学生)**



つづいて、中学生に「学校や先生に望むこと」を聞いた結果を図2-5-2に示した。「そう思う」という回答が多いのは、「自由に使えるパソコンをふやしてほしい」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：68.8%、以下同様)「わからないところをわかるまでしっかり教えてほしい」(68.8%)「全国の子どもの中で自分の学力がどれくらいなのかを知りたい」(56.0%)の順になっている。

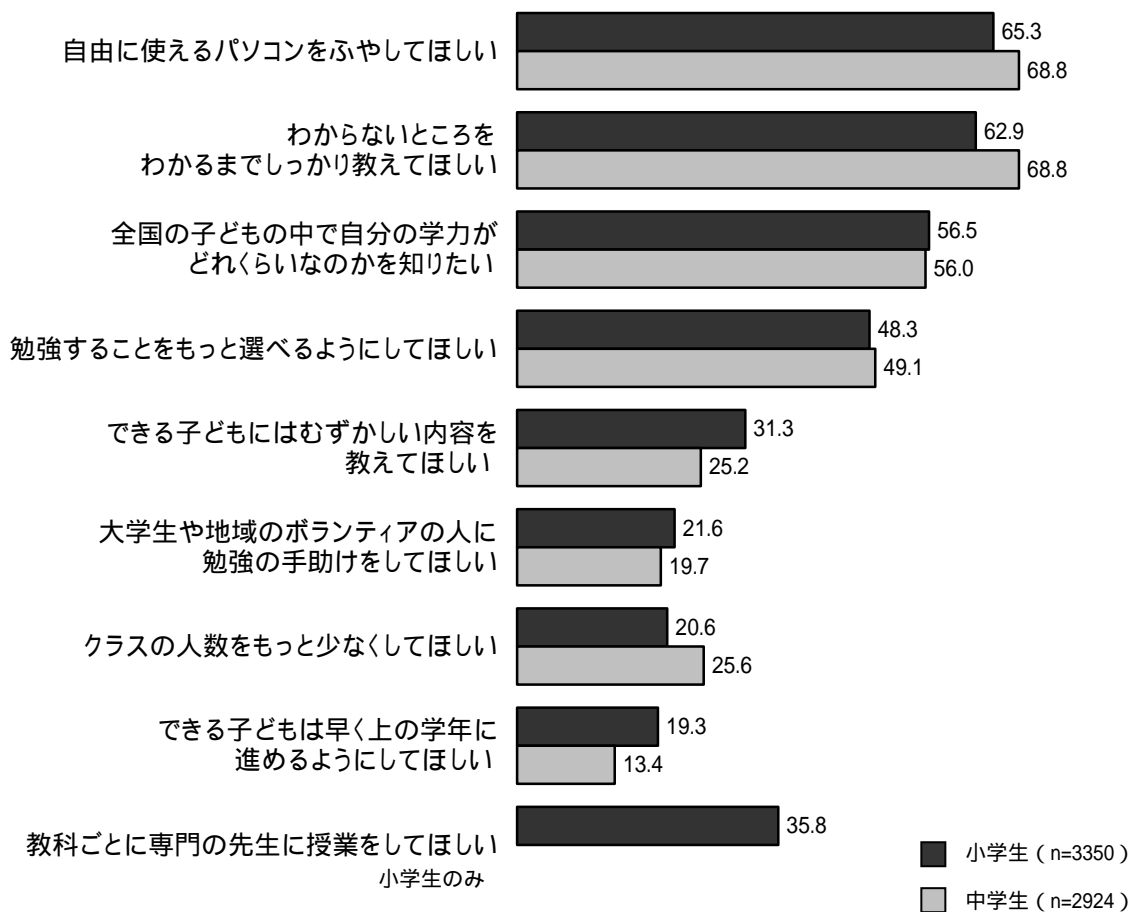
逆に、「そう思う」が少ない項目としては、「できる子どもは早く上の学年に進めるようにしてほしい」(13.4%)「大学生や地域のボランティアの人に勉強の手助けをしてほしい」(19.7%)「できる子どもにはむずかしい内容を教えてほしい」(25.2%)などである。

図2-5-2 学校や先生に望むこと(中学生)



「学校や先生に望むこと」を、学校段階別に図2-5-3に示した。中学生に比べて小学生に「そう思う」の回答が多い項目は、「できる子どもにはむずかしい内容を教えてほしい」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：小学生 31.3% > 中学生 25.2%、以下同様)、「できる子どもは早く上の学年に進めるようにしてほしい」(19.3% > 13.4%) などである。反対に、中学生のほうが「そう思う」比率が高いのは、「わからないところをわかるまでしっかり教えてほしい」(62.9% < 68.8%)、「クラスの人数をもっと少なくしてほしい」(20.6% < 25.6%) などである。

図2-5-3 学校や先生に望むこと(学校段階別)

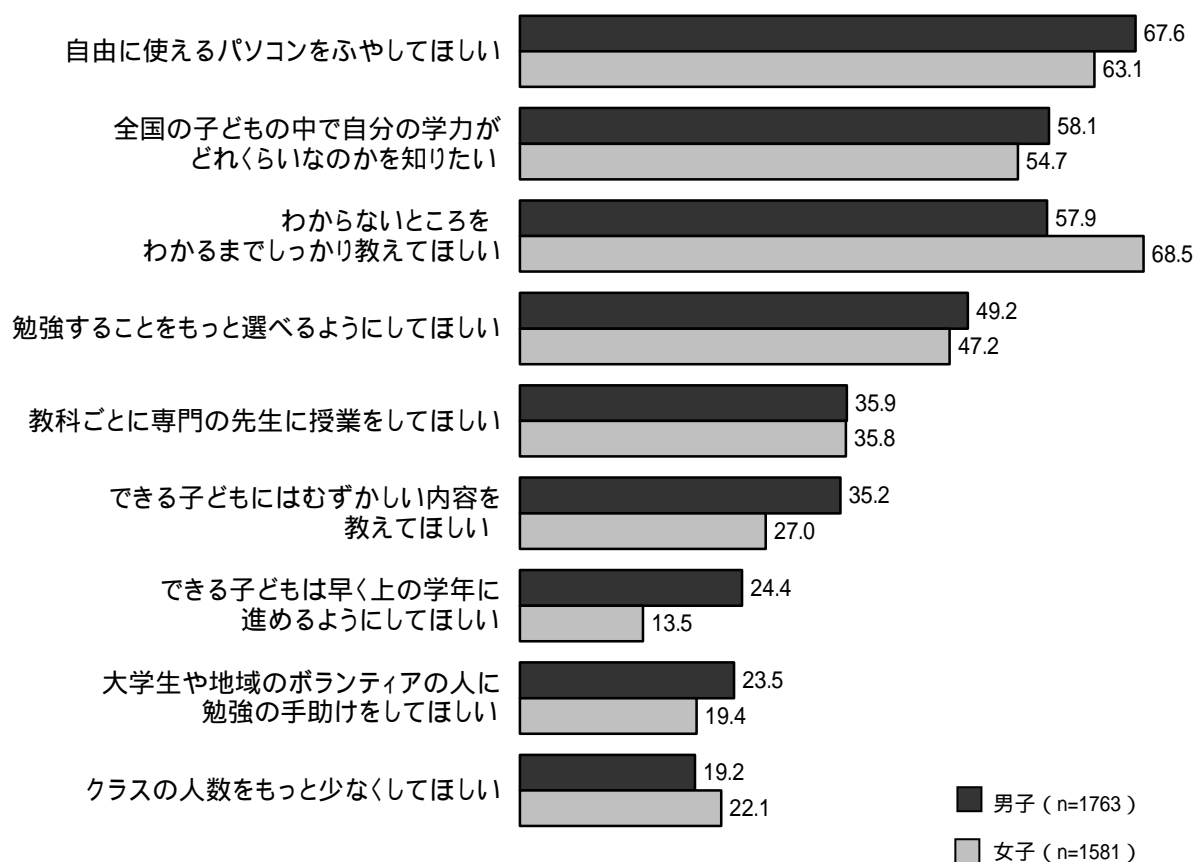


\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

小学生について、「学校や先生に望むこと」を性別に見たのが、**図2-5-4**である。「できる子どもは早く上の学年に進めるようにしてほしい」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：男子24.4% > 女子13.5%、以下同様)、「わからないところをわかるまでしっかり教えて欲しい」(57.9% < 68.5%)、「できる子どもにはむずかしい内容を教えてほしい」(35.2% > 27.0%)などで性差があった。

総じて、男子により高度な内容を望む児童が多く、女子に丁寧な指導を望む児童が多いという結果になっている。

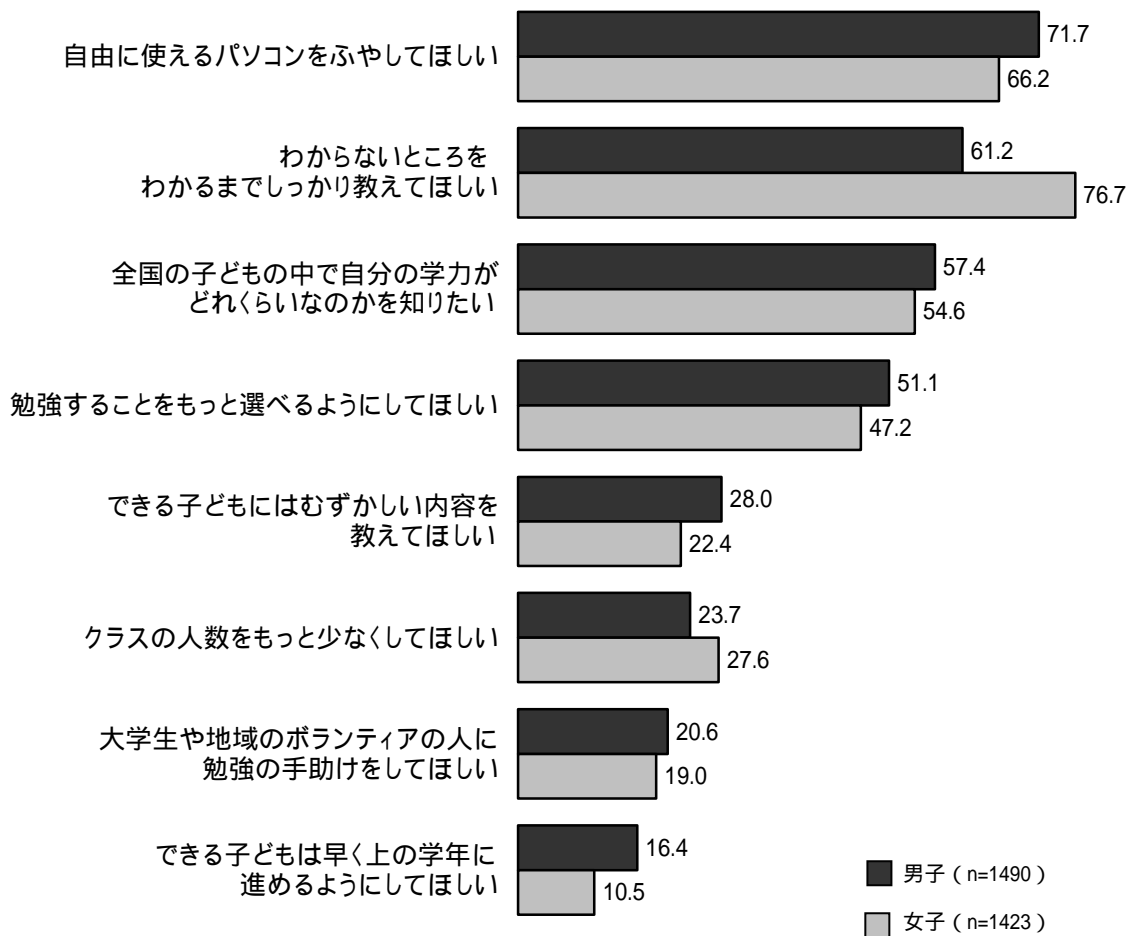
**図2-5-4 学校や先生に望むこと(小学生・性別)**



\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

中学生について、「学校や先生に望むこと」を性別に見たのが、**図2-5-5**である。男女で差が見られた項目としては、「わからないところをわかるまでしっかり教えてほしい」(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計：男子 61.2% < 女子 76.7%、以下同様)、**「できる子どもは早く上の学年に進めるようにしてほしい」**(16.4% > 10.5%)、**「できる子どもにはむずかしい内容を教えてほしい」**(28.0% > 22.4%)、**「自由に使えるパソコンをふやしてほしい」**(71.7% > 66.2%)などで、傾向は小学生と同様であった。

**図2-5-5 学校や先生に望むこと(中学生・性別)**



\* 「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計(%)

### 3章 家庭での生活の様子と将来の仕事

#### 1. 就寝時間と起床時間

##### (1) 平日の就寝時間

平日の就寝時間について、学校段階別に図3-1-1に示した。小学生では、午後「10時ごろ」、中学生では、午後「11時ごろ」～「12時ごろ」がピークとなっている。

図3-1-1 平日の就寝時間（学校段階別）

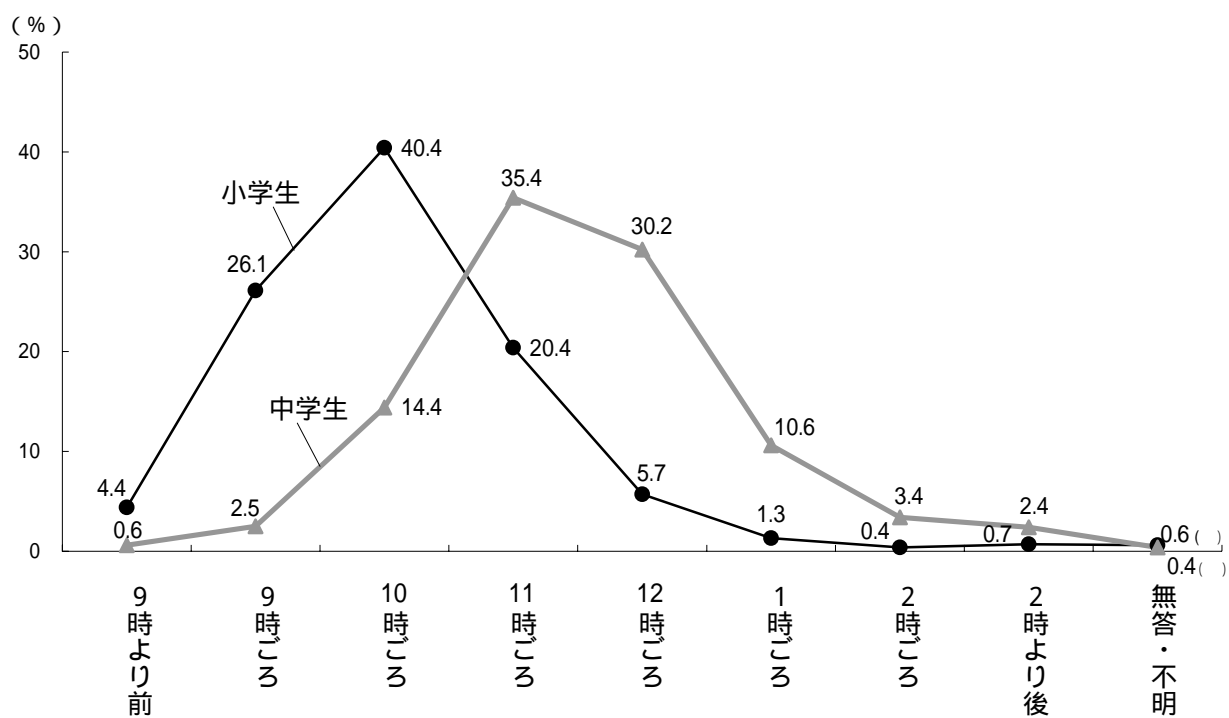
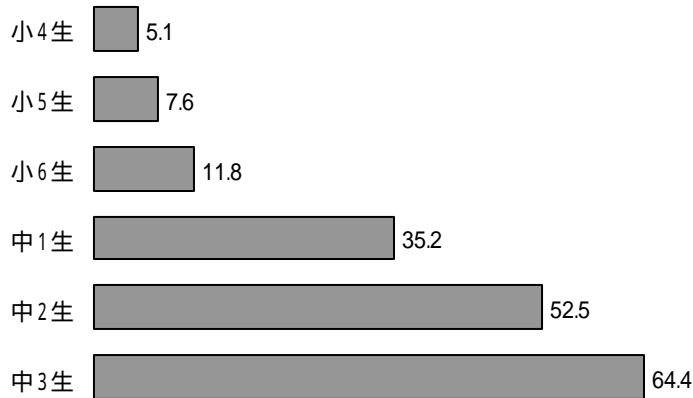


図3-1-2では、午後12時以降に就寝する子どもの比率(「12時ごろ」「1時ごろ」「2時ごろ」「2時より後」の合計)を示した。学年が上がるにつれて、その比率は高まり、中2生、中3生では5割以上が午後12時以降に就寝していることがわかる。

図3-1-2 平日、午後12時以降に就寝する割合(学年別)

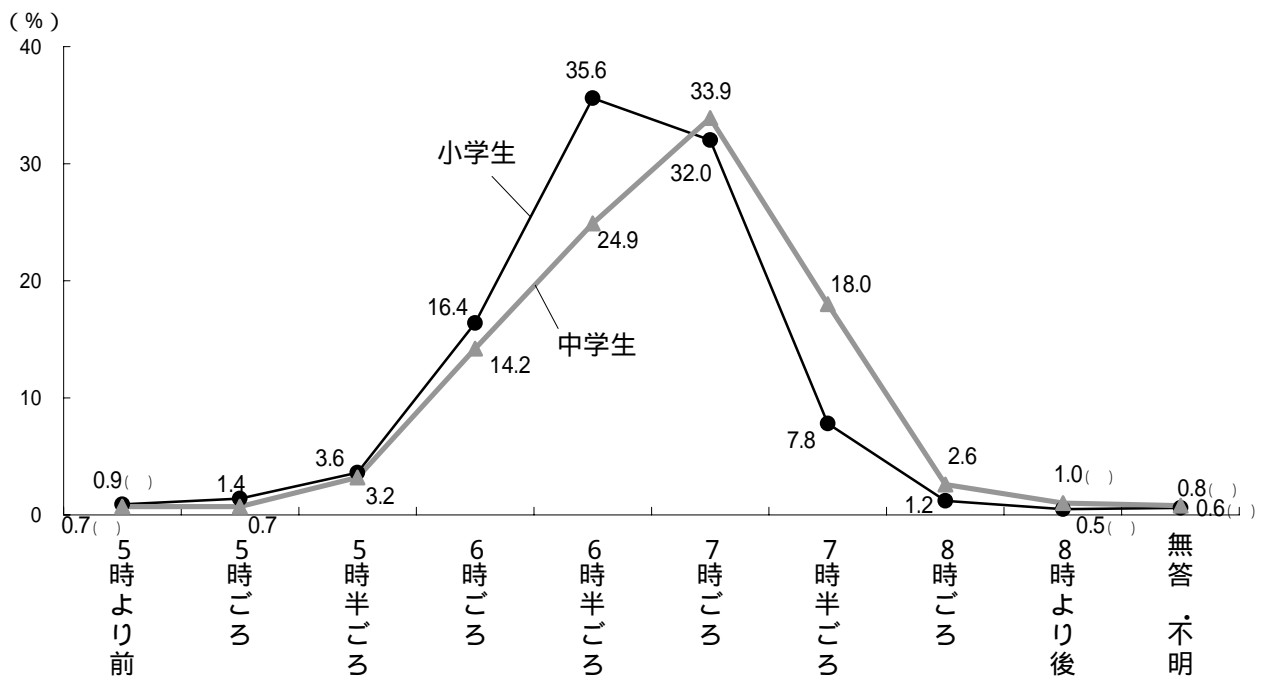


\* 「12時ごろ」「1時ごろ」「2時ごろ」「2時より後」の合計 (%)

(2) 平日の起床時間

学校段階別にみた平日の起床時間を図3-1-3に示した。小学生では「6時半ごろ」から「7時ごろ」に起床する割合が高く、中学生では「7時ごろ」がピークとなっている。

図3-1-3 平日の起床時間(学校段階別)



## 2. 朝食の様子

### (1) 朝食をとっているか

朝食をとっているかどうかについて、小・中学生に聞いた結果を図3-2-1に示した。小学生では8割以上、中学生でも8割弱が「毎日、食べている」と回答している。ただし、「朝ごはんは、ほとんど食べない」という回答は、中学生では7.3%にのぼる。

図3-2-2では、「毎日、食べている」と回答した児童生徒の比率を学年別に示した。これを見ると、毎日朝食をとっている比率は学年とともに低下する傾向があることがわかる。

図3-2-1 朝食の様子（学校段階別）

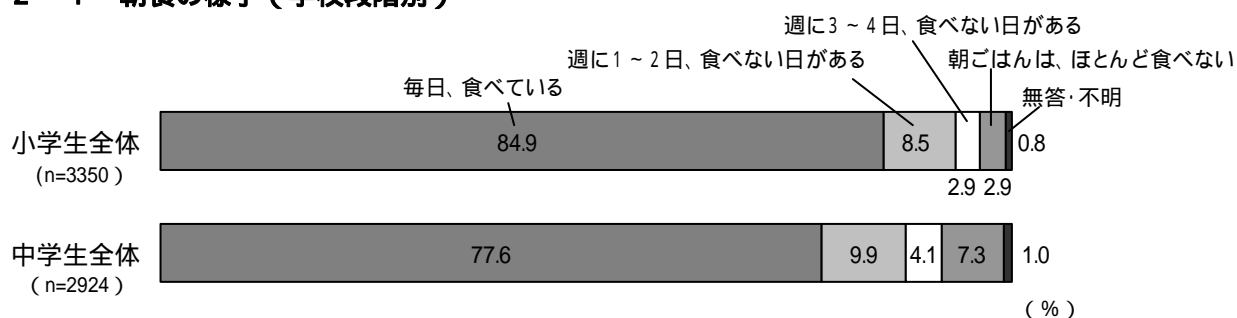
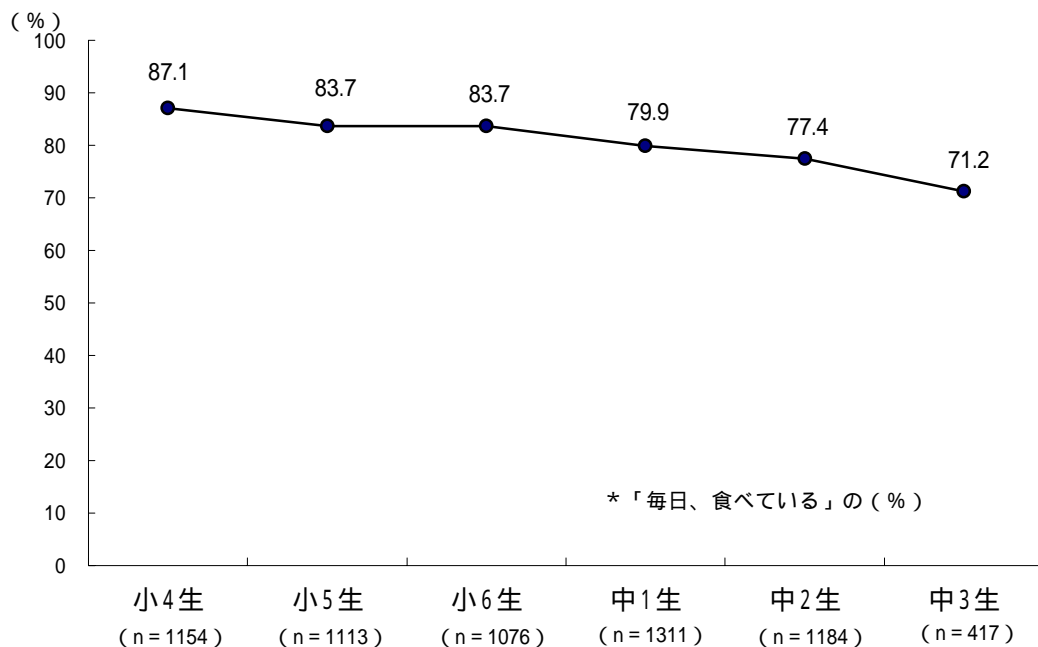


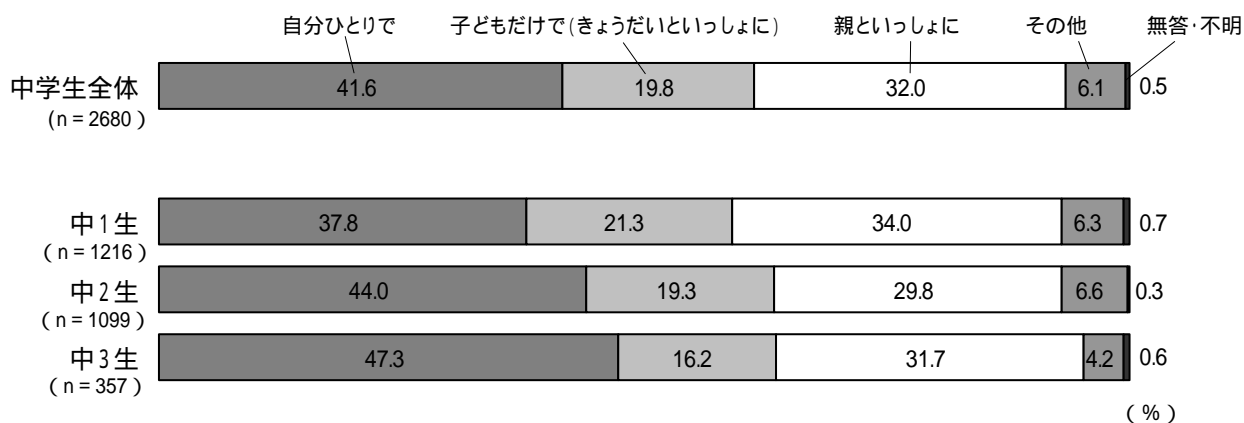
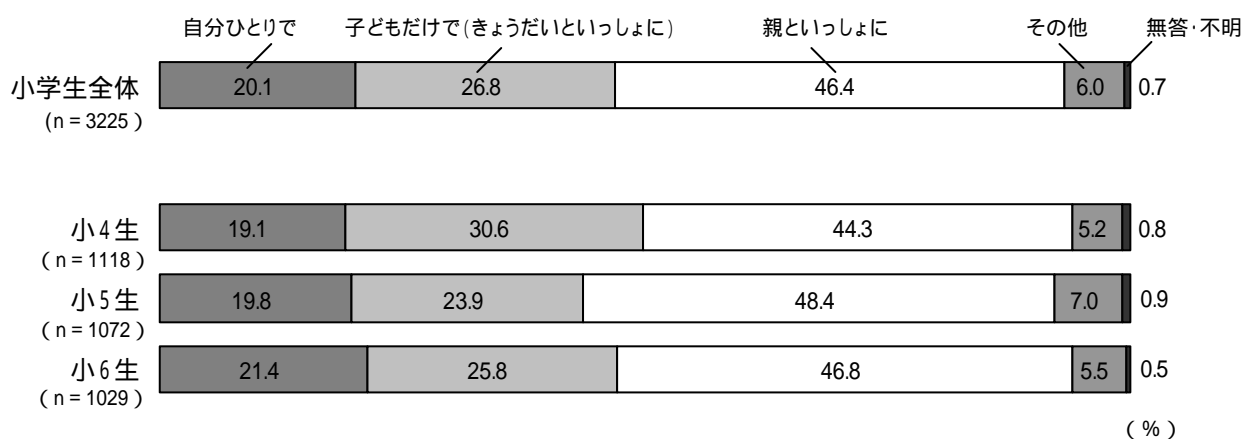
図3-2-2 朝食の様子（毎日、食べている・学年別）





## (2)朝食を誰と食べるか

つづいて、朝ごはんについての質問に「毎日、食べている」「週に1～2日、食べない日がある」「週に3～4日、食べない日がある」と回答した児童生徒に対して、誰といっしょに食べるか聞いた。その結果を学校段階別、学年別にみたのが、**図3-2-3**である。中学生になると、「自分ひとりで」の割合が高くなり、「親といっしょに」を上回るようになる。

**図3-2-3 いっしょに朝食をとる人（学校段階別・学年別）**

\*朝ごはんについての設問で、「毎日、食べている」「週に1～2日、食べない日がある」「週に3～4日、食べない日がある」と回答した小学生 (n=3225) と中学生 (n=2680) を母数としている。

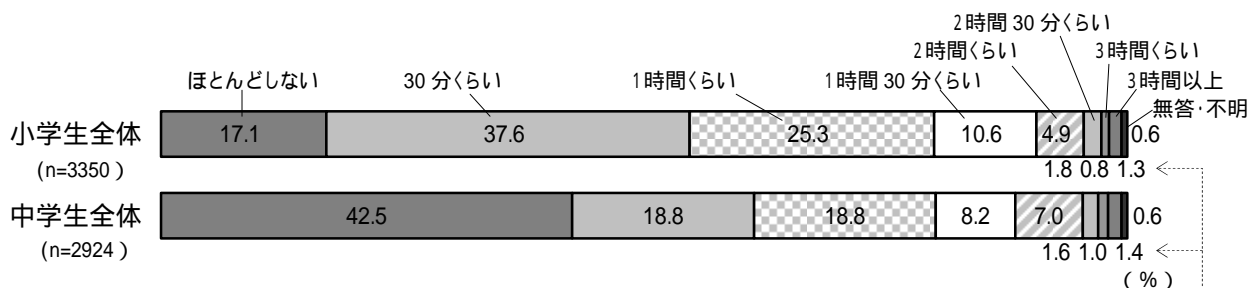
### 3. 家庭学習の様子

#### (1) 平日の家庭学習時間

家庭でどれくらい勉強しているかたずねた結果を、学校段階別に図3-3-1に示した。塾で勉強する時間を除いて回答してもらったが、家での勉強を「ほとんどしない」という比率は「小学生」で17.1%だが、「中学生」では42.5%に達し、もっとも多い回答であった。小学生は「30分くらい」がもっとも多くなっている。

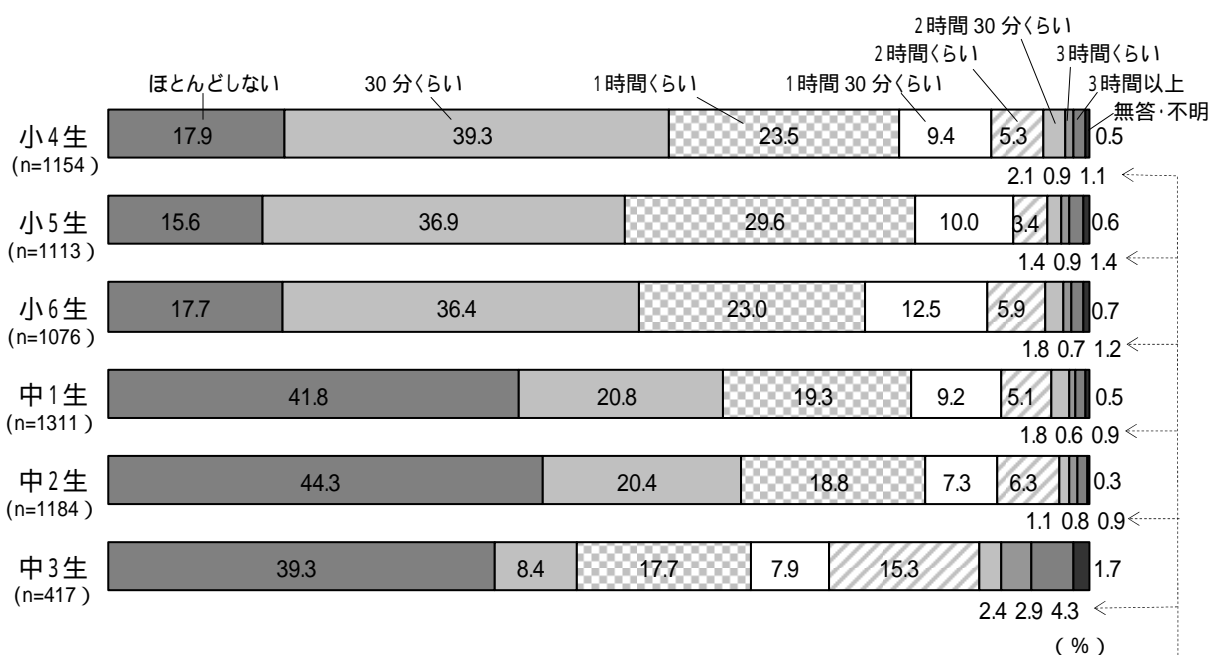
さらに、この結果を学年別に示したのが、図3-3-2である。「ほとんどしない」割合は小6生から中1生にかけて大きく増える。また、中3生は約4人に1人(24.9%)が2時間以上(「2時間くらい」「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」の合計)勉強していると回答している。

図3-3-1 平日の家庭学習時間(学校段階別)



\* 数値は左から「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」を示す。

図3-3-2 平日の家庭学習時間(学年別)



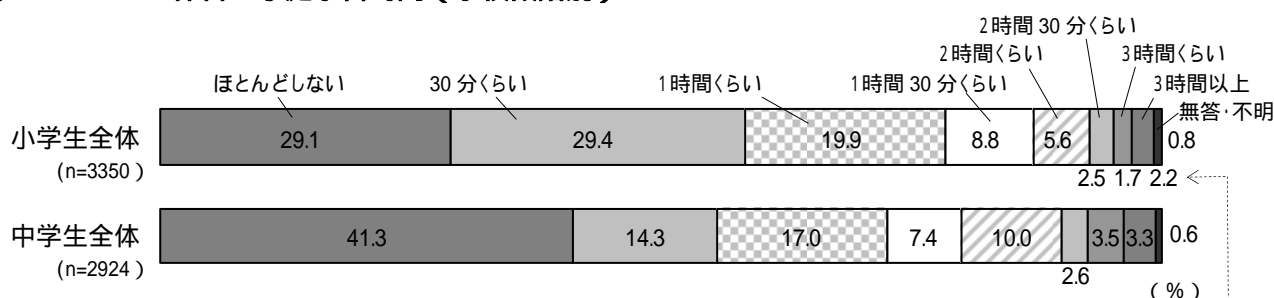
\* 数値は左から「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」を示す。

(2) 休日の家庭学習時間

次に、休日（学校がない日）の家での勉強時間を、**図3-3-3**に示した。「ほとんどしない」と回答した比率は小学生で29.1%、中学生で41.3%であった。その一方で、2時間以上（「2時間くらい」「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」の合計）勉強している割合も、小学生で約1割（12.0%）、中学生で約2割（19.4%）いる。

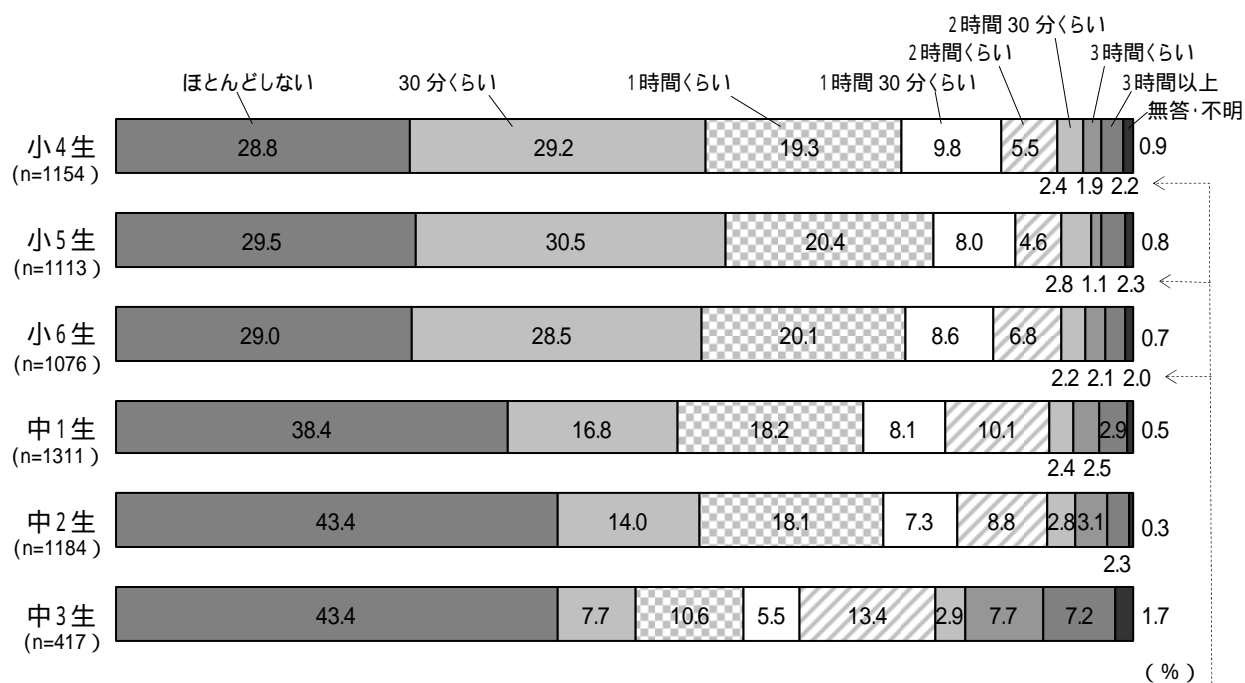
この結果を学年別にみたところ（**図3-3-4**）「ほとんどしない」と「2時間以上」の割合が中学生で高く、中学生になると勉強する子としない子がはっきり分かれる様子が見える。

**図3-3-3 休日の家庭学習時間（学校段階別）**



\* 数値は左から「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」を示す。

**図3-3-4 休日の家庭学習時間（学年別）**



\* 数値は左から「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」を示す。

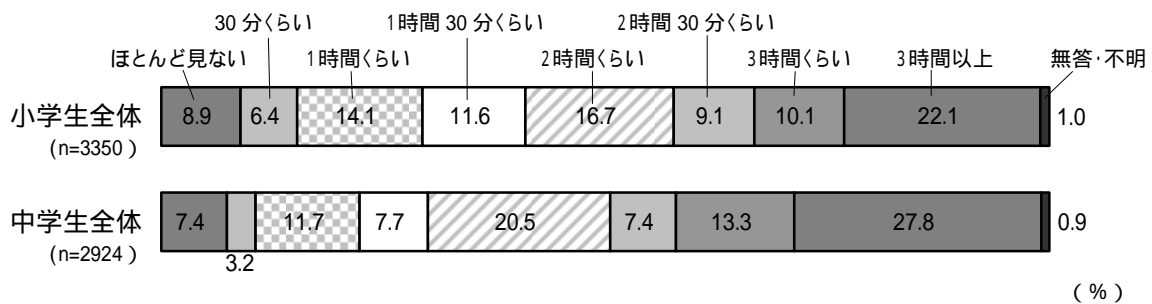
#### 4. テレビ視聴、テレビゲームの時間

##### (1) 平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間

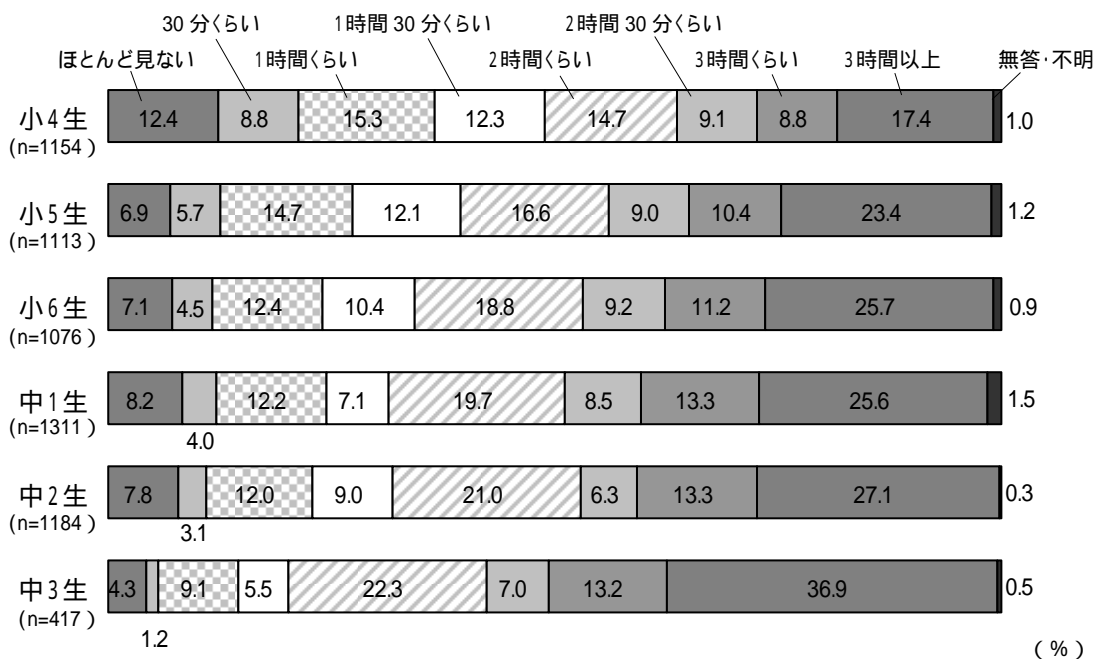
平日（学校がある日）のテレビやビデオ・DVDの視聴時間についてたずねた結果を、**図3-4-1**に示した。「3時間くらい」を超えてテレビやビデオ・DVDを見る子どもの割合（「3時間くらい」と「3時間以上」の合計）は小学生で32.2%、中学生で41.1%にのぼり、長い時間にわたってテレビを見ている児童生徒が多い様子が見える。

**図3-4-2**では、平日（学校がある日）のテレビやビデオ・DVDの学年別の視聴時間を学年別に示した。学年が上がるにつれて、視聴時間が長くなる様子が見える。

**図3-4-1 平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間（学校段階別）**



**図3-4-2 平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間（学年別）**



(2) 休日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間

休日（学校がない日）のテレビやビデオ・DVDの視聴時間について、学校段階別に図3-4-3に示した。3時間より長く視聴する割合（「3時間くらい」と「3時間以上」の合計）は、小学生で約5割（48.3%）、中学生では6割以上（64.7%）にのぼる。

同じ結果を学年別に示したのが、図3-4-4である。学年が上がるにつれて視聴時間は長くなり、中学生ではどの学年でも6割以上が「3時間くらい」よりも長く視聴している。

図3-4-3 休日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間（学校段階別）

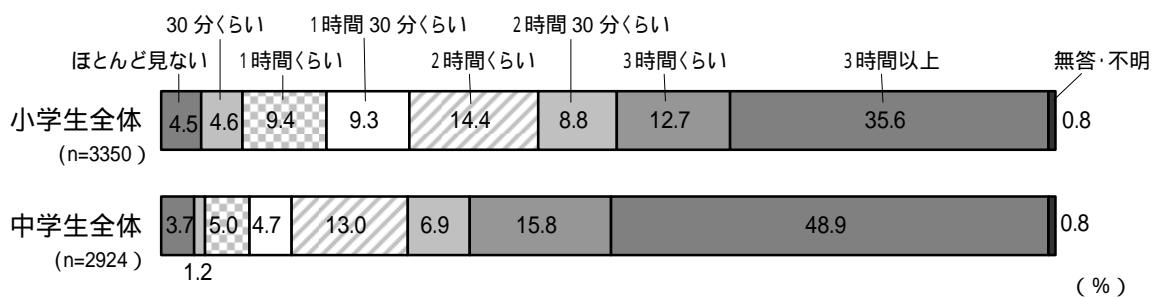
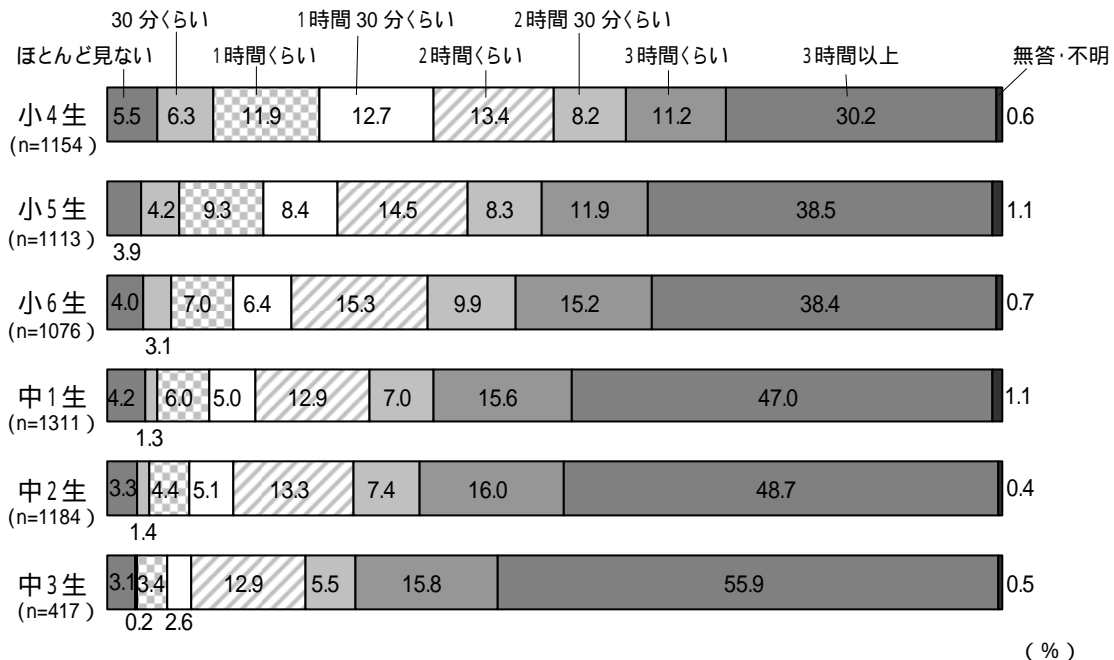


図3-4-4 休日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間（学年別）



### (3) 平日のテレビゲームの時間

平日（学校がある日）のテレビゲームやパソコンゲームをする時間を、学校段階別に図3-4-5に示した。「ほとんどしない」という回答が小学生では36.3%、中学生では45.9%ともっとも多い一方で、2時間以上する割合（「2時間くらい」「2時間30分くらい」「3時間くらい」「3時間以上」の合計）も小学生で17.4%、中学生で20.2%いる。

つづいて、学年別にみた結果を図3-4-6に示した。小学生では学年別の傾向は見られないが、中学生では学年が上がるにつれて長時間ゲームをする傾向が見られる。

図3-4-5 平日のテレビゲームの時間（学校段階別）

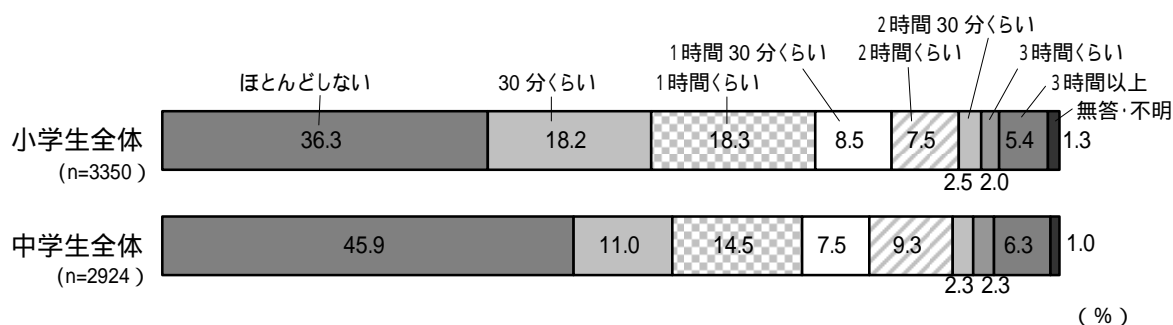
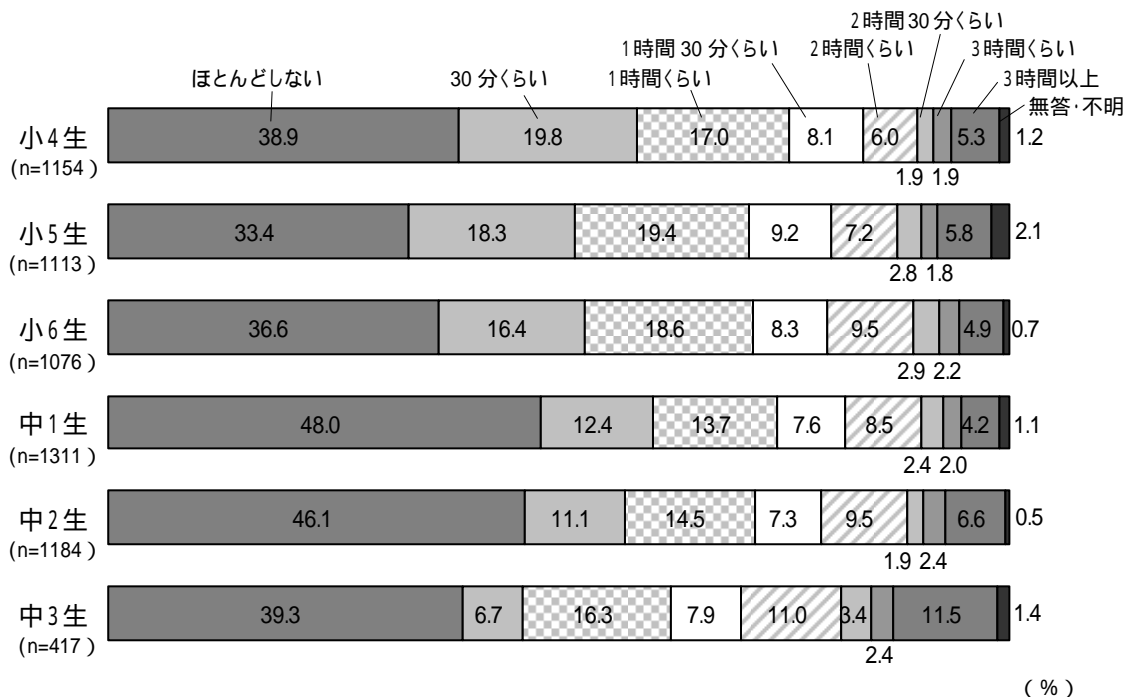
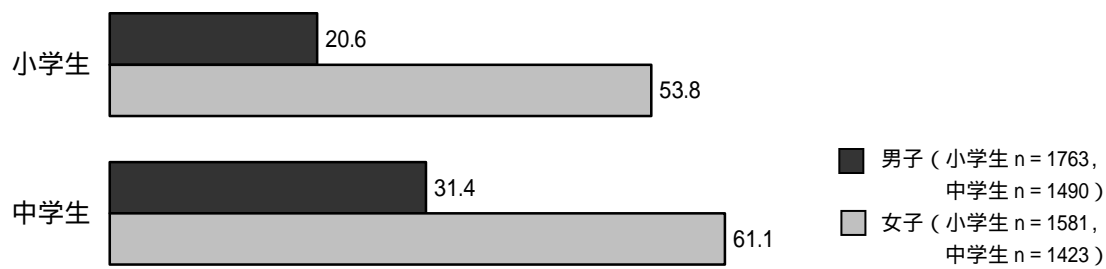


図3-4-6 平日のテレビゲームの時間（学年別）



さらに、平日（学校がある日）にテレビゲームやパソコンゲームを「ほとんどしない」と答えた比率を、学校段階ごとに性別で図3-4-7に示した。小・中学生ともに、男子よりも女子のほうがゲームをしない傾向が明らかである。

図3-4-7 平日のテレビゲームの様子（ほとんどしない・学校段階別・性別）



\* 「ほとんどしない」の比率 (%)

(4) 休日のテレビゲームの時間

つづいて、休日（学校がない日）にテレビゲームやパソコンゲームをする時間を、学校段階ごとに図3-4-8に示した。2時間以上ゲームをする割合（「2時間くらい」と「2時間30分くらい」と「3時間くらい」と「3時間以上」の合計）は平日よりも増え、小学生で30.9%、中学生で40.6%にのぼる。「ほとんどしない」割合は、小学生で26.3%、中学生で31.7%である。

これを学年別に示したのが、図3-4-9である。2時間以上ゲームをする割合でみると、学年が上がるにつれてゲームをする時間が長くなっていることがわかる。

図3-4-8 休日のテレビゲームの時間（学校段階別）

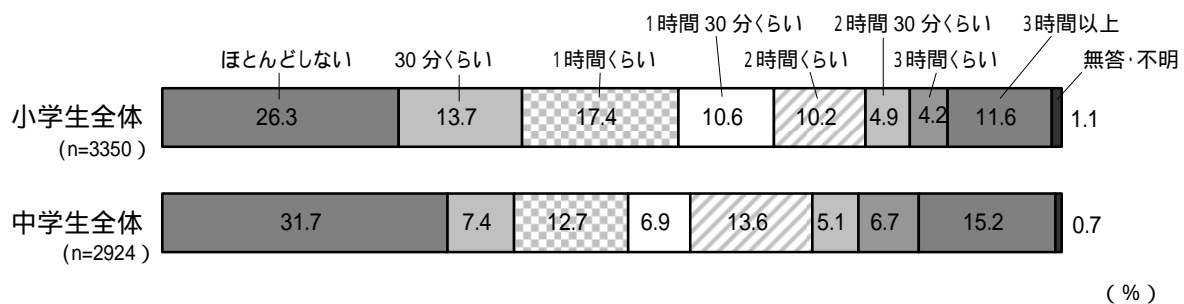
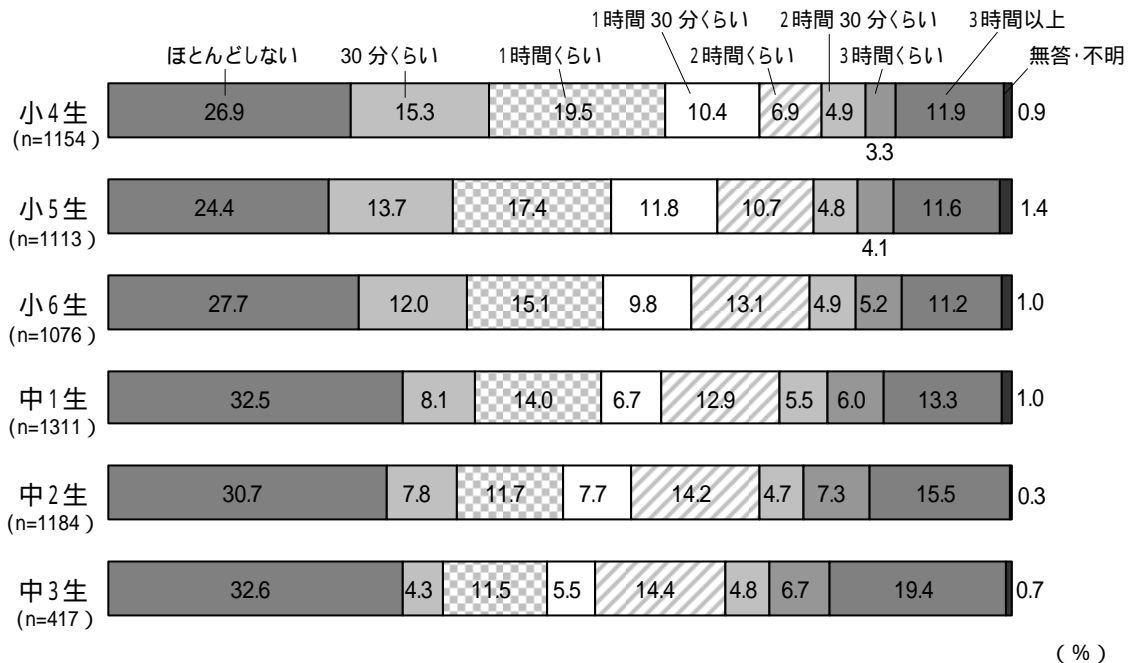


図3-4-9 休日のテレビゲームの時間（学年別）





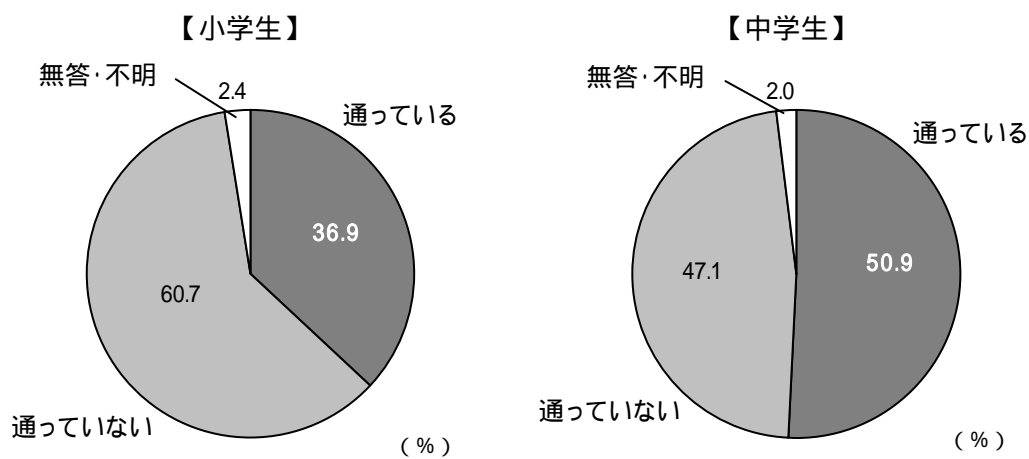
## 5 . 学習塾

### (1)学習塾に通っているか

次に、学習塾に通っているかどうかをたずねた結果を示そう(図3 - 5 - 1)。小学生については、「通っている」と答えた割合は36.9%で、「通っていない」と答えた割合は60.7%であった。約3人に1人程度の児童が学習塾に通っていることがわかる。

中学生については、「通っている」と答えた割合は50.9%で「通っていない」と答えた割合は47.1%であった。中学生は、約2人に1人の生徒が学習塾に通っていることがわかる。

図3 - 5 - 1 通塾の状況(学校段階別)



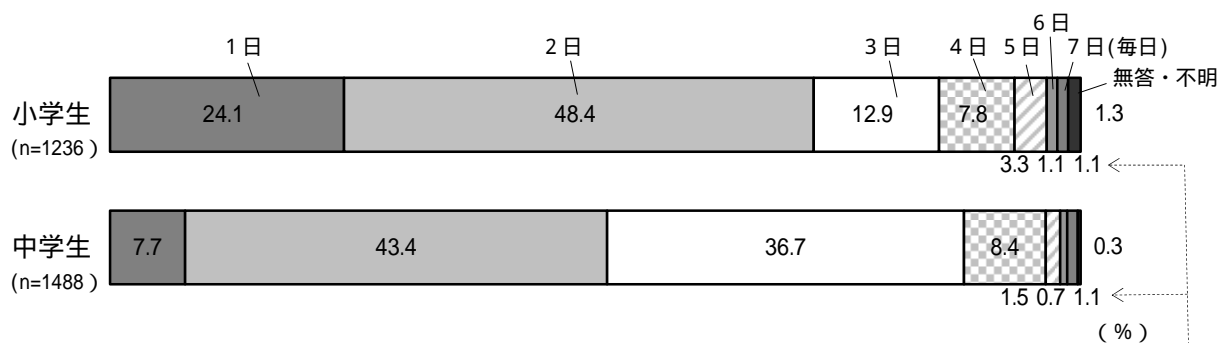
(2)通塾の日数

次に、学習塾に通っていると回答した小学生（1,236名）中学生（1,488名）に対して、その学習塾に週に何日くらい行っているかをたずねた（図3-5-2）。小学生は、「2日」と答えた割合が48.4%ともっとも多かった。つづいて、「1日」（24.1%）、「3日」（12.9%）が多く、「6日」「7日」と答えている比率はわずかであった。

中学生も、小学生と同様に、「2日」と答えた割合が、43.4%ともっとも多かった。つづいて、「3日」（36.7%）、「1日」（7.7%）が多くなっている。

小学生と中学生を比較すると、「1日」（小学生24.1% > 中学生7.7%）と答えた比率は小学生に多く、「3日」（小学生12.9% < 中学生36.7%）、「4日」（小学生7.8% < 中学生8.4%）の比率は中学生のほうが多い。

図3-5-2 週あたりの通塾日数（学校段階別）



\* 数値は左から「5日」「6日」「7日(毎日)」を示す。

\* 通塾についての設問で、「通っている」と回答した小学生（n=1236）と中学生（n=1488）を母数としている。

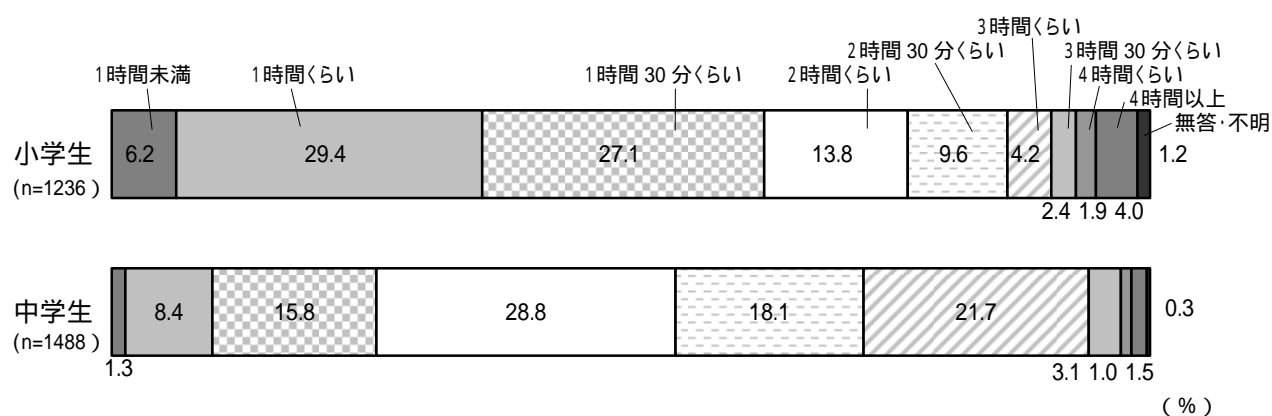
## (3) 1回あたりの学習時間

前項で、小・中学生ともに、通塾している児童生徒は、週に「2日」を中心に「1日」～「3日」程度の日数を通っている比率が高いことが示された。それでは、塾では1回あたりどれくらいの時間、勉強しているのだろうか。

図3-5-3は、1回あたりの塾での学習時間を示している。小学生は、「1時間くらい」(29.4%)の割合がもっとも多く、つづいて「1時間30分くらい」(27.1%)が多かった。それぞれを合計した比率は56.5%となり、小学生の約半数は、1回あたり1時間から1時間半程度の勉強をしている。しかし、3時間以上の回答(「3時間くらい」「3時間30分くらい」「4時間くらい」「4時間以上」の合計)も12.5%あって、通塾する児童の中には長時間の勉強をしている者もいる。

中学生は、「2時間くらい」(28.8%)と答えた割合がもっとも多く、つづいて「3時間くらい」(21.7%)が多かった。全体的に見て、小学生よりも中学生の方が、塾での1回あたりの学習時間が長いことがわかる。

図3-5-3 1回あたりの学習時間(学校段階別)

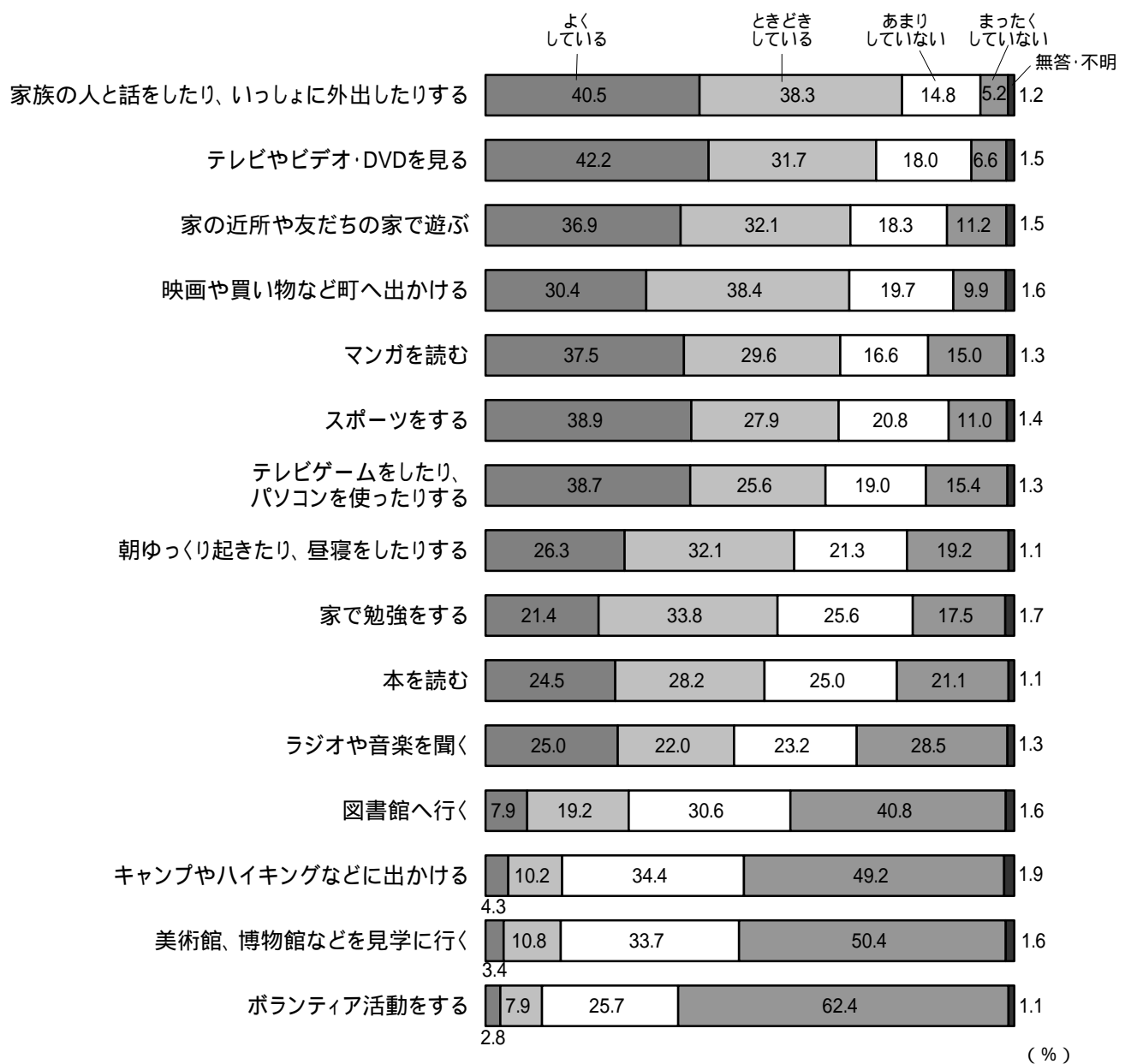


## 6. 休日の過ごし方

図3-6-1は、小学生に対して、休日（学校がない日）に次のようなことをどれくらいするかをたずねた結果である。「している」「よくしている」と「ときどきしている」の合計、以下同様）という回答がもっとも多かったのは、「家族の人と話をしたり、いっしょに外出したりする」(78.8%)で、次に多かったのは、「テレビやビデオ・DVDを見る」(73.9%)であり、この2項目が70%を超えていた。

一方、「している」という割合が少なかったものは、「キャンプやハイキングなどに出かける」(14.5%)、「美術館、博物館などを見学に行く」(14.2%)、「ボランティア活動をする」(10.7%)であった。

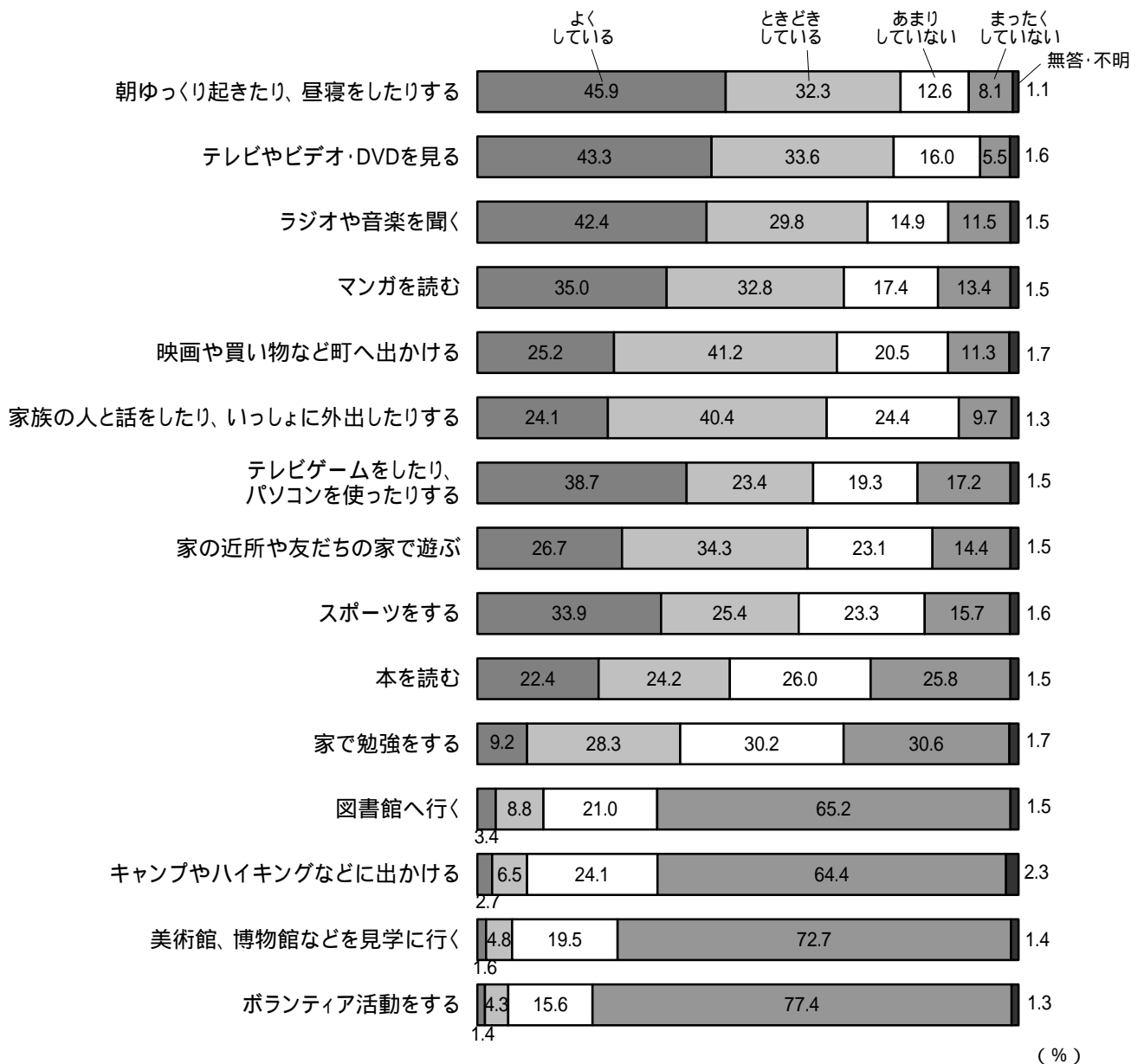
図3-6-1 休日の過ごし方（小学生）



中学生にも同様に、休日（学校がない日）に次のようなことをどれくらいするかをたずねた。その結果が、**図3-6-2**である。「している」「よくしている」と「ときどきしている」の合計、以下同様）と答えた割合がもっとも多かったのは、「朝ゆっくり起きたり、昼寝をしたりする」(78.2%)で、次に多かったのは、「テレビやビデオ・DVDを見る」(76.9%)、「ラジオや音楽を聞く」(72.2%)であり、この3項目が70%を超えていた。

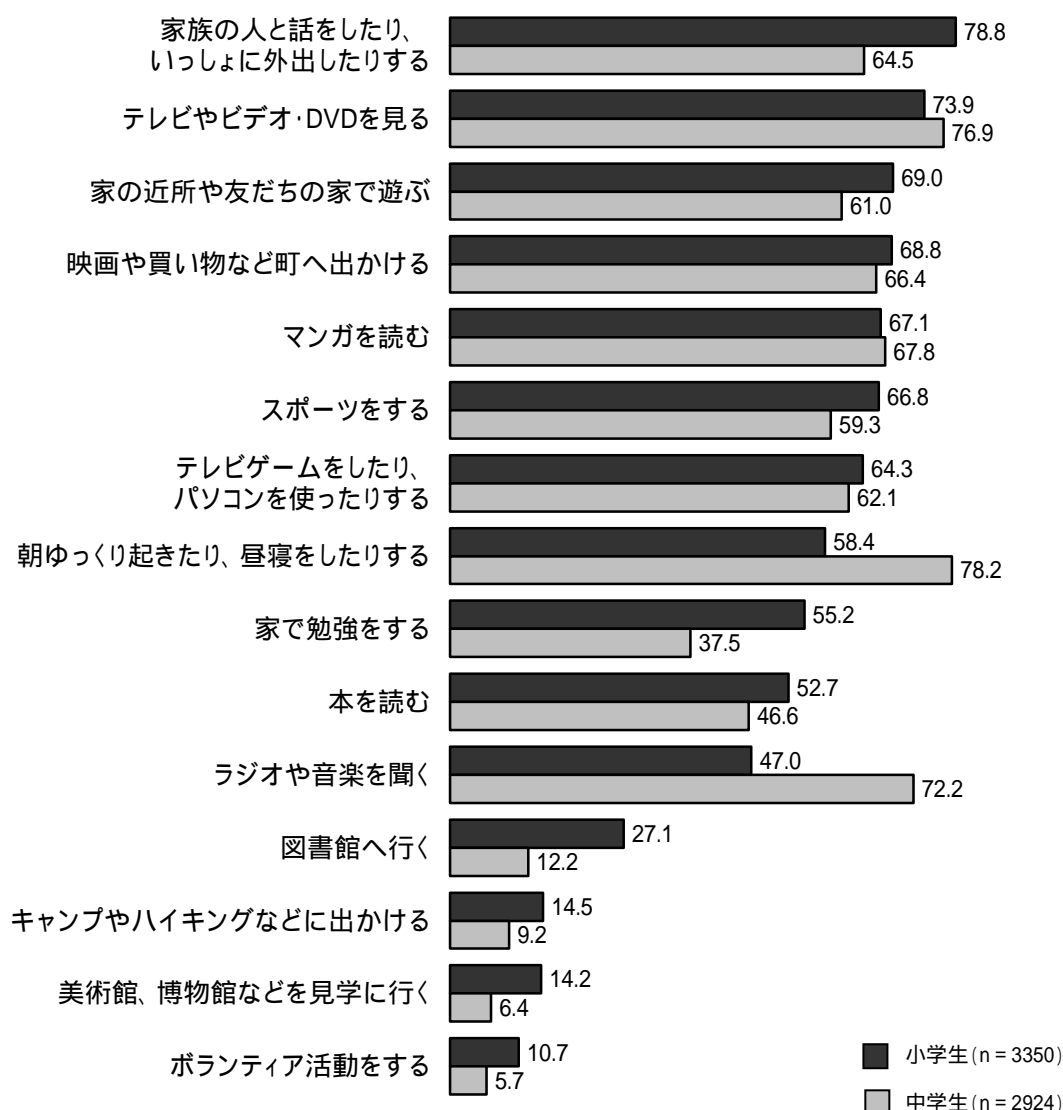
一方、「している」という割合が少なかったものは、「キャンプやハイキングなどに出かける」(9.2%)、「美術館、博物館などを見学に行く」(6.4%)、「ボランティア活動をする」(5.7%)であり、いずれも10%を切っている。また、「家で勉強をする」(小学生 55.2% > 中学生 37.5%)は、小学生に多い結果となっている。

**図3-6-2 休日の過ごし方（中学生）**



次に、休日の過ごし方の違いを学校段階別に見てみよう(図3-6-3)。小学生は、「家族の人と話をしたり、いっしょに外出したりする」(「よくしている」と「ときどきしている」の合計：小学生78.8% > 中学生64.5%、以下同様)「家で勉強をする」(55.2% > 37.5%)「図書館へ行く」(27.1% > 12.2%)などの項目で、中学生よりも「している」比率が高くなっている。一方、中学生のほうが「している」という回答が多い項目は、「朝ゆっくり起きたり、昼寝をしたりする」(58.4% < 78.2%)「ラジオや音楽を聞く」(47.0% < 72.2%)などで、休日をのんびり過ごす様子があらわれている。

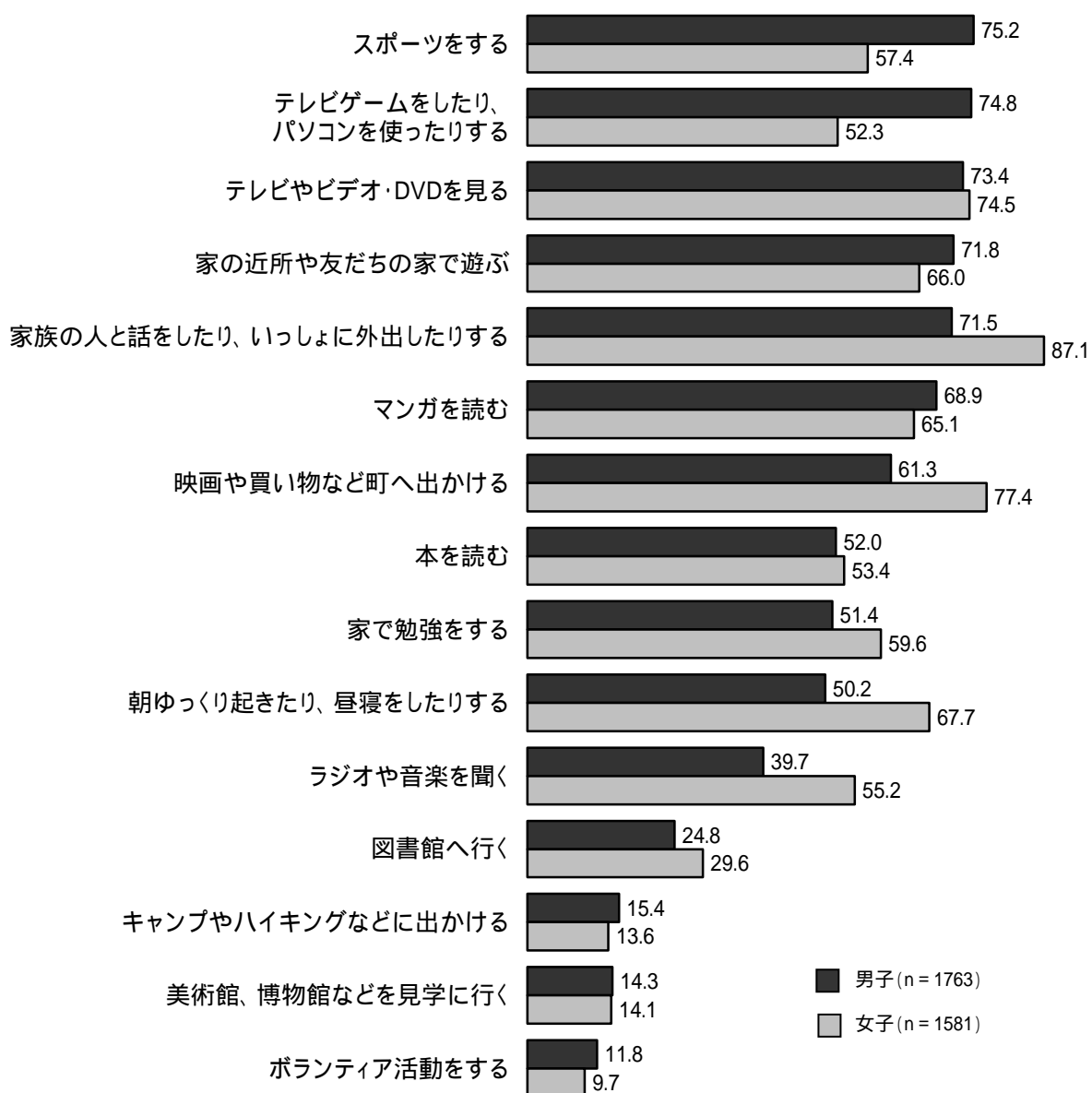
図3-6-3 休日の過ごし方(学校段階別)



\* 「よくしている」と「ときどきしている」の合計(%)

さらに、休日の過ごし方について、性による違いを確認しよう。最初に、小学生の結果（図3-6-4）である。男子は、「テレビゲームをしたり、パソコンを使ったりする」（「よくしている」と「ときどきしている」の合計：男子74.8%>女子52.3%、以下同様）、「スポーツをする」（75.2%>57.4%）の比率が高い。一方、女子では、「朝ゆっくり起きたり、昼寝をしたりする」（50.2%<67.7%）、「映画や買い物など町へ出かける」（61.3%<77.4%）、「家族の人と話をしたり、いっしょに外出したりする」（71.5%<87.1%）、「ラジオや音楽を聞く」（39.7%<55.2%）という回答が多くなっている。また、「家で勉強をする」（51.4%<59.6%）については、男子よりも女子の方が、8.2ポイント高い。

図3-6-4 休日の過ごし方（小学生・性別）

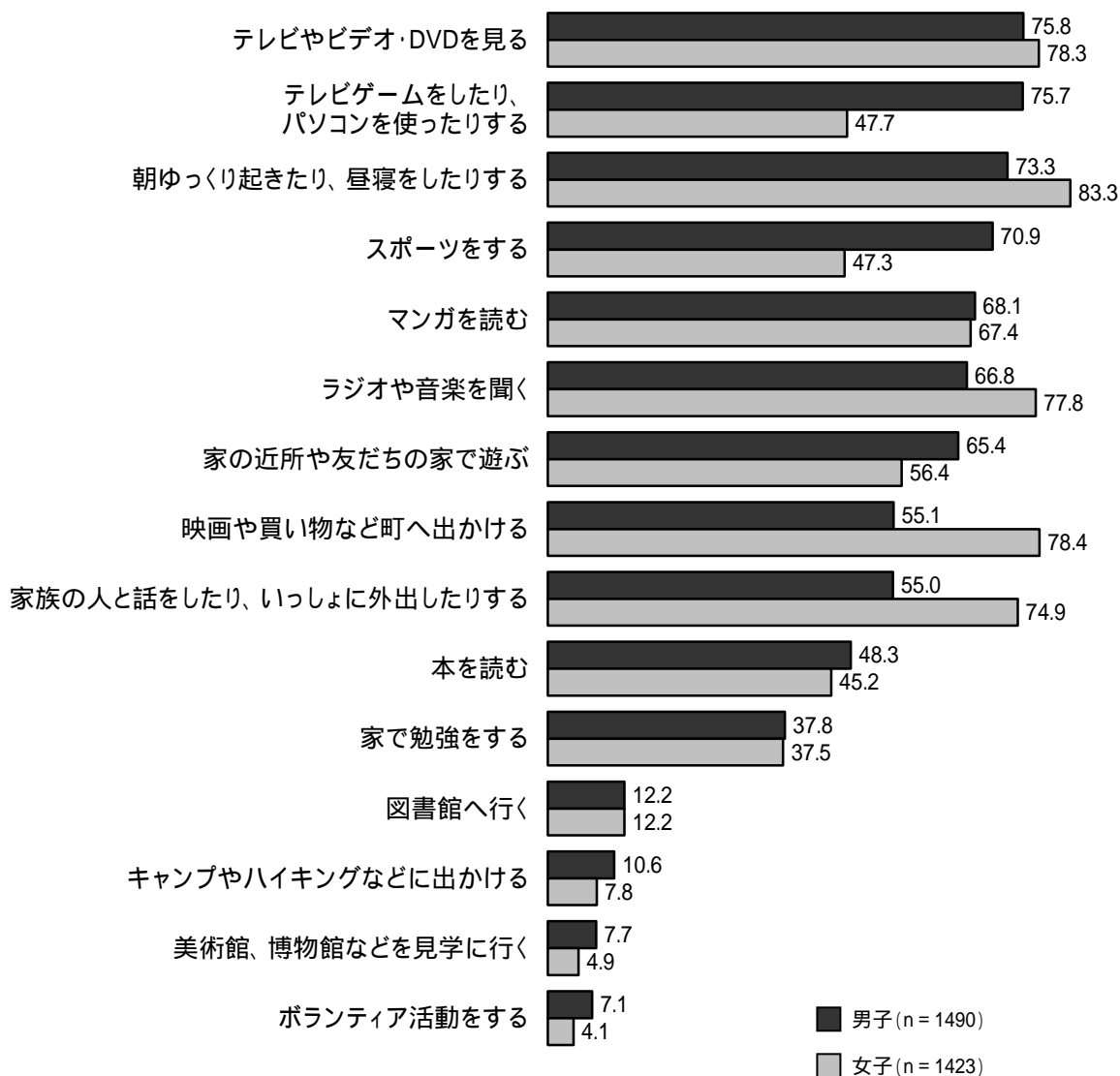


\* 「よくしている」と「ときどきしている」の合計 (%)

同様に中学生について、休日の過ごし方を性別に見てみよう（図3-6-5）。

男子は、「テレビゲームをしたり、パソコンを使ったりする」（「よくしている」と「ときどきしている」の合計：男子75.7%>女子47.7%、以下同様）、「スポーツをする」（70.9%>47.3%）で「している」という回答が多くなっている。一方、女子では、「映画や買い物など町へ出かける」（55.1%<78.4%）、「家族の人と話をしたり、いっしょに外出したりする」（55.0%<74.9%）が多いという結果になっている。

図3-6-5 休日の過ごし方（中学生・性別）



\* 「よくしている」と「ときどきしている」の合計 (%)



## 7. 将来の仕事

### (1) なりたい仕事の有無

質問紙の最後の設問で、「将来のなりたい仕事」についてたずねた。

はじめに、なりたい仕事があるかどうかをたずねたところ、小・中学生ともに「なりたい仕事があるが、何となく決まっている」(小学生 35.6%、中学生 36.8%)という回答がもっとも多かった(図3-7-1)。

この回答につづいて、小学生は「なりたい仕事があるが、はっきり決まっている」(33.5%)が多い。一方、中学生は、「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」(29.5%)が多いという結果になっている。なりたい仕事があるが「決まっている」(「なりたい仕事があるが、はっきり決まっている」と「なりたい仕事があるが、何となく決まっている」の合計)という回答は、中学生よりも小学生のほうが多かった(小学生 69.1% > 中学生 60.1%)。

さらに、学校段階別に性による違いがあるかを見てみたのが、図3-7-2である。小・中学生いずれも、なりたい仕事があるが「決まっている」(「なりたい仕事があるが、はっきり決まっている」と「なりたい仕事があるが、何となく決まっている」の合計)と回答する比率は、男子に比べて女子のほうが多い。

図3-7-1 なりたい仕事の有無(学校段階別)

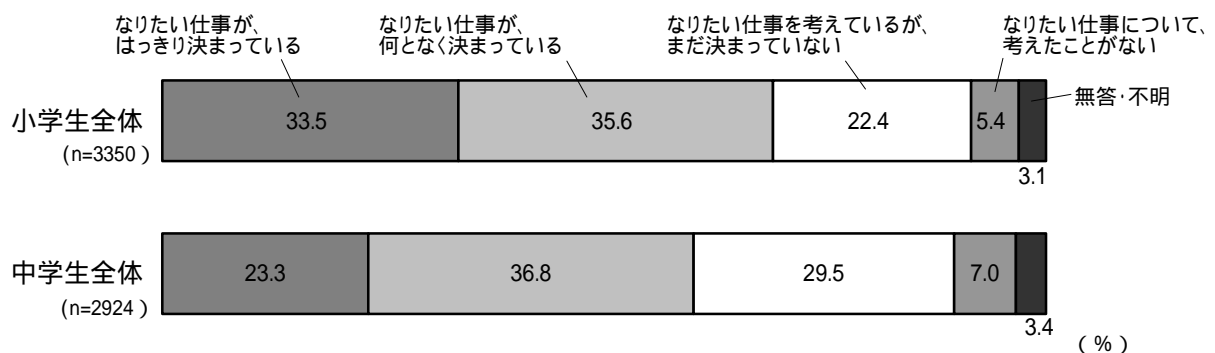
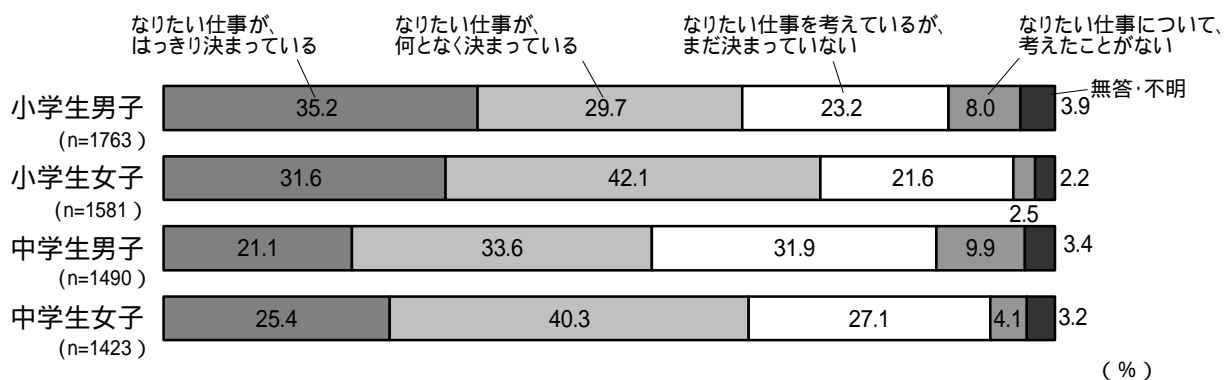


図3-7-2 なりたい仕事の有無(学校段階別・性別)

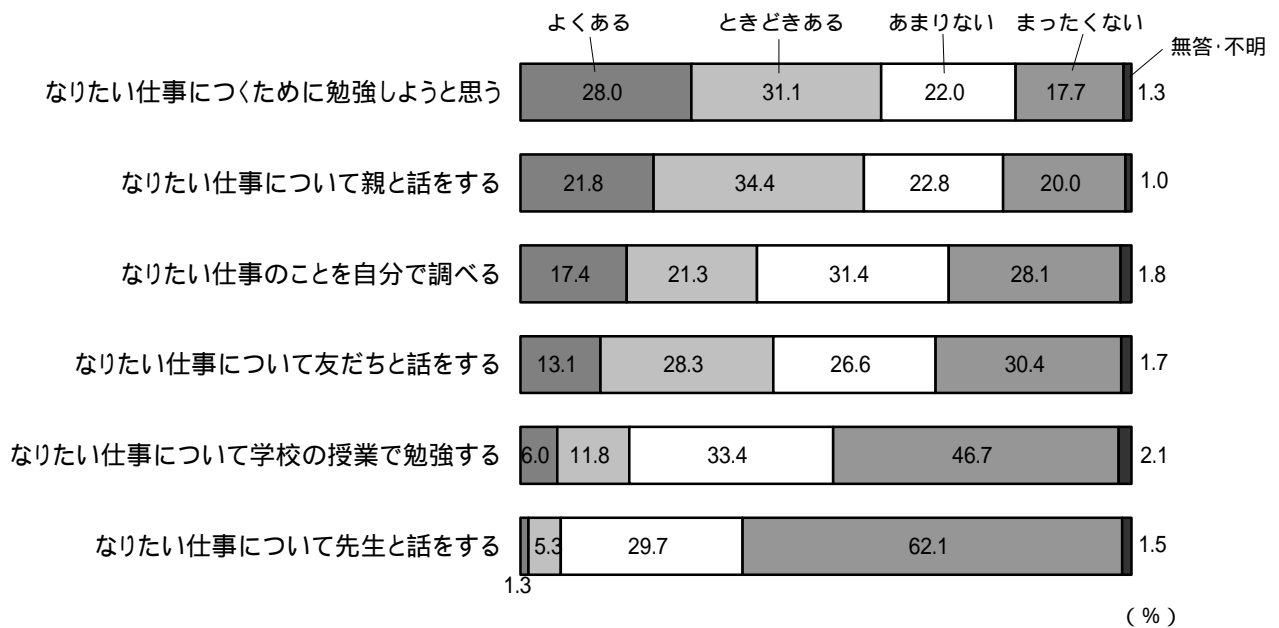


(2)なりたい仕事に関してすること

次に、前の質問で「なりたい仕事について、考えたことがない」と回答した児童生徒を除外し、「なりたい仕事が、はっきり決まっている」「なりたい仕事が、何となく決まっている」「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した児童生徒に対して、なりたい仕事に関してすることをたずねた。

図3-7-3は、小学生(3,065名)の回答結果である。「ある」と答えた比率が高かったのは、「なりたい仕事につくために勉強しようと思う」(「よくある」と「ときどきある」の合計:59.1%、以下同様)「なりたい仕事について親と話をする」(56.2%)であった。逆に、低いのは、「なりたい仕事について学校の授業で勉強する」(17.8%)、「なりたい仕事について先生と話をする」(6.6%)となっており、学校で仕事について考える機会は少ないようだ。

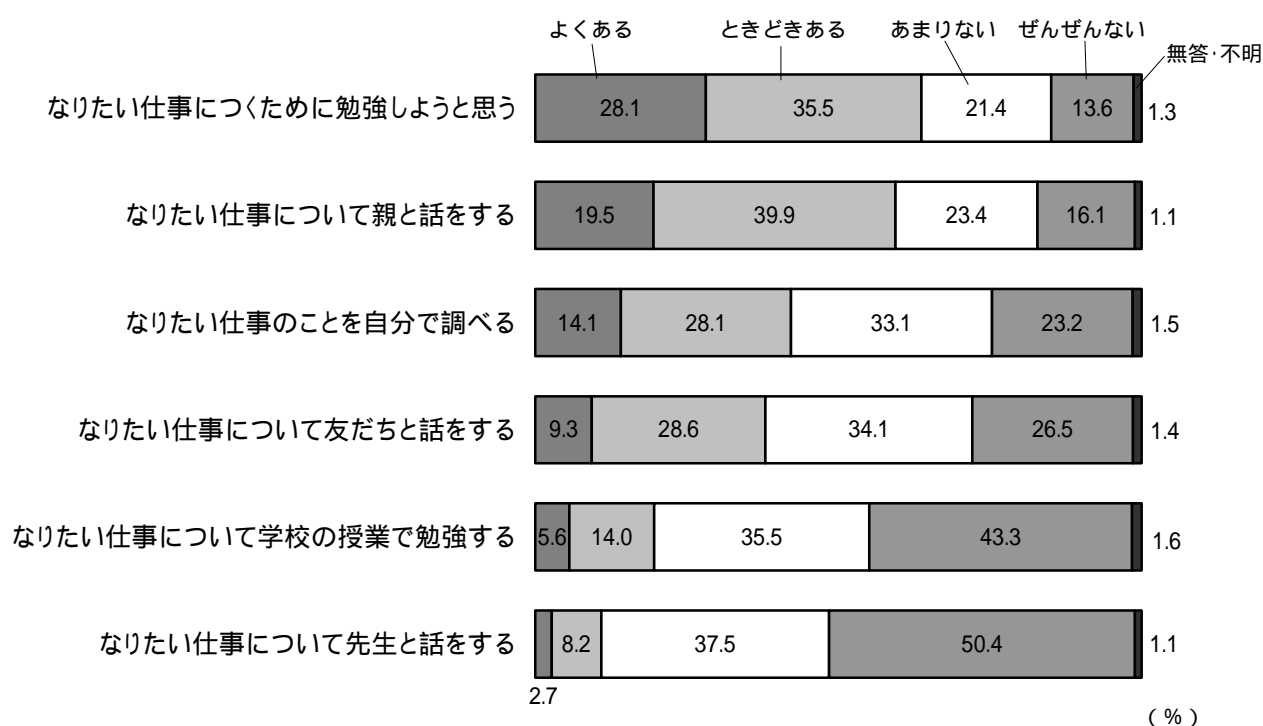
図3-7-3 なりたい仕事に関してすること(小学生)



\*なりたい仕事についての設問で、「なりたい仕事が、はっきり決まっている」「なりたい仕事が、何となく決まっている」「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した小学生(n=3065)を母数としている。

図3-7-4は、「なりたい仕事に関してすること」についての中学生(2,619名)の回答結果である。「ある」という回答が多かったのは、「なりたい仕事につくために勉強しようと思う」(「よくある」と「ときどきある」の合計:63.6%、以下同様)、「なりたい仕事について親と話をする」(59.4%)であった。逆に、少ないのは、「なりたい仕事について学校の授業で勉強する」(19.6%)、「なりたい仕事について先生と話をする」(10.9%)となっている。小学生よりも若干割合が高いものの、学校で仕事について考える機会は、中学生でもやはり多いとはいえないようである。

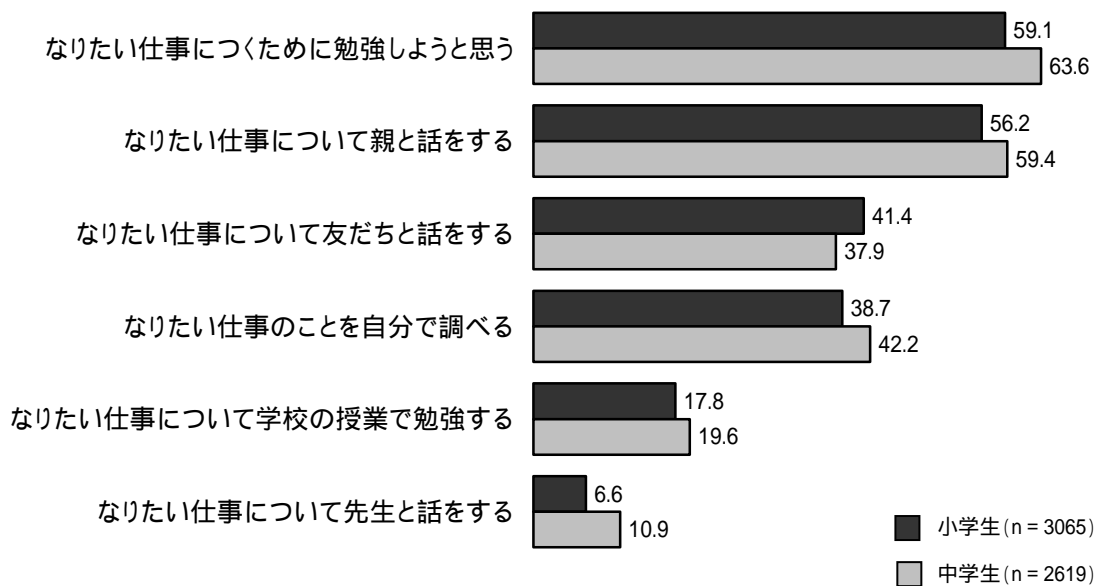
図3-7-4 なりたい仕事に関してすること(中学生)



\*なりたい仕事についての設問で、「なりたい仕事が、はっきり決まっている」「なりたい仕事が、何となく決まっている」「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した中学生(n=2619)を母数としている。

「ある」「よくある」と「ときどきある」の合計)と答えた比率に注目して「なりたい仕事に関してすること」を学校段階別に見たところ(図3-7-5)「なりたい仕事について友だちと話をする」(「よくある」と「ときどきある」の合計：小学生 41.4% > 中学生 37.9%)以外の項目については、小学生よりも中学生で若干多いという結果になっている。

図3-7-5 なりたい仕事に関してすること(学校段階別)

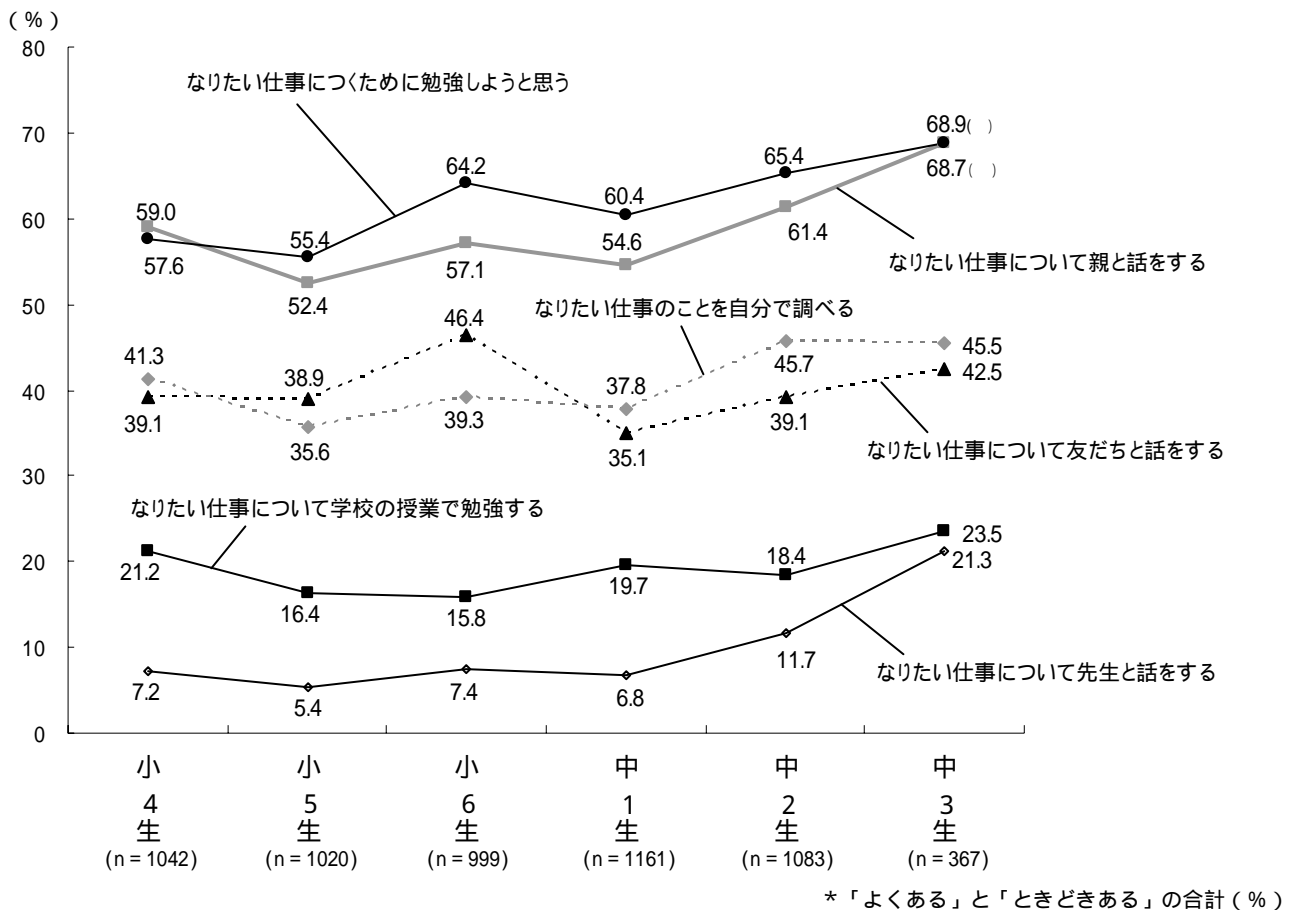


\* 「よくある」と「ときどきある」の合計 (%)

\* なりたい仕事についての設問で、「なりたい仕事は、はっきり決まっている」「なりたい仕事は、何となく決まっている」「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した小学生 (n=3065) と中学生 (n=2619) を、それぞれの母数としている。

さらに、「なりたい仕事に関してすること」を学年別に見たのが(図3-7-6)である。「なりたい仕事につくために勉強しようと思う」と「なりたい仕事について親と話をする」が50~70%('よくある'と'ときどきある'の合計、以下同様)の範囲に、「なりたい仕事のことを自分で調べる」と「なりたい仕事について友だちと話をする」が35~50%の範囲に、「なりたい仕事について学校の授業で勉強する」と「なりたい仕事について先生と話をする」が5~25%の範囲で推移している。それぞれ、各学年で若干の入れ替わりは生じているものの、「なりたい仕事について先生と話をする」については、各学年とも最下位となっている。また、全体的に見ると、中学生で学年が上がるほど「ある」('よくある'と'ときどきある'の合計)と答えた割合が高くなる傾向を示しており、仕事に対する意識が高まっていることがうかがえる。

図3-7-6 なりたい仕事に関してすること(学年別)



\* なりたい仕事についての設問で、「なりたい仕事が決まっている」「なりたい仕事が決まっている」「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」と回答した小学生(n=3065)と中学生(n=2619)を、それぞれの母数としている。